

---

---

## IV. 福祉関係団体調査結果

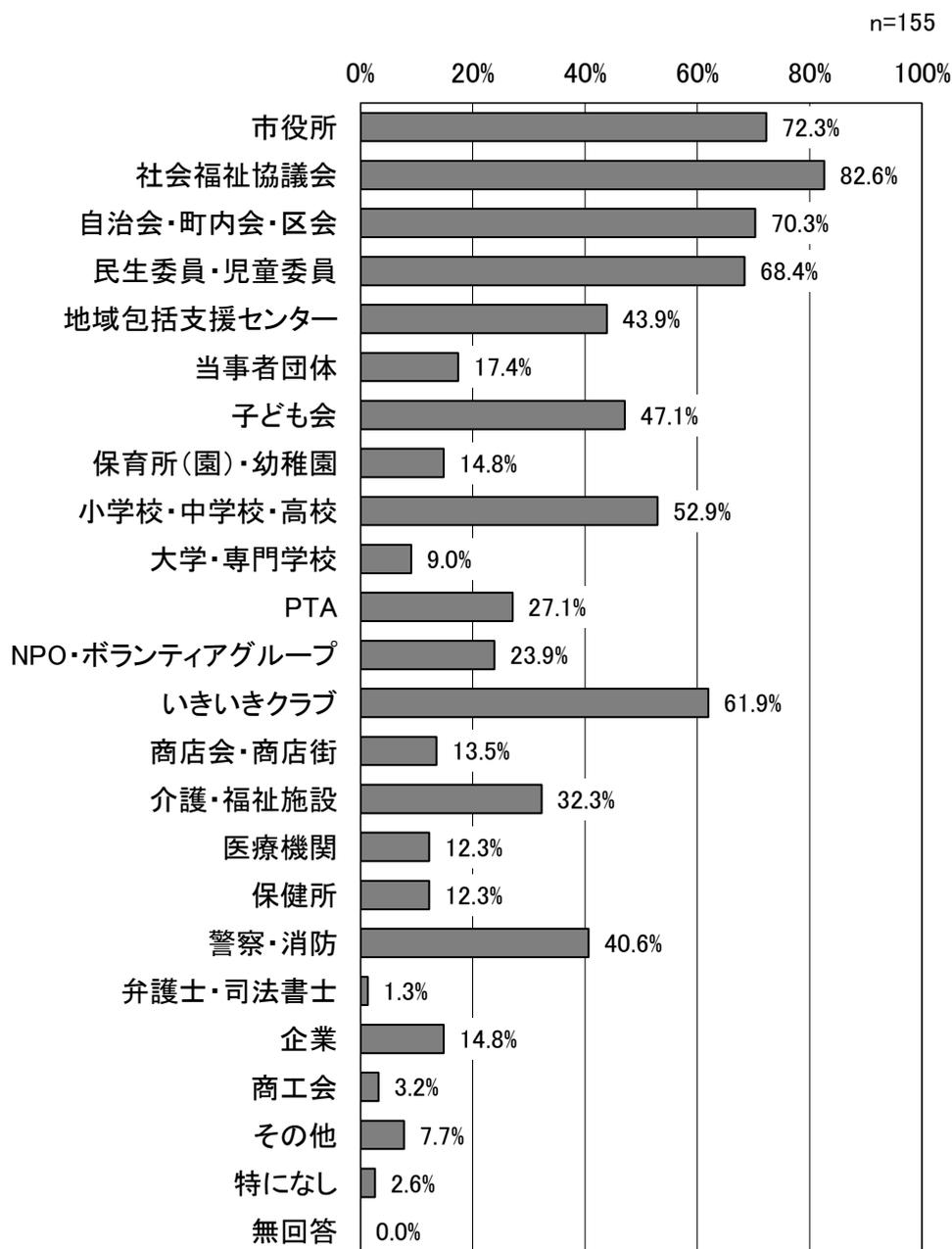
---

---

## 1. 貴団体の活動について

問1 貴団体では、活動を行う上で地域にある他の団体・機関などとの交流や連携、協力関係がありますか。(あてはまるものすべてに○)

活動を行う上で交流や連携、協力関係がある他の団体・機関については、「社会福祉協議会」が82.6%と最も高く、次いで「市役所」が72.3%、「自治会・町内会・区会」が70.3%となっています。



※問1で「1」から「22」のいずれかを選んだ団体にかがいます

問1-1 交流や連携、協力関係があると回答した団体・機関などどのような関係がありますか。(具体的に記入)

【市役所】

- 町内活動に助言、協力を仰いでいる。
- 諸団体より理事を出していただいている。諸活動の実行を委託。
- 共同での集合の開催、関連団体の事業の助成。(だんらんの家、いきいきクラブのサロン、支えあいの会活動への助成)
- 自治会連合会の開催：市役所、その他の団体からの情報、連絡。
- 各種案件の担当窓口などを案内してもらう。
- 高齢介護課(上尾市いきいきクラブの事務所)との連携、アドバイスを受ける。
- 報告、申請、要望、交付金、補助金等。
- 人的交流、防犯訓練、災害時の協力体制。
- 市役所で月1回会議。
- 地区住民の文化、福祉、その他活動支援、共同連携、清掃、見守り、防犯防災。
- お互いに協力し合う。
- 高齢介護課(補助金、活動指導)
- 自治統括員を通じて、様々な事業活動の連絡を受けている。
- 勉強会、情報源。
- 地域の相談者の相談事項の解決策等で行政担当窓口課との連携。
- 交通、防犯、防災、各種福祉事業の連携、支援業務。自治会活動に関わる全ての事業。
- 小泉支え合いの会の活動に助成。活動サポート。
- 情報交換、活動支援。
- 地域の行政管理の活動事項への対策依頼、要望等の申し入れ、補助金、支援金等の支給要請申請等の連携。
- 情報交換と連絡。
- 町内会自治会活動の個別項目毎に各団体・機関と連携、協力頂いています。
- 市から委託を受け運営、市役所職員実習受入、子ども子育て会議等会議出席、子ども若者相談センターとの連携等。
- 活動の担い手確保の為、ボランティア養成講座を実施したが、構成する講座の講師として、市の障害福祉課や支援事業所の職員さんに協力いただいた。
- 障がい者団体による駅での販売、芸術クラブの作品展、その他ボランティア活動。
- 様々な自治会活動を行ううえで、当然に各種団体との交流や連携、協力関係はある。例えば、地域サロン活動では、市役所、社協、地域包括支援センターなど、それぞれの事業実施のための連携協力をしている。
- 元気あっぴの時など、打ち合わせや協力をお願いしています。
- 視覚障害者への広報、議会だよりの録音、発送。活動場所の提供。情報提供。ラポールにて朗読会。
- 登録手続き。
- 「放課後子供教室」の教育活動サポーター。

- 障害福祉サービスを展開するにあたり、地域社会の理解を得ながら、町内会・自治会・学校・市役所・社協・他施設・当事者団体・保健所・ボランティア等の協力を得て運営をしている。
- 子供の利用状況や請求に関すること。地域の情報や事情に関すること。
- 補助金、活動支援。
- 各種申請書類の協力。(助成金、アンケート、他)
- 主に市民生活部市民協働推進課。
- 相互協力(住民からの要望事項等の取り次ぎ)
- 市民活動協働推進課を中心に各課方針に沿って連携を取っています。
- 地区の自治会連合会を通じ、市の様々な情報を得て自治会会員に情報を提供することができる。
- 活動への参加及び、サポート。
- 情報提供。
- 市からの依頼の対応や自治会への情報等、連絡調整を図り、ゴミ集積所の管理、清掃や防犯等の取り組み、福祉や募金運動等への協力。また、地区や地域の安全、自主防災の取り組み、独居老人等高齢者の見守りと助け合い等、地域の対応も必要とされている。そして、地域の文化(夏祭り等)の継承、自治会員等の親睦と会員の高齢化や担い手不足等、課題は少なくない。
- 敬老事業、環境美化活動、自治連合会、回覧配布等、防災活動、企業の外国人労働者の寮として活用。
- 町会として、市役所、社協、小中学校、PTA、幼稚園の各種行事、会議に参加出席。世帯の個別案件について相談、打診が発生した場合、民生委員時により地域生活支援センター、市役所、社協への相談を行っている。
- 上平地区自治会連合会を通しての交流、協力関係。
- 活動資金などの補助金、ベスト、帽子などの資材の補助。
- 自治会では、諸団体の役員選出に協力しております。地域の上部団体の中で研鑽、活動、交流の上、地区においても見回り、声かけ等行っており、問題解決に取り組んでいます。
- お互いに活動を補完し合っている。
- 上部団体(市のいきいきクラブ連合会)の理事会を開催し、上尾市の6地区(上尾、大石、平方、上平、原市、大谷)の17名が協議報告連絡する。市役所介護管理課が事務局となっている。
- 上尾地区自治会連合会。
- ふれあいサロンを行う為に、お世話になり協力もいただきました。
- 自治統括委員を経由に市と連携。
- 自治会活動を行う際の各種関係。
- 市役所(支所)行政からの依頼等の協力。
- 敬老会の資金提供・防災行政無線による情報伝達訓練など。
- 情報伝達。
- 当団体上尾福祉協議会上尾支部は10自治会で構成され、地域住民の子供から高齢者まで「孤立者を増やさない地域、健康でいきいきと暮らせる地域」作りを目指して活動しています。市役所、市社協との連携はもとより、自治会、民生委員、いきいきクラブ、子ども会、交通安全母の会などの団体共に目的を達成するための事業を推進しています。
- 自治会の運営上に連携を必要としている所です。

- 市役所、自治会長会議にての情報や回覧物の配布、各部署への陳情等。
- 講座開催時の案内、相談先として案内、つなぎ。
- 町内会（自治会）活動を実施するため、講師派遣、行事等協同活動、コミュニティ活動のための関係機関の位置づけ。
- 年1回の総会に参加をいただいています。
- 危機管理防災課、災害時の連携。（資材、家屋の片付け、等情報共有など、西貝塚環境センター、災害廃棄物処理等）
- ・新年会、定期総会のご案内をさせて頂いています。市長、障害福祉部。（部長、次長、課長）
  - ・障害福祉部…会員の相談をさせて頂きます。
  - ・みどり公園課…丸山公園売店
  - ・市、行事に参加。
- 補助金、助成金の交付を受けている。
- 子ども食堂を開きたく、相談ということで子ども支援課、生活支援課にうかがい、場所等の相談を含め、支援してもらえる内容をうかがいました。各課のチラシラックにチラシを置いてくれるということになりました。
- 立ち上げの時は保健所、市、社協に相談させていただきました。活動を始め、活動場所が市の建物であり、私たちの活動のあり方が市の方針とずれるため、ずっと指導を受けてきています。
- ハーモニーの事業、活動に協力をいただいています。場所の使用許可、活動の依頼、交流会、学習会、研修会への参加や訪問。
- シティマラソンでのあったか汁提供などをした。
- 「自治会運営マニュアル」により、関係部間と連携相談を行なっています。
- 各団体及び機関と連携を密にし、自治会員の安心、安全な暮らしを確保するため。
- 自治会連合会で報告がある。
- 市研修会に参加。
- 運営・調整及び連絡。
- 情報の収集と共有。活動協力と支援。
- 事務区内に於いてクラブ活動するにあたり、自治会・市役所等と綿密に連絡・情報を取りながら進めて行かなければならない為。自治会館使用日程の各種団体との調整。市及び地区大会開催日程の調整。
- 連携協定に基づく業務、市からの情報の会員への伝達。
- 情報の伝達、市の方針を決める事。
- 各種市行政等への協力。
- 上尾市自治会連合会に加入。
- 町内の高齢者の心、体、知がバランス良く育てられ、維持出来る事を目指して、関係機関と連携している。しかし今年は、高齢介護に関わるアッピー元気体操の中止、サロン活動、いきいきクラブ関係の活動も自粛等余儀なくされました。
- 募金運動の協力

## 【社会福祉協議会】

- 共同での集合の開催、関連団体の事業の助成。（だんらんの家、いきいきクラブのサロン、支えあいの会活動への助成）
- 見守りサロンなど、地域（特に高齢者）での対応。
- 各単位クラブが加入団体との協力、共同。
- 地域福祉に関する相談。
- 尾山台団地、自治会と連携し、老人クラブを財政的に支援している。（ゲートボール、グラウンドゴルフ、卓球、カラオケ）
- 自治会からの補助金支出団体との交流。自主防災（危機管理）、環境美化、女性部、寿楽会、消防団、スポーツ協子供会。
- 地区住民の文化、福祉、その他活動支援、共同連携、清掃、見守り、防犯防災。
- お互いに協力し合う。
- 活動交流。
- 分会長を通じて、敬老事業などの活動で協力。
- 募金等の原資の収集への連携、相談者の相談事項に関する相談解決等で連携。
- 交通、防犯、防災、各種福祉事業の連携、支援業務。自治会活動に関わる全ての事業。
- 情報収集、活動支援。
- 年に数回、会議や懇談会などをやっています。
- 小泉支えあいの会の活動に助成。活動サポート。
- 社会福祉協議会よりの情報提供。
- 情報交換、活動支援。
- 募金等の原資の収集への連携、相談者の社会福祉に関する相談連携。
- 情報交換と連絡。
- 町内会自治会活動の個別項目毎に各団体・機関と連携、協力頂いています。
- 団体登録し、バックアップして頂いております。
- 市社協からの依頼により、個人宅、病院等で傾聴活動。
- ファミリーサポートセンター。
- 市社協には、ボラ活動への指導をいただいている他、活動資金の援助も受けている。参加障害者の気になる変化などについて、手をつなぐ親の会を通して家庭と調整も回っている。
- 利用者の他の支援先との連携、専門職を目指す学生の実習機関、職員の福利厚生。
- 障がい者団体による駅での販売、芸術クラブの作品展、その他ボランティア活動。
- 多方面から直接当グループに集まった古切手を整理しております。
- 様々な自治会活動を行ううえで、当然に、各種団体との交流や連携、協力関係はある。地域サロン活動では、それぞれの事業実施のための連携協力している。
- 上尾市のボランティア連絡会に入っています。社協での市の行事の時などの手伝い、社協との共催の学習会、研修会、赤い羽根街頭募金（上尾駅）に協力、ふれあい広場、ヒューマンライフミーティング、福祉を考える集い。
- 毎月、ボランティアグループの人達と代表者会議をしています。共同募金活動に参加しています。
- 募金活動。
- 舞踊の練習、発表の場所。

- 評議員です。
- 社協南支部に依る助け合い、見守り活動に付、助言を頂く。
- 自治会町内会から助成金の援助。
- 視覚障害者への広報、議会だよりの録音、発送。活動場所の提供。情報提供。ラポールにて朗読会。
- 活動拠点として、ボランティアビューローの中に電話室を設置して頂き、現在は身障者センター和室を使用するにあたり、ご尽力をいただきました。対象者の相談事や緊急時、又電話が3カ月以上通じない時は、安否確認を依頼している。対象者を紹介して頂く。会員の研修、勉強会について講師の紹介、助言、ご指導を頂く。
- 助成金、ボラさんの確保、活動場所の提供、情報のお知らせ。
- 上尾市聴覚障害者協会と共に諸活動を実施。市・社協が主催する手話講習会の運営、及び講師の派遣。手話通訳者派遣事業に関する事。小中学校その他の団体から依頼のあった手話教室への協力。社協のボランティア活動に関する事。
- 障害福祉サービスを展開するにあたり、地域社会の理解を得ながら、町内会・自治会・学校・市役所・社協・他施設・当事者団体・保健所・ボランティア等の協力を得て運営をしている。
- ボランティアや物品寄付等。
- 募金運動の協力。
- 社協上尾東支部（総会及各種行事）、敬老会。
- 相互協力。（住民からの要望事項等の取り次ぎ）
- サロン等活動を通して、高齢者の交流や見守りができている。
- 活動への参加及び、サポート。
- 情報提供。
- 市からの依頼の対応や自治会への情報等、連絡調整を図り、ゴミ集積所の管理、清掃や防犯等の取り組み、福祉や募金運動等への協力。また、地区や地域の安全、自主防災の取り組み、独居老人等高齢者の見守りと助け合い等、地域の対応も必要とされている。そして、地域の文化（夏祭り等）の継承、自治会員等の親睦と会員の高齢化や担い手不足等、課題は少なくない。
- 社協南支部。
- 敬老事業、環境美化活動、自治連合会、回覧配布等、防災活動、企業の外国人労働者の寮として活用。
- 町会として、市役所、社協、小中学校、PTA、幼稚園の各種行事、会議に参加出席。世帯の個別案件について相談、打診が発生した場合、民生委員時により地域生活支援センター、市役所、社協への相談を行っている。
- 上平地区自治会連合会を通しての交流、協力関係。
- 自治会では、諸団体の役員選出に協力しております。地域の上部団体の中で研鑽、活動、交流の上、地区においても見回り、声かけ等行っており、問題解決に取り組んでいます。
- 活動時のサポート依頼（または主催）。
- お互いに活動を補完し合っている。
- 各自治会から情報提供を受ける。
- 社会福祉協議会の会員募集に協力している。
- 自治会活動を行う際の各種関係。

- 自治会の運営上に連携を必要としている所です。
- 社会福祉協議会の支部活動を行っている中で、単身高齢者の安否確認を月3回行っていますので、自治会、民生委員、介護、福祉施設との連携を取りながらやっています。
- 当団体上尾福祉協議会上尾支部は10自治会で構成され、地域住民の子供から高齢者まで「孤立者を増やさない地域、健康でいきいきと暮らせる地域」作りを目指して活動しています。市役所、市社協との連携はもとより、自治会、民生委員、いきいきクラブ、子ども会、交通安全母の会などの団体共に、目的を達成するための事業を推進しています。
- サロン担当者や民生委員より聞いている。敬老事業を通じて情報を得る。福祉施設の行事等に参加する。
- 上尾市社会福祉協議会原市支部支部長の為。上尾市～各地域の団体より委員選出して、原市地区全体の活動をしている。
- 地域包括支援センター、地域の活動や情報。子供会、いきいきクラブ、民生委員、社会福祉協議会、区運営に対しての交流。
- 講座開催時の案内、相談先として案内、つなぎ。
- 町内会（自治会）活動を実施するため、講師派遣、行事等協同活動、コミュニティ活動のための関係機関の位置づけ。
- 特に、上尾市社会福祉協議会や上尾市市民活動支援センターとは交流機会が多い。ボランティア活動に関する各種情報を頂いたり、当方からも活動状況を報告したりしている。
- 行事等のお知らせは、自治会を通して行っている。
- 上尾市ボランティア登録団体、災害時の連携、現地調査、リーダー、災害ボランティアセンター運営支援、災害ボランティア養成講座講師等。
- 社会福祉協議会・評議会。
- 補助金、助成金の交付を受けている。
- 上尾社協さんにはこれまで、車いすダンス、手話ダンスを毎月1～2回の定期的な練習を実施。（会場の利用をして）
- ボランティアの活動母体。活動の支援。
- 上尾市ふれあい広場、実行委員、ペットボトル工作、折り紙体験教室。上尾あゆみ会上平事業所及大石作業所の夏祭り支援。
- 資金的なもので、善意銀行の助成金、ボランティア基金、社協に集まる寄付金を寄付者の了解のもとで、なるべくまわしてもらうことを話し合いました。今でも協力してもらい、続いています。
- 市の公共施設を利用する為の申請書等提出。上尾市ボランティア基金助成金の申請。その他の情報をいただいております（活動に関する）。
- 立ち上げの時は、保健所、市、社協に相談させていただきました。活動を始め、活動場所が市の建物であり、私たちの活動のあり方が市の方針とずれるため、ずっと指導を受けてきています。活動資金は初年度市の助成をいただき、その後は社協を通し、企業から支援をいただいています。
- ハーモニーの事業、活動に協力をいただいています。場所の使用許可、活動の依頼、交流会・学習会・研修会への参加や訪問。
- ファミサポ（研修）調理実習の協力。
- 情報交換と災害時の見守り、介護予院の訓練。
- 社会福祉協議会へ登録しているので、ボランティア活動のことを色々アドバイス頂いています。

- 募金活動や高齢者福祉が中心です。
- 社協各部会に参加。
- 各団体及び機関と連携を密にし、自治会員の安心、安全な暮らしを確保するため。
- 自治会長が役員になっている。
- 協働で自治会活動している。
- 運営・調整及び連絡。
- 情報の収集と共有。活動協力と支援。
- 募金、会員募集等への協力。
- 各種福祉活動。
- 自治会による主催活動に協力。子育て中の親子（新生児から就学前）の悩みや親同士の交流を深め、保健師、保育士とともに活動。
- 社会福祉協議会西上尾第一団地支部との係り。
- 町内の高齢者の心、体、知がバランス良く育てられ、維持出来る事を目指して関係機関と連携している。しかし今年は、高齢介護に関わるアッピー元気体操の中止、サロン活動、いきいきクラブ関係の活動も自粛等余儀なくされました。

#### 【区会・町内会・自治会】

- 諸団体より理事を出していただいている。諸活動の実行を委託。各自治会への補助金の支出。（地域福祉活動に活用）
- 尾山台団地、自治会と連携し、老人クラブを財政的に支援している。（ゲートボール、グランドゴルフ、卓球、カラオケ）
- 各種案件を相談し対処してもらう。
- 各自治の協力。
- 社協の寄付、見回り活動。（高齢者）
- 人的交流、防犯訓練、災害時の協力体制。
- 向原町内会と交流。
- 町内会との関係を重視してきました。又、役員もしています。下校ボランティアにも参加しております。民生委員との連絡も取っておりますが、町内の行事にも参加しております。個人情報の守秘義務等が前面にでてくるので、こちらから積極的に出られませんが、相談を受けることについては、返答し行動を起こせるものは、包括等と連携をとります。
- 地区住民の文化、福祉、その他活動支援、共同連携、清掃、見守り、防犯防災。
- お互いに協力し合う。
- 助成金受領、活動支援あり。
- 隣の自治会とは、消防団を共同で運営している。又、他自治会とは、防災情報などを共有。
- 他の自治会活動の状況を確認し、地域防災活動の進んでいる町内会の見学学習。
- 交通、防犯、防災、各種福祉事業の連携、支援業務。自治会活動に関わる全ての事業。
- 自治会活動、防災活動、祭り等行事、体育祭、ゲートボール大会等。
- 情報収集、活動支援。
- 年に数回会議や懇談会などをやっています。
- 小泉支え合いの会の活動に助成。活動サポート。

- 情報交換、活動支援。
- いきいきクラブは各町内会 50 才以上で会員としている。各町会には代表者がおり、その集が上尾地区連合となっている。
- ほかの自治会活動の状況を確認し、地域防犯活動の進んでいる町内会の見学学習。
- 町内会役員と他町内会と定例会議等で情報交換している。
- 上記の関わりによる毎年 1～2 回の訪問活動。(例、あけぼの、ツクイ ect)
- 社協の認定団体として活動している。このため、介護福祉施設あるいは自治会などのいきいきクラブから公演要請を受けている。
- 障がい者団体による駅の販売、芸術クラブの作品展、その他ボランティア活動。
- 様々な自治会活動を行ううえで、当然に、各種団体との交流や連携、協力関係はある。例えば、近隣自治会との共催事業。
- 障害福祉サービスを展開するにあたり、地域社会の理解を得ながら町内会・自治会・学校等、市役所・社協・他施設・当事者団体・保健所・ボランティア等の協力を得て運営をしている。
- 補助金、活動支援。
- 戸崎地区各種行事に対する協力依頼。盆踊り、敬老会、まちづくり(ポピー祭り、戸崎公園)他。
- 民生委員を通じて、高齢者見守り。
- 小中学校校区での避難所開設運営事業での一体感。
- 活動への参加及びサポート。
- 中新井自治会活動。
- 情報提供。
- 市からの依頼の対応や自治会への情報等、連絡調整を図り、ゴミ集積所の管理、清掃や防犯等の取り組み、福祉や募金運動等への協力。また、地区や地域の安全、自主防災の取り組み、独居老人等高齢者の見守りと助け合い等、地域の対応も必要とされている。そして、地域の文化(夏祭り等)の継承、自治会員等の親睦と会員の高齢化や担い手不足等、課題は少なくない。
- 敬老事業、環境美化活動、自治連合会、回覧配布等、防災活動、企業の外国人労働者の寮として活用。
- 納涼祭、敬老会、防災訓練時は子供会、いきいきクラブ、町会員、消防署と協力し実施。又、納涼祭時は他町会の協力も得ている。
- 上平地区自治会連合会を通しての交流、協力関係。
- 公民館の開放。
- 自治会として活動しています。
- 活動時のサポート依頼。(または主催)
- 協働で支え合い助け合い活動を運営。
- お互いに活動を補完し合っている。
- 各自治会から情報提供を受ける。
- 原市地区の自治会と、合同で行事を行っている。
- 自治会(旧事務区)単位に、いきいきクラブの単位クラブが自主団体として有る。自治会の主催行事に協力関係にある。
- 他町内会との連携。
- 原市団地夏祭りに、社福事業団あげおの作品あゆみの会の製品販売協力をしています。

- 自治会活動を行う際の各種関係。
- 自治会連合会での情報交換。
- 社会福祉協議会の支部活動を行っている中で、単身高齢者の安否確認を月3回行っていますので、自治会、民生委員、介護、福祉施設との連携を取りながらやっています。
- 当団村上尾福祉協議会上尾支部は10自治会で構成され、地域住民の子供から高齢者まで「孤立者を増やさない地域、健康でいきいきと暮らせる地域」作りを目指して活動しています。市役所、市社協との連携はもとより、自治会、民生委員、いきいきクラブ、子ども会、交通安全母の会などの団体と共に目的を達成するための事業を推進しています。
- 自治会の運営上に連携を必要としている。
- 市役所、自治会長会議にての情報や回覧物の配布、各部署への陳情等。
- 講座開催時の案内、相談先として案内、つなぎ。
- 町内会（自治会）活動を実施するため、講師派遣、行事等協同活動、コミュニティ活動のための関係機関の位置づけ。
- 紙芝居や腹話術などの公演活動のため、上尾市及び近隣地区の各所を訪問する。その際に、イベント主催者や各施設の方々から地域コミュニティや現場の各種情報を伺うことが多い。又、そのことにより当団体の活動を知って頂き、次の新規の公演に繋がることもある。
- 行事等のお知らせは、自治会を通して行っている。
- 自治会、町内会、区会会場として、公民館を割安でお借りしています。調理は給湯室を使用することで、なかなか手間取りますが、半調理をもちこんで、調理することを続けています。
- 地区行事への協力。
- 上平支部の自治会連合会のメンバーとなり参画。
- 自治会を通じて地域行事に参加。
- 各団体及び機関と連携を密にし、自治会員の安心、安全な暮らしを確保するため。
- 地区自治会、各種団体の事業に参加。
- 運営・調整及び連絡。
- 情報の収集と共有。活動協力と支援。
- 事務区内に於いてクラブ活動するに当り、自治会・市役所等と綿密に連絡・情報を取りながら進めて行かなければならない為。自治会館使用日程の各種団体との調整。
- 自治会による主催活動に協力。子育て中の親子（新生児から就学前）の悩みや親同士の交流を深め、保健師、保育士とともに活動。
- 町内の高齢者の心、体、知がバランス良く育てられ維持出来る事を目指して、関係機関と連携している。しかし今年は、高齢介護に関わるアッピー元気体操の中止、サロン活動、いきいきクラブ関係の活動も自粛等余儀なくされました。
- 自治区内から助成金の援助。
- 三井区自治会⇒自治会活動の協力、公園の清掃等。

### 【民生委員・児童委員】

- 町内各団体に年数回、親睦を含め会議を行い意見交換している。
- 諸団体より理事を出していただいている。諸活動の実行を委託。
- 共同での集合の開催。
- 地域福祉に関する相談。
- 見守りサロンなど、地域（特に高齢者）での対応、高齢者・児童の情報。
- 各単位クラブでの民生委員・児童委員の協力。（高齢者を中心とした見守り、学童の見守り活動）
- 地区の異常の有無。
- 人的交流、防犯訓練、災害時の協力体制。
- 地区住民の文化、福祉、その他活動支援、共同連携、清掃、見守り、防犯防災。
- お互いに協力し合う。
- 会員生活生存状況等、情報交換。
- 民生委員さんとは、高齢化が著しい当地区では、協力体制が欠かせません。
- 敬老会事業に於、民生委員の協力。
- 相談事の解決の協力、市や行政機関への連絡連携及び解決策への連携。
- 交通、防犯、防災、各種福祉事業の連携、支援業務。自治会活動に関わる全ての事業。
- 情報収集、活動支援。
- 年に数回、会議や懇談会などをやっています。
- 小泉支え合いの会の活動に助成。活動サポート。
- サロン、交流会等の事業に対し積極的な協力。
- 情報交換、活動支援。
- 高齢者の見守り支援。
- 町内会行事に参加してもらっている。
- 相談事の解決の協力、市や行政機関への連絡連携及び解決対策会議への連携。
- 何か心配ごとがあったとき、その都度情報交換している。
- 町内会自治会活動の個別項目毎に各団体・機関と連携、協力頂いています。
- 地域サロンなどへの出演要請など頂いております。
- 様々な自治会活動を行ううえで、当然に各種団体との交流や連携、協力関係はある。敬老会では、民生委員、学校、地域のボランティア団体など、それぞれの事業実施のための連携協力している。
- 活動拠点として、ボランティアビューローの中に電話室を設置して頂き、現在は身障者センター和室を使用するにあたり、ご尽力をいただきました。対象者の相談事や緊急時、又、電話が3カ月以上通じない時は、安否確認を依頼している。対象者を紹介して頂く。会員の研修、勉強会について講師の紹介、助言、ご指導を頂く。
- 民生委員を通じて高齢者見守り。
- 民生委員を通じた問題解決等の相談。
- サロン開催など自治会活動に協力していただいている。
- 活動への参加及び、サポート。
- 相談。
- 市からの依頼の対応や自治会への情報等、連絡調整を図り、ゴミ集積所の管理、清掃や防犯等の取り組み、福祉や募金運動等への協力。また、地区や地域の安全、自主防災の取り組み、独居老

人等高齢者の見守りと助け合い等、地域の対応も必要とされている。そして、地域の文化（夏祭り等）の継承、自治会員等の親睦と会員の高齢化や担い手不足等、課題は少なくない。

- 大谷地区自治会のひとつとして、連携、協力関係があり、交流している団体であったり、町内の各種団体のひとつとして活動している団体である。
- 世帯の個別案件について相談、打診が発生した場合、民生委員、時により地域生活支援センター、市役所、社協への相談を行っている。
- 上平地区自治会連合会を通しての交流、協力関係。
- 地域福祉の担い手となり、中心となって活動。
- お互いに活動を補完し合っている。
- 民生委員や子ども会役員の方に、町内会の行事に励んでもらっている。
- 町内事業との協力、連携。
- ふれあいサロンでは毎回ご協力をいただいております。
- 自治会活動を行う際の各種関係。
- 民生委員・児童委員の選出。
- 敬老会、高齢者の安否確認、サロン活動。
- 社会福祉協議会の支部活動を行っている中で、単身高齢者の安否確認を月3回行っていますので、自治会、民生委員、介護、福祉施設との連携を取りながらやっています。
- 当団体上尾福祉協議会上尾支部は10自治会で構成され、地域住民の子供から高齢者まで「孤立者を増やさない地域、健康でいきいきと暮らせる地域」作りを目指して活動しています。市役所、市社協との連携はもとより、自治会、民生委員、いきいきクラブ、子ども会、交通安全母の会などの団体共に目的を達成するための事業を推進しています。サロンや見守り活動では、民生委員やボランティアの協力を得ています。
- サロン担当者や民生委員より聞いている。敬老事業を通じて情報を得る。福祉施設の行事等に参加する。
- 自治会の運営上に連携を必要としている所です。
- 民生委員に対する交流。
- 講座開催時の案内、相談先として案内、つなぎ。
- 尾山台福祉ネットワークの協力団体には、問1で答えている様に幅広く協力を得ている団体が有り、行政とも連携を取りながら活動を続けています。異常発見時や通報があった時には、緊急連絡先を把握している民生委員につなぎ、状況確認しながら家族に連絡 - 警察 - 包括支援センター - URと言った形で対応をしてもらっています。
- サロン活動、他サロンの情報支援、あったか見守り、包括センターなどと連携。
- 会員の中に民生委員がいます。コロナ前は、年に数回の手芸作品の販売を行っていました。（他の当事者団体等と一緒に）現在は作品が作れなくなり、人数も少ないので参加できません。
- すべての行事について協力を願っている。
- 運営上、民生委員さんの協力を賜り、地域の小中学校でチラシを配布していただいています。活動資金は初年度市の助成をいただいています。
- 情報交換と災害時の見守り、介護予院の訓練。
- 民生委員とは敬老事業を協力し合って行ないました。又、一人暮らしのお年寄りを訪問したり、情報交換をしています。

- 民生委員、児童委員は 3+1 名が上平支部でのメンバーとして活動。
- 自治会を通じて民生委員・児童委員に参加。
- 各団体及び機関と連携を密にし、自治会員の安心、安全な暮らしを確保するため。
- 自治会の役員になっている。
- 運営・調整及び連絡。
- 定例会、防災訓練指導、見守り活動、サークル活動。
- 情報の収集と共有。活動協力と支援。
- 高齢化を対象にいきいきとした生活を送れる様に助言を行なっています。
- 日常的に連携している。
- 民生委員、児童委員の選出。
- 町内の高齢者の心、体、知がバランス良く育てられ維持出来る事を目指して、関係機関と連携している。しかし今年は、高齢介護に関わるアッピー元気体操の中止、サロン活動、いきいきクラブ関係の活動も自粛等余儀なくされました。
- 関連団体の事業の助成。(だんらんの家、いきいきクラブのサロン、支え合いの会活動への助成)

#### 【地域包括支援センター】

- 諸団体より理事を出していただいている。諸活動の実行を委託。
- 共同での集合の開催、関連団体の事業の助成。(だんらんの家、いきいきクラブのサロン、支え合いの会活動への助成)
- 高齢者で特に日常生活。
- 西包括センターに保健、健康体操、健康体操等講習依頼。
- 要支援者や独居高齢者が比較的多いので、協力体制が欠かせません。
- 地域の高齢者への介護予防運動勉強会の開催連携。
- 年に数回会議や懇談会などをやっています。
- 小泉支え合いの会の活動に助成。活動サポート。
- 情報の提供及び催しに対する協力斡旋。
- 地域の高齢者への介護予防運動の勉強会の開催連携。
- 町内会自治会活動の個別項目毎に、各団体・機関と連携、協力頂いています。
- オレンジカフェなどへの出演要請などを頂いております。
- 地域サロン活動では、市役所、社協、地域包括支援センターなど、それぞれの事業実施のための連携協力している。
- 地域包括支援センターからの要請等。
- 介護関連説明会…自治会館にて包括支援センターさんからの説明等。
- 地域包括支援センターとの関係では、自治会内で高齢者の介護等の相談があった場合に、地域包括支援センターにつなぐことができる。
- 相談。
- 上平地区自治会連合会を通しての交流、協力関係です。
- 世帯の個別案件について相談、打診が発生した場合、民生委員、時により地域生活支援センター、市役所、社協への相談を行っている。
- 通常の支援の他にも交流会の講師として健康についての講義等を受けている。

- ふれあいサロンを行う為に、お世話になり協力もいただきました。
- 自治会活動を行う際の各種関係。
- アッピー体操時の冷暖房費の金額提示。
- 上尾南地域包括支援センターとは、見守り訪問活動や初期相談等で連携。
- 自治会の運営上に連携を必要としている所です。
- 地域包括支援センター、地域の活動や情報。
- 講座開催時の案内、相談先として案内、つなぎ。
- 尾山台福祉ネットワークの協力団体には、問1で答えている様に幅広く協力を得ている団体が有り、行政とも連携を取りながら活動を続けています。異常発見時や通報があった時には、緊急連絡先を把握している民生委員につなぎ、状況確認しながら家族に連絡 - 警察 - 包括支援センター - URと言った形で対応をしてもらっています。
- やさしい介護食の伝達。
- 地域包括支援センター及び当事者団体等も同様に上平支部での活動。
- アッピー元気体操を通じて。
- 各団体及び機関と連携を密にし、自治会員の安心、安全な暮らしを確保するため。
- 自治会連合会で報告がある。
- 運営・調整及び連絡。
- 定例会・防災訓練指導、見守り活動、サークル活動。
- 情報の収集と共有。活動協力と支援。
- アッピー元気体操。町内クリーンキャンペーン実施に依る見守り活動、助け合って行く。自治会に依るみんなの集まり・防災訓練実施等で、お互いの日常生活の中での困り事等を聞き、助け合う。
- 社協支部を通して高齢者対策への連携。
- 民生委員を通じて高齢者の見守り。
- 民生委員を通じた問題解決等の相談。

#### 【当事者団体】

- 年に数回、会議や懇談会などをやっています。
- 情報交換、活動支援。
- 参加募集やイベント。
- 放デイ連絡会や学童連絡会等。
- 埼玉県障害者団体の集まりで、その主催する行事に参加している。

#### 【子ども会】

- 1. 町内各団体に金銭補助をしている。
- 2. 町内各団体に年数回、親睦を含め会議を行い意見交換している。
- 3. 合同で町内広場、防災倉庫等清掃を行っている。
- 助成金の支出、夏祭り。
- 小学生を対象に、地域コミュニケーションを計る催し物など。
- 子供会と夏休み。新学期中（春休み）中の交流。

- 人的交流、防犯訓練、災害時の協力体制。
- お互いに協力し合う。
- いきいきクラブと一緒に「みんなの集まり」を盛り上げている。
- 運動会に於、子供会の協力が多大である。
- 情報収集、活動支援。
- 年に数回、会議や懇談会などをやっています。
- 小泉支え合いの会の活動に助成。活動サポート。
- 活動支援。
- 事業に対する協力（夏祭り、盆踊り大会、レクリエーション大会）。
- 情報交換、活動支援。
- 町内会行事に参加してもらっている。
- 子ども会活動への補助金支援、行事活動（チアリーダー活動、かるた大会）への協力等の実施。
- 何か心配ごとがあったとき、その都度情報交換している。
- 町内会自治会活動の個別項目毎に、各団体・機関と連携、協力頂いています。
- 夏祭りでは、子ども会やいきいきクラブ、地域のボランティア団体などそれぞれの事業実施のための連携協力している。
- 募金運動の協力。
- ハロウィンパーティー他各種団地行事に参加して貰う。
- 区区内子ども会との連携。（区内行事の手伝い）
- 活動への参加及び、サポート。
- 上部団体と連携を取りながら活動を開催。
- 子ども会行事についての協力。
- 納涼祭・敬老会・防災訓練時は子供会と協力し実施。
- 上平地区自治会連合会を通しての交流、協力関係。
- お互いに活動を補完し合っている。
- 民生委員や子ども会役員の方に、町内会の行事に励んでもらっている。
- 町内事業との協力。
- みんなの集いでは、協力いただいております。
- 自治会の子ども会への補助金交付。
- 市役所、市社協との連携はもとより、自治会、民生委員、いきいきクラブ、子ども会、交通安全母の会などの団体共に目的を達成するための事業を推進しています。
- 子供会、いきいきクラブ、民生委員、社会福祉協議会、区運営に対しての交流。
- すべての行事について協力を願っている。
- 町谷子供会へ予算化し支出している。
- 各団体及び機関と連携を密にし、自治会員の安心、安全な暮らしを確保するため。
- 自治会傘下の団体。
- 運営・調整及び連絡。
- 情報の収集と共有。活動協力と支援。
- 活動への協力。（資金援助含む）
- 少子高齢化のため、入会する子供達が減り活動が縮小してしまう。

- 子ども会は自治会の一部署と位置づけている。

### 【保育所（園）・幼稚園】

- 交通、防犯、防災、各種福祉事業の連携、支援業務。自治会活動に関わる全ての事業。
- 保護者支援全般を日常的に行っている。要支援家庭への相談、行政機関等との連携。
- 特別に支援が必要な児童についての連携。
- 町会として、市役所、社協、小中学校、PTA、幼稚園の各種行事、会議に参加出席。
- 高齢者との交流。
- お互いに活動を補完し合っている。
- 自治会活動を行う際の各種関係。
- 紙芝居や腹話術などの公演活動のため、上尾市及び近隣地区の各所を訪問する。その際にイベント主催者や各施設の方々から地域コミュニティや現場の各種情報を伺うことが多い。又、そのことにより当団体の活動を知って頂き、次の新規の公演に繋がることもある。
- すべての行事について協力を願っている。
- 幼稚園のバザー参加。（紙コップにお花を生ける）
- 夏まつりを地元の保育所を使い開催している。
- 自治会による主催活動に協力。子育て中の親子（新生児から就学前）の悩みや親同士の交流を深め、保健師、保育士とともに活動。

### 【小学校・中学校・高校】

- 主要行事（入学式、運動会など）への参加。
- 町内各団体に年数回、親睦を含め会議を行い意見交換している。
- コミュニティスクールなど、学童（小学校）登下校の見守り。
- 小学校だより、中学校（ささら新聞）の観覧、青パト。
- 人的交流、防犯訓練、災害時の協力体制。
- お互いに協力し合う。
- 年に数回、会議や懇談会などをやっています。
- 情報交換、活動支援。
- 育成組織を通じて連携を図り、地域で子供たちの見守りや学校補助学習への協力参加。
- 小中学校の福祉授業への講師依頼。
- 児童についての小学校との連携。
- 利用者の他の支援先との連携、専門職を目指す学生の実習機関、職員の福利厚生。
- 様々な自治会活動を行ううえで当然に、各種団体との交流や連携、協力関係はある。敬老会では、民生委員、学校、地域のボランティア団体などそれぞれの事業実施のための連携協力している。
- 子供達の様子など情報共有、情報交換。
- 障害福祉サービスを展開するにあたり、地域社会の理解を得ながら、町内会・自治会・学校等、市役所・社協・他施設・当事者団体・保健所・ボランティア等の協力を得て、運営をしている。年に何度かの消防訓練等の行事や、企業からの受注作業を行っている。
- 募金運動の協力。
- 小学校：学校応援団。中学校：青パト。

- 中学生のボランティア依頼。(体育祭、夏まつり)
- 小中学校における福祉教育(介護実習)での連携、協力。
- 文化祭、アッピー元気体操、学校ボランティア。
- 児童、生徒の登下校における交通事故防止や防犯活動などの協力。
- 活動への参加及び、サポート。
- 小学校みまもり活動、PTA資源回収。
- 町会として、市役所、社協、小中学校、PTA、幼稚園の各種行事、会議に参加出席。
- 上平地区自治会連合会を通しての交流、協力関係。
- 自治会では、諸団体の役員選出に協力しております。地域の上部団体の中で研鑽、活動、交流の上、地区においても見回り、声かけ等行っており、問題解決に取り組んでいます。
- 活動時のサポート依頼。(または主催)
- 高齢者との交流。
- お互いに活動を補完し合っている。
- 夏祭りやあぜよし公園の除草時に小・中学校からボランティアあり。
- 小学校・中学校の行事に参加したり、学校便りを町内に回覧している。
- 小学校の校庭開放を利用させてもらっている(グランドゴルフ大会)。小学校の体育館を利用し、大会を開いている。(マグダーツ大会)
- 上尾市青少年育成連合会第一地区。
- 小中学校、防犯、登下校時の見守り、協力、あいさつ運動、青パト。
- 入学式、卒業式、運動会参加。
- あいさつ運動の参加、青色パトロールカーの協力。
- 上尾市立小学校10校で公演実績があるが、内5校はこの数年毎年公演を行っている。(3年生、6年生、全校生徒対象のスライド学習と上尾の民話等の紙芝居実演)公演後に各校の生徒たちから毎回感想文を頂いており、当方からもお礼状を送付するなど交流を図っている。
- 子供達の安全を守る為にケータイメールで情報交換をしています。
- スクールガード、青パトをボランティアとして行なっている。
- 各団体及び機関と連携を密にし、自治会員の安心、安全な暮らしを確保するため。
- 学校応援団や防犯パトロール。
- 情報の収集と共有。活動協力と支援。
- 子供たちの安全、安心を守るため、あいさつ運動、登校下校時の見守り。
- あいさつ運動等日常的に学校と協力。

#### 【大学・専門学校】

- 看護学生実習受入。
- 専門職を目指す学生の実習機関。
- ボランティア募集のお知らせ。
- 実習生の受け入れ。
- 上尾看護専門学校の学生さんの原団単身高齢者訪問学習活動に協力。
- 大学に於いては自主防災会訓練、会議に参加。
- 聖学院大学にて避難訓練。

- すべての行事について協力を願っている。
- 自主防災における協力、訓練等。
- 聖学院ボランティア活動支援センターとの連携、災害時のボランティア活動協力や講座講師。

#### 【PTA】

- PTA（大石小学校）のリサイクル。
- お互いに協力し合う。
- 交通、防犯、防災、各種福祉事業の連携、支援業務。自治会活動に関わる全ての事業。
- 年に数回会議や懇談会などをやっています。
- 資源回収等への地域周知活動や学校 PTA 主催行事への参加協力。
- 町内会自治会活動の個別項目毎に各団体・機関と連携、協力頂いています。
- 募金運動の協力。
- 団地定例会での意見交換。
- 文化祭、アッピー元気体操、学校ボランティア。
- PTA資源回収。
- 町会として、市役所、社協、小中学校、PTA、幼稚園の各種行事、会議に参加出席。
- 上平地区自治会連合会を通しての交流、協力関係。
- 自治会では、諸団体の役員選出に協力しております。地域の上部団体の中で研鑽、活動、交流の上、地区においても見回り、声かけ等行っており、問題解決に取り組んでいます。
- お互いに活動を補完し合っている。
- 回覧板の配布。
- 自治会活動を行う際の各種関係。
- 回覧依頼、リサイクル活動。
- 各団体及び機関と連携を密にし、自治会員の安心、安全な暮らしを確保するため。
- 助成金を支出している。
- 運営・調整及び連絡。
- 定例会、防災訓練指導、見守り活動、サークル活動。
- 情報の収集と共有。活動協力と支援。
- リサイクルへの協力

#### 【NPO・ボランティアグループ】

- 町内各団体に金銭補助をしている。
- 諸団体より理事を出していただいている。諸活動の実行を委託。
- フードパントリーなどの相談。
- 子供食堂への開催場所の提供協力。子供無料学習塾への場所提供。
- 障がい者団体による駅の販売、芸術クラブの作品展、その他ボランティア活動。
- 夏祭りでは、子ども会やいきいきクラブ、地域のボランティア団体など、敬老会では、民生委員、学校、地域のボランティア団体など、それぞれの事業実施のための連携協力している。
- 共同で作品展を開催している。いろいろな施設へ見学したり、お互いのコミュニティを計っている。

- 視覚障害者への広報、議会だよりの録音、発送。活動場所の提供。情報提供。ラポールにて朗読会。
- 1. いきがい大学伊奈学園（イナボイス）のボランティア団体登録による施設や小中学校による問題。
  2. 上尾福祉ボランティア登録団体による施設等から問合せ又は働きかけによる。
  3. 上記の関わりによる毎年1～2回の訪問活動。（例、あけぼの、ツクイ etc）
  4. 上尾社協さんにはこれまで車いすダンス、手話ダンスを毎月1～2回の定期的な練習を実施。（会場の利用をして）
- ボランティア募集のお知らせ。
- 社協のボランティア活動に関する事。
- 障害福祉サービスを展開するにあたり、地域社会の理解を得ながら、町内会・自治会・学校等、市役所・社協・他施設・当事者団体・保健所・ボランティア等の協力を得て、運営をしている。
- 募金運動の協力。
- リサイクル、防犯活動、高齢者見守り活動。
- 市からの依頼の対応や自治会への情報等、連絡調整を図り、ゴミ集積所の管理、清掃や防犯等の取り組み、福祉や募金運動等への協力。
- 上平地区自治会連合会を通しての交流、協力関係。
- お互いに活動を補完し合っている。
- 自治会活動を行う際の各種関係。
- ボランティアに対する情報を得る。ボランティアについての知識を学ぶ。
- すべての行事について協力を願っている。
- 災害VC立上訓練や防災講座等でのコラボ。
- 各団体及び機関と連携を密にし、自治会員の安心、安全な暮らしを確保するため。
- 自治会と社協支部で、NPOふれあいねっとを立ち上げ協力。

### 【いきいきクラブ】

- 1. 町内各団体に金銭補助をしている。
  2. 町内各団体に年数回、親睦を含め会議を行い意見交換している。
  3. 合同で町内広場、防災倉庫等清掃を行っている。
- 諸団体より理事を出していただいている。諸活動の実行を委託。
- 共同での集合の開催、関連団体の事業の助成。（だんらんの家、いきいきクラブのサロン、支えあいの会活動への助成）
- 助成金の支出、夏祭り。
- 高齢者とのコミュニケーション。
  1. 自治会行事 - 運動会、夏まつり、文化祭。参加する上での費用をいきいき負担。文化祭、いきいき合唱団を編成、参加。リサイクル年2回協力。
  2. 市のふれあい運動会。
  3. グランドゴルフ大会。
- お互いに協力し合う。

- 愛宕神社礼大祭に於、いきいきクラブ女性の方々に依る和踊りの奉納（商店街より多数の商品を頂く）
- 原市連合、活動支援あり。
- 高齢者を互いにつなぐ組織として協力が不可欠です。
- いきいきクラブと一緒に「みんなの集まり」を盛り上げている。
- 場所の協力と介護予防推進協力補助の支給で協力。
- 交通、防犯、防災、各種福祉事業の連携、支援業務。自治会活動に関わる全ての事業。
- 情報収集、活動支援。
- 年に数回会議や懇談会などをやっています。
- 単位クラブ（いきいきクラブ）が大谷いきいきクラブ連合会にクラブ有る。
- 高齢者の見守り、活動支援。
- 小泉支え合いの会の活動に助成。活動サポート。
- 情報交換、活動支援。
- 町内会行事に参加してもらっている。
- 場所の提供協力と補助金の支給で、活動支援。
- いきいきクラブ月/1回は交流会している。（その都度（例）不幸等の連絡等）
- 町内会自治会活動の個別項目毎に各団体・機関と連携、協力頂いています。
- 地域サロンなどへの出演要請など頂いております。
- 社協の認定団体として活動している。このため、介護福祉施設あるいは自治会などのいきいきクラブから公演要請を受けている。
- 様々な自治会活動を行ううえで、当然に、各種団体との交流や連携、協力関係はある。例えば、夏祭りでは、子ども会やいきいきクラブ、地域のボランティア団体などそれぞれの事業実施のための連携協力している。
- 月2回の定例会。
- 原市団地いきいきクラブ亀楽会には、新年交流会に民謡の会に舞をお願いし、七夕交流会に短冊飾りつけを作成してもらっています。
- 奉仕活動の相互協力。
- 自治会活動への協力をいただいている。
- 活動への参加及び、サポート。
- 上部団体と連携を取りながら活動を開催。
- 納涼祭、敬老会、防災訓練時は子供会、いきいきクラブ、町会員、消防署と協力し実施。
- 自治会を通して、いきいきクラブに補助金を出しています。行事の共催もあります。
- 活動時のサポート依頼。（または主催）
- お互いに活動を補完し合っている。
- いきいきクラブの活動を援助したり、町内会の行事に協力してもらっている。
- 上部団体（市のいきいきクラブ連合会）の理事会を開催し、上尾市の6地区（上尾、大石、平方、上平、原市、大谷）の17名が協議報告連絡する。市役所介護管理課が事務局となっている。自治会（旧事務区）単位に、いきいきクラブの単位クラブが自主団体として有る。自治会の主催行事に協力関係にある。単位クラブ（いきいきクラブ）が大谷いきいきクラブ連合会に7クラブ有る。

- 東寿会。
- 自治会活動を行う際の各種関係。
- 色々なサークル活動。
- 連携しながら、独自活動として、グランドゴルフ、手芸を行っている。
- 子供会、いきいきクラブ、民生委員、社会福祉協議会、区運営に対しての交流。
- 講座開催時の案内、相談先として案内、つなぎ。
- 町内会（自治会）活動を実施するため、講師派遣、行事等協同活動、コミュニティ活動のための関係機関の位置づけ。
- いきいきクラブとは、日頃よりコミュニティを大事にしています。例えば、3密対策をとりながら、お茶をのんだりしてます。
- 情報交換と災害時の見守り、介護予院の訓練。
- アッピー元気体操原市九区会は、導入時からいきいきが主体で自治会が支援。
- 各団体及び機関と連携を密にし、自治会員の安心、安全な暮らしを確保するため。
- 自治会傘下の団体。
- 情報の収集と共有。活動協力と支援。
- 治動への協力。（資金援助含む）
- 高齢化が進み、入会する方が減り、活動の幅が少なくなってきました。
- いきいきクラブの各種行事を支援。
- いきいきクラブ、団地内居住者で組織。

#### 【商店会・商店街】

- 交通、防犯、防災、各種福祉事業の連携、支援業務。自治会活動に関わる全ての事業。
- 町内会自治会活動の個別項目毎に各団体・機関と連携、協力頂いています。
- 盆おどりの協力関係。（ヤグラの組み立て等）
- 地域内の商店や企業、医療機関には、町内子どもみこし祭りや納涼大会において協力をいただいている。
- お互いに活動を補完し合っている。
- 自治会活動を行う際の各種関係。
- 町内会（自治会）活動を実施するため、講師派遣、行事等協同活動、コミュニティ活動のための関係機関の位置づけ。
- すべての行事について協力を願っている。
- 団地の運動会や夏祭りの際は、招待状を配布しご協力をいただいている。

#### 【介護・福祉施設】

- 町内各団体に年数回、親睦を含め会議を行い意見交換している。
- 介護施設の入居等。
- 各施設とは施設運営会議に地域関係者として、地域から施設に対する意見協力。
- 町内会自治会活動の個別項目毎に各団体・機関と連携、協力頂いています。
- 伊那の里、わくわくランド、ことぶき荘、県立ガンセンターで（3カ月毎更新）絵画・写真等展示。特養ホーム「椋の木」納涼祭手伝い。

- パストーン浅間台において月2回活動させていただいている。
- 自治会活動を行う際の各種関係。
- 社会福祉協議会の支部活動を行っている中で、単身高齢者の安否確認を月3回行っていますので、自治会、民生委員、介護、福祉施設との連携を取りながらやっています。
- 敬老事業を通じて情報を得る。福祉施設の行事等に参加する。
- 地域の施設間の交流に参加。
- 講座開催時の案内、相談先として案内、つなぎ。
- すべての行事について協力を願っている。
- 手芸を通して手芸の楽しさ、ものづくりの楽しさを共有しております。
- 参加募集やイベント。
- 介護福祉施設・見学（役員研修）。
- 老人ホーム施設へ行って、花のボランティアをします。（紙コップに、お花を生ける）
- 各団体及び機関と連携を密にし、自治会員の安心、安全な暮らしを確保するため。
- 定例会、防災訓練指導、見守り活動、サークル活動。
- 情報の収集と共有。活動協力と支援。
- 高齢者の安否確認等。
- 町内の高齢者の心、体、知がバランス良く育てられ維持出来る事を目指して、関係機関と連携している。しかし今年は、高齢介護に関わるアッピー元気体操の中止、サロン活動、いきいきクラブ関係の活動も自粛等余儀なくされました。
- 地元の障害者施設での避難訓練には声を掛けていただき、見学させてもらえ利用者たちの行動は参考となった。施設からは今年2回の協力依頼があり、自治会として参加した。又、例年夏祭り開催の案内を頂き、他団体の参加もあり有意義な時間を一緒に過ごせた。

#### 【医療機関】

- 伊那の里、わくわくランド、ことぶき荘、県立ガンセンターで（3カ月毎更新）絵画・写真等展示。
- 事業の協力医療機関。
- 近隣の前田医院。
- 医療機関・精神科紹介、相談。
- 事務区内に於いてクラブ活動するに当り、自治会・市役所等と綿密に連絡・情報を取りながら進めて行かなければならない為。市及び地区大会開催に当り、医療関係（看護師）との調整。
- 高齢者の安否確認等。

#### 【保健所】

- 各種健康診断、予防注射。
- すべての行事について協力を願っている。
- 保健所・丸山公園売店、営業許可証発行。
- 立ち上げの時は保健所、市、社協に相談させていただきました。活動を始め、活動場所が市の建物であり、私たちの活動のあり方が市の方針とずれるため、ずっと指導を受けてきています。
- 高齢者の安否確認等。

## 【警察・消防】

- 町内活動に助言、協力を仰いでいる。
- 防犯（警察）、防犯訓練（消防）
- 人的交流、防犯訓練、災害時の協力体制。
- 地区住民の文化、福祉、その他活動支援、共同連携、清掃、見守り、防犯防災。
- 特殊詐欺などの犯罪に巻き込まれない様に交番や生活安全課とは、協力しています。
- 夏祭りに付き、交通整理（車、自転車）のお願い（警察）。社協南支部に依る助け合い、見守り活動に付き、助言を頂く。防犯訓練の時、消防署の方々に指導を頂く。
- 交通、防犯、防災、各種福祉事業の連携、支援業務。自治会活動に関わる全ての事業。
- 町内会の巡回回覧の協力（振り込み詐欺他一連の事件）、防災訓練の協力。
- 情報交換、活動支援。
- 警察のお知らせを町内に回覧している。（原市交番）
- 災害時の専門職としての協力依頼、講座協力等。
- 地域への防犯啓蒙広報紙の展開と防犯推進員の連携協力、青色パトロール活動への参加協力。自警消防活動の実施に対する資金支援と組織運営協力。施設運営に伴う臨時費用に対する支援協力。
- 町内会自治会活動の個別項目毎に各団体・機関と連携、協力頂いています。
- 防犯活動の協力依頼…夜間パトロール（パトカーによる巡回、警察、消防）
- 救急車、AED講習。
- 夏まつりの道路許可、模擬店（ガス使用）の許可。
- 各々の活動内容に沿って関係する諸団体・組織との連携を取って居ります。例えば夏祭り等を行う場合、交通取締り、消防活動等にお問い合わせや取締等を行って居ります。
- 納涼祭、敬老会、防災訓練時は子供会、いきいきクラブ、町会員、消防署と協力し実施。
- 上平地区自治会連合会を通しての交流、協力関係です。
- 活動時のサポート依頼。（または主催）
- 東町防犯推進委員、東町自警消防団。
- ふれあいサロンを行う為に、お世話になり協力もいただきました。
- 自治会活動を行う際の各種関係。
- 夏祭り、防災訓練。
- 防犯防災等の情報、防災訓練の指導依頼。
- 防災訓練、起震車体験。
- 警察：交通安全母の会や地域防犯推進委員等でパトロール実施している。  
消防：防災活動で消火活動の講習等のお願いをしている。
- 防災訓練。
- 各団体及び機関と連携を密にし、自治会員の安心、安全な暮らしを確保するため。
- 防災訓練や防犯講座。
- 運営・調整及び連絡。
- 定例会、防災訓練指導、見守り活動、サークル活動。
- 情報の収集と共有。活動協力と支援。
- 事務区内に於いてクラブ活動するに当り、自治会・市役所・等と綿密に連絡・情報を取りながら進めて行かなければならない為。地区祭りに於ける道路使用について交通関係の相談。

- 高齢者の安否確認等。

### 【弁護士・司法書士】

- 学童業務における諸問題について相談、法令順守研修での講話依頼、他。

### 【企業】

- 人的交流、防犯訓練、災害時の協力体制。
- 情報交換、活動支援。
- 地域行事への参加協力をお願いし、CSR 活動の一環として協力いただいています。また企業の記念事業時、地域への寄付を頂いております。工場見学等により、相互信頼活動の連携を実施しております。
- お互いに活動を補完し合っている。
- 戸崎地区賛助会員（企業）への助成金の依頼等。
- 町内賛助会員。
- 自治会活動を行う際の各種関係。
- 賛助会費の協力。
- 建設業（建築士）との災害時連携、講座協力。
- 就労者、企業訪問。
- こども食堂のことを理解して下さり、継続して支援して下さる企業があり、年 1 回、ごあいさつさせていただき、こども食堂の様子をお知らせしています。
- 賛助会員としての協力。
- 定例会、防災訓練指導、見守り活動、サークル活動。
- 食材（野菜）については市内企業から分けていただいていた。市内の他の子ども食堂とも交流があり情報も得ています。参加者の紹介を兎相にお願いしています。行政とのやりとりについて市議さんにも支援をいただいています。

### 【商工会】

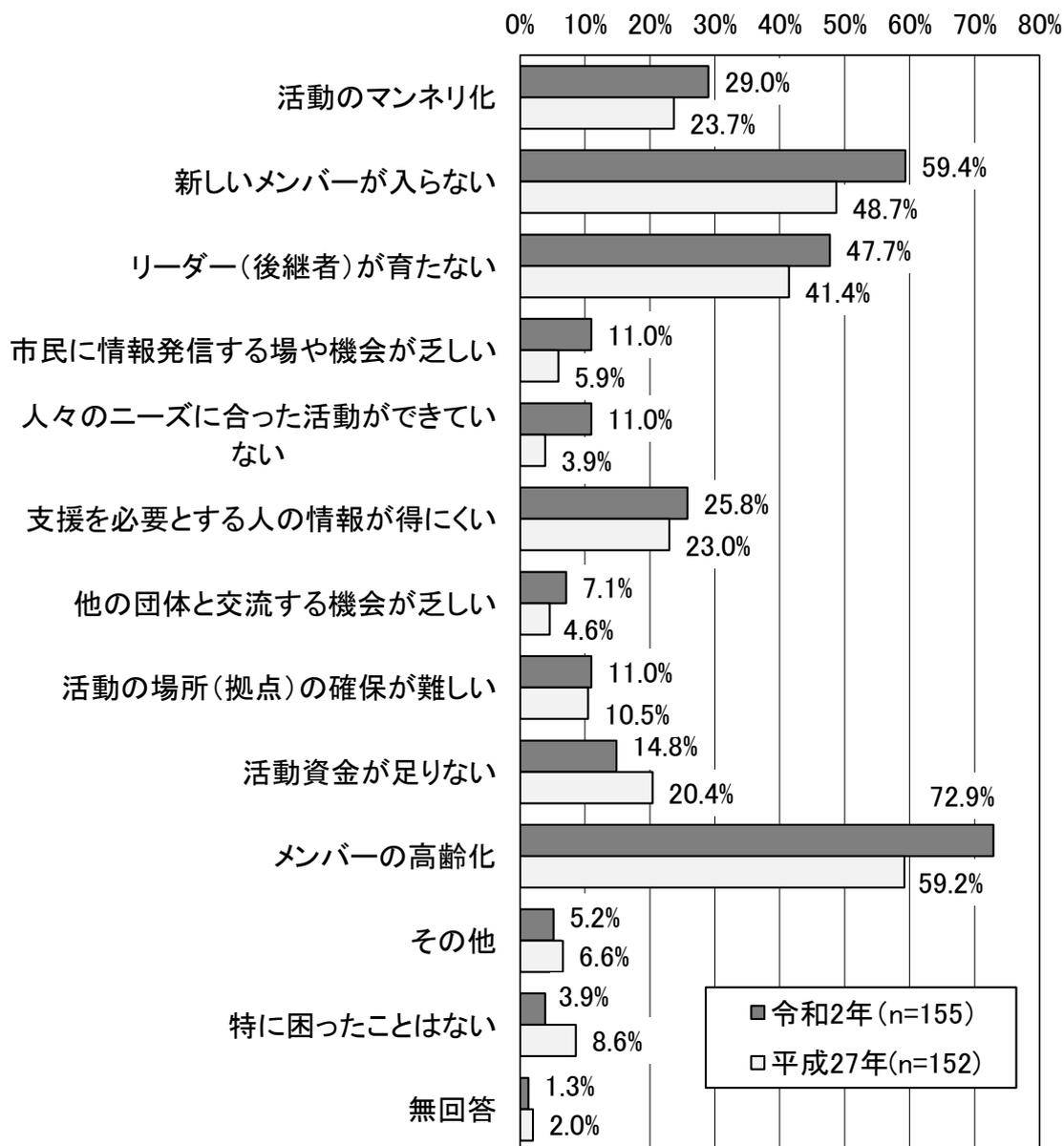
- 情報交換、活動支援。
- 運営に関する事務補助。
- 団地内一か所なので、できるだけ使用を呼びかけ。

### 【その他】

- 水害を受けた当地区では、いつも防災やタイムラインなどの実施が必要な為、防災士協議会には、協力いただいています。
- 保護司：福祉委員として地域の連携活動に協力いただいている。
- 団体登録し、イベント参加協力や施設訪問の要請など頂いております。
- 地区ごとの育成連合会に学童単位で協力。
- 多方面から直接当グループに集まった古切手を整理しております。
- 料理教室の協力、伝達。

**問2 貴団体が活動を行う上で困っていることはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)**

活動を行う上で困っていることについては、「メンバーの高齢化」が72.9%と最も高く、次いで「新しいメンバーが入らない」が59.4%、「リーダー（後継者）が育たない」が47.7%となっています。



※問2で「1」から「11」のいずれかを選んだ団体にかがいます。

**問2-1 問2で挙げた課題解決のためには何が必要だと感じますか。(具体的に記入)**

**【活動のマンネリ化】**

- 活発にイベントをする。
- 他の地域活動の事例を見学することで、やり方の見直しや効率的方法も見つかるので、幅広い交流等が必要と思います。
- 参加している人たちが求めているものは何であるかの把握。
- 新しいメンバーが入ってこないため、活動がマンネリ化している。また新しいメンバーを積極的に入会してもらうような努力が足りない。仲良しクラブ的になっている。→自治会、役員がより積極的に活動団体、活動状況を周知し、気軽に参加できるように努めることが必要と思われる。
- 執行部役員により地区の人達との交流、情報の収集。区長、副区長、民生委員等人選にはかなりの努力をして探しているのが現状。
- 若い仲間を増やし、新しい考えを取り入れた活動が出来れば、マンネリ化を少し変えられると思う。その為にはいろいろな考えを出し合い、話し合える、常に意見交換の出来る雰囲気を持つ必要があると思っています。
- 年間の行事が通年と変わらず、一般の会員の興味がわからないのではないか。

**【新しいメンバーが入らない】**

- だんらんやサロンでいえば、参加者の固定化が強い。回数を増やすか、そのためには世話役が必要だが、なかなかやる人がいない。支えあいの会では、支援を希望する人がなかなか手を挙げない。広報の工夫を考えたい。(経験談など)
- 1. 新規加入促進について、積極的面と工夫などが必要。未加入団体もあり。  
2. 高齢化はやむを得ないが、次世代を担う比較的若い層の人員増加をはかることが大切。
- 会員全てが旧公団(団地)住人であるため、人口構成が固定されている為、新規住人との交流、情報交換が全くない。新規住人の年齢が平均40才である為、老人クラブ加入適齢には今後20年を要する為、どうしても年齢断層ができてしまう。今は無くなったが、旧区制を撤廃してほしい。
- 町内の高齢化。
- 町内会役員(7名)と地域住民と対話を持つ機会がないので困っている。勿論新役員の入会があれば。
- 若い人が参加できる仕組みを作る。
- 組織の魅力を新しい人たちにあった方法で宣伝展開する必要があるのではと思います。SNSの活用も必要ではないかと思います。
- 町内会活動の情報・PR活動しているが、関心を持ってもらえない。よって、新しいメンバーが入らない。活動の盛り上がりには欠けている。町内会活動の情報・PR活動又、社会福祉活動等の情報をしつこく浸透させていくしかないかも。
- 地区外よりメンバーの募集。
- 活動のPR。
- 傾聴ボランティア養成講座。

- メンバー不足。ボランティア的仕事になる事が多い（見守り等）ので、担当者に対しての報酬の問題が出てくるのでなかなか募集出来ない。
- その解決方法は難しく、ボランティア活動が出来なくなるかと。
- 活動を市民に知らせ、関心のある市民にボランティア養成講座などを実施して、参加を促すシステム化が必要。これまでも取り組んできたが、発信力が弱く実績が上がらない。散発的には、市社協から紹介もいただいている。
- ボランティアの募集は社協だよりをお願いしているが、申し込みがない。
- 講習会後の定着がよくない。上尾市に視覚障害者の団体が無い。
- 活動内容をより多くの人に知ってもらって、質問者を増やすようにする。
- 異世代交流が出来る機会があるといいと思う。
- 自治区内の人の情報が把握しづらいので、メンバーの勧誘ができない。回覧板等でお知らせする。
- 役員の依頼については、最近は高齢になっても仕事を続けている方が多く「仕事をしている」との理由で断られる場合が多い。
- 組織、活動内容の見直し。
- 住民の意識改革、自治会員の増加、若い人達の無関心と少子化の対策。住民情報が個人情報の壁があり、支援手順等の確立が困難。
- 当町会はサラリーマン世帯がほとんど。町会執行部としては、定年後の60代が望ましいが、人数が少なく、人選に苦慮している。輪番制である班長、地域を3つに分けており、班長の長であるブロック長を3名任命。直ぐには難しいと思うが、ブロック長が次期執行部役員との組織作りを考えている。
- 60歳代への勧誘が必要。
- ふだん付き合いのある人が勧誘する。集まりがあった時に声をかける。
- 広報活動、対価の支払い（完全ボランティア精神の限界）。
- 人材を求めるだけでなく、形を変えた活動を考えていくことかな？
- 新しく町内に来た若い人たちに町内を知ってもらう必要がある。町内会に入ってもらい行事等に参加して地元の人たちと交流を図り、町内に関心をもってもらう。ボランティアに無関心の人が多い中、メンバーに入りやすい環境作りが必要と思う。
- みんなが興味を持ってくれそうな活動内容。
- 自治会としては①全員数の減少②自治会役員辞退の増加。将来的には先細り→特に対策が思い浮かばない。
- 地域に住む人々に活動を理解させる事。情報を発信する事。積極的に地域活動を実施し交流をする。
- コロナ禍で経済状況も悪化しており、自分の事で精一杯で自治会活動まで気が回らない。経済の回復。
- 地域の助け合い活動には、元気な高齢者だけでなく、幅広い地域住民の参加が必要。参加しやすい内容、曜日、時間等を検討し取り入れていく。
- 執行部役員により地区の人達との交流、情報の収集。区長、副区長、民生委員等人選にはかなりの努力をして探しているのが現状。
- 町内会の意義のPR手段。
- 災害ボランティア（個人）との顔つなぎ。平時からの研修。災害時の専門知識の習得。

- 上尾あゆみ会入所時に、積極的に入会の勧誘をしているが、事業所への入所も減っているのに、特別支援学校との交流（事業所とともに）が必要だと感じている。
- 新しいメンバーの参入。
- 募集をしています。
- ボランティア養成のための講座の共催。
- 大切なボランティア活動だと思っているが、今後、団体での活動は難しいと思う。個人ボランティア希望の方もいます。個人ボランティアの充実化をお願いします。
- 「広報あげお」等でボランティア活動を紹介し、活動に参加するよう勧めてほしい。
- メンバーなどによる口コミの強化。
- 団地内ボランティアについては、その有償化（1000円/時）を積極的に進め、高校生も含めた若い世代の参加を期待するところとなっている。
- 趣力ある活動を考えて、若年層をとり込んでいけば、いいのではないか。
- ボランティア活動ですが、若い人が少ない。

### 【リーダー（後継者）が育たない】

- 職務が特定の人に集中してしまう。連合会の有り方を再検討。充て職（もどき含む）をやめる。
- 若い人材の発掘、育成。
- 会員全てが旧公団（団地）住人であるため、人口構成が固定されている為、新規住人との交流、情報交換が全くない。新規住人の年齢が平均40才である為、老人クラブ加入適齢には今後20年を要する為、どうしても年齢断層ができてしまう。今は無くなったが旧区制を撤廃してほしい。
- 問題点を分析し、改善案と実行に移すリーダーシップ。
- 積極的に人の為に取り組む人材が見当たらない。役員になりたくないから自治会を退会する人がいる。
- 活動の継続と会員への情報提供、班長会の活用。
- 代表者になる人がいない。
- 役割の活動については、任せて活動する事が育成に役立つが、すべての人が社長に適切と言えないのと同様に、組織のリーダーに適している人とそうでない人がいる様に、得手不得手が有るから難しい。自治会組織での自治会活動とは、基礎知識的な講座を行政主体で地域活性、活動推進のため、計画していただきたい。これは、地域福祉活動の推進活動にも言える内容であり、福祉活動でも検討していただきたい。
- 継続的な勧誘、活動項目の選択と集中、役員業務の軽減。
- ①後継者を募集する機会が必要。②後継者の育成。
- 自治区内の人の情報が把握しづらいのでメンバーの勧誘ができない。回覧板等でお知らせする。
- 若い後継者を育成することです。  
課題：会合が多い、申請事項が多い、アンケート等（平日会合、18:00～）めんどうである。  
解決策：土日の会合を実施。役所に出向かずネットにて処理をできるように。
- 班の縮小化を図る。様々な地域活動の軽減を図る。
- 魅力ある行事を企画し、会報で知らせる。パソコンを使える人を役員に起用する。→いきいきの仕事。市役所がデジタル化の先頭に立ってホームページを作ること。→市役所の仕事。
- 後継者が育つ社会的環境。

- 後継者不足は福祉活動にとどまらない。後継者が決まらず同じ人が止むを得ずやっている。この様な状態を見ていると誰も手を上げない。今後の活動で何をすれば解決するのか決まっていない。
- 執行部役員により地区の人達との交流、情報の収集。区長、副区長、民生委員等人選にはかなりの努力をして探しているのが現状。
- 1. リーダーに適した人材は、個人の性格や能力による所が大きいので、今いる人材の中で養成するのはなかなか難しい。年齢的にも60代以下が望ましい。それには新しい人材を探すしかないが、簡単にはいかない。そのため下記対策を検討している。
  2. 会の組織と活動の規模を縮小し、時間に余裕があり活動に対する意欲の高いメンバーが、少人数で運営する組織に変えていくことが、現実的な解決策と思っている。
- 活動する為の教育と指導者が必要（教育）。
- 人が少ないので、入居者を増やす事。
- 問題点の共有化。
- 共働きや高齢者の就労で活動に参加する絶対数が不足しているので、これを増やすことが必要。
- ・リーダーになれる人材育成をしていく事。
  - ・サラリーマン時代により、定年後に65才後でないと時間的にむずかしくなってきた。
- 中、長期的な育成。
- 広くリーダーを探していますが、知識、経験がないという事で引き受けてもらえない。
- 高齢化が進む中で有り、若い人達の参加が少なく、リーダーをやる人が居ない。
- 若い人達に活動内容を理解してもらおうと、共に意見を言いやすい環境を作り、意見を取り入れていかないといけないと思います。

#### 【市民に情報発信する場や機会が乏しい】

- より添い相談に乗ってくれる人、話し相手等、一人では生きていけないという事を本当に自覚しているか不安です。地域世帯の情報の入手。
- 支部の福祉活動内容を新しい人達に合った方法で宣伝展開する必要があるのではと思います。専用情報提供アプリや SNS の積極的活用も必要だと思います。本体組織の情報提供だけでなく、支部情報も配信提供してらいたい。また、これらに接しられる様に勉強の口座実施もセット願いたい。
- 傾聴ボランティア養成講座。
- 高齢化、独居の世帯が増えており、社会から孤立している方、又は、ストレスを抱え精神的に落ち込んでいる方等に、傾聴のボランティアがあることを知っていただきたい。
- ソーシャル・ネットワーキング・サービスの活用（SNS）。地域の中で支え合うための「アプリ」の開発。災害時、広域指定避難所の開設状態と定員の達成状況を、マップに表示する。赤は満員、黄色は80%、みどりは受け入れ可能とか。（避難所アプリ）
- なないろ活動を沢山の人に知ってもらう為、障害児者の生活を知ってもらう為、反対に障害児・者当事者とその関係者の困り事、やってほしい事を知る為、参加者やスタッフ、ボランティアなどの募集をする為…等を発信する場を必要としています。もっと沢山の人とつながらないといけません。SNSなどネットを使っての情報発信も必要かと感じていますが、そこまでの労力がないので相談出来る場や人材（できれば無償で）が必要です。

- 障害福祉についてアピールする場や、魅力を伝えていくことが必要。根本的にそれには「障害者」という立場ではなく、社会の中で評価されることが大事と考える。働く場での対価や、施設に人材が集まるよう、運営がしやすくなるよう、社会全体の仕組みが検討されると有難い…と考える。
- 支援を提供する側と利用したい側のマッチング、情報提供の工夫。人材確保、人材育成のための機会（研修会や合同会等）。
- 自治区内の人の情報が把握しづらいのでメンバーの勧誘ができない。回覧板等でお知らせする。
- 団地前の空畑をかりて花や野菜を植えて、団地社協の看板にしようとして現在とりくんだところです。
- 市からの情報発信をお願いしたい。
- 支部社協で行っている活動を、誰でも身近に感じられるような情報を定期的に伝えて行くことなど。
- 民生委員、ボランティア等活動に関わる人が限定されている。福祉委員になっている事も覚えがない人が多い。活動内容の周知が必要。福祉委員の目的PRが必要。
- 困っているという度合いが難しいですが、支援を必要とする子ども（家族）にこども食堂の存在をお知らせしたいです。充実した広報方法が必要かと思います。

#### 【人々のニーズに合った活動ができていない】

- 人々のニーズがどうなのか、どんな悩みがあるのかいまひとつ把握しきれていないと思う。アンケートなどでは出てこない、個人個人の悩みをどうやってみ上げるか？要介護3以上というほど重くない人が問題です。
- 老若男女それぞれ趣味が違い、ニーズに合わない。
- 手を挙げている人は、地域は率先して救済時は協力できるよう、地域内の情報共有は実施している。日常での支援活動は、対象者が見えていない状況であり、民生委員・児童委員からの支援要請時に対応する体制を築いておく程度が限界だと思います。もっと踏み込めと行政が望むのなら、日常時でも、緊急避難者支援リストの開示配布を地域団体に実施すべきであり、地域に負担させるべき内容項目ではないと思います。
- 班の縮小化を図る。様々な地域活動の軽減を図る。
- 子どもからお年寄りまで、全ての年代の町民が参加できる行事が少ないので、何か適当な行事がないか考えている。個人情報保護法により、支援を必要とする人の情報が得にくい。

#### 【支援を必要とする人の情報が得にくい】

- 会員間の情報共有化、地域の住民とのコミュニケーション強化、地域民の行事への参加推進。
- 地域のあったか見守りサービスとの連携が望ましい。
- 避難行動要支援者名簿。情報提供同意書以外の要支援者名簿。
- 高齢者や障害者などの要援護者に対する支援の必要性は、自治会としても認識している。しかしながら現状では、個人情報保護の観点から十分な情報が得られないことのほか、自治会との関係が深い民生委員側にも守秘義務があり、お互いの情報の共有は難しいのが現状である。また一方で、仮に必要な情報の提供や民生委員との情報共有が図られたとしても、当該情報を管理、活用する自治会側の人員、人材が不足しており、直ちには十分な支援活動ができるかどうか不安である。

これらの課題解決ためには、①要援護者情報の適切な提供とそれに伴う活用のための民生委員、社協、地域包括支援センター等を含めたルールづくり、②自治会が地域のニーズに的確に対応した様々な事業を展開していくための自治会執行体制の強化（※）が必要である。

※自治会は、その前身である事務区制度の下で、地域の核としての役割を担ってきており、実に多種多様な業務を抱え余力がないのが実態である。また、地域コミュニティの希薄化、価値観の多様化等により特に若年層の未加入世帯の増加等により加入率が低下傾向にある。このため会員全体の高齢化や役員の高齢化により新たな事業になかなか踏み込めない事情がある。引き続き地域コミュニティ、地域福祉の一役を自治会が担っていくためには、自治会独自の取り組みも引き続き行っていく必要があるが、市役所においても、市横断的に自治会に依頼している様々な業務等について自治会負担の軽減を図る視点に立った見直しを行うことも一つの方策である。

- 自治会の情報発信力の向上を図る。（地域のことが分からない。）多様化する地域の役割を協力して担い合う。現実の課題を行政と自治会とが担う役割を議論する。また、協働できる地域組織を整えていく。
- 誰がどんな悩みを持っているかわからない。こちらから出向かないと面会できない高齢者が多く、そのきっかけが難しい。
- 情報収集の多様化。
- 班の縮小化を図る。様々な地域活動の軽減を図る。
- 市内在住の視覚障がい者の情報（個人情報とはなるが）が得られない。
- ・コロナ禍における情報の入手が困難。
  - ・アナログからデジタルへの移行が具体的にわからない。
  - ・空き家情報を要望します。
- 情報の共有が難しい。（個人情報保護法が立ちはだかる。）特に問2の⑥メンバーの高齢化により活動が鈍化、活気が鈍る。
- 隣近所、交友等の日頃の日常活動の中から、身体的問題等について情報収集をすることが課題。各家庭における「困った事」を把握することが困難であるからであると推察されます。困っている事を積極的に発信する人は反対に自立心が高い。目に見えない人の情報を把握する感性が必要。

#### 【他の団体と交流する機会が乏しい】

- 各事業を行う時、班長（108名）に役割分担を行い、参加していただく。又、各種団の役員も積極的に交流の機会を作る。
- 班の縮小化を図る。様々な地域活動の軽減を図る。
- 関係機関・団体との連携。
- 他の団体と交流が少ない。イベントの参加が少ない。
- マンションという立地上、他の自治会でやっている「祭り」等の沢山の人が参加する行事が行いづらい。子供（子供会）、老人（いきいきクラブ）の行事はあるが、会員の多くを占める勤労世帯、専業主婦を対象とした行事がない。他の自治会（団体）との交流等で参考になる行事があれば行っていきたい。新しいメンバーの獲得には会の魅力作りが必要。自治会からの情報を多く発信することと、会員の多様な意見をすい上げる体制作りを考えていく。

### 【活動の場所（拠点）の確保が難しい】

- まず活動拠点を確保したい。本町は1区2区3区とあり、3区に自治会館がある。2km以上離れているため、いきいき活動、子供会、町内会議に行きづらい。小さくても良い、プレハブでも良いので拠点が欲しい。新規事業を考えた場合、人材、金銭が必要になってくる。その為には若い新しいメンバーと町内会員増強が必要であるが、ボランティアと言っては新しいメンバーは集まらない。また町内会員になった為の大きなメリットが必要。募金等デメリットが多いので、新規会員が集まらない。
- 市の協力で広い常設拠点事務所が必要。会合や小規模ボランティアの活動拠点エリアとしても併設できる。
- コミセンの改修で活動する場所に困った。コロナの影響で人数制限などにしぼられダブルパンチだった。そのような時に良い活動場所のアドバイスが欲しかった。
- 活動拠点となる施設の拡充。活動する場所の利用料の減免。市民への周知、理解の促進。
- 班の縮小化を図る。様々な地域活動の軽減を図る。
- サロン活動を活発するためには、自由に使用できる場所が必要。空き家などを活用できるよう、市が積極的に環境を整備してほしい。
- 1番大きな課題は活動場所の確保です。活動を初めて3年たちますが未だに活動の場について安定した状況が作れていません。市への要望書もお出ししましたが、担当課を含め、さらなるご理解が必要と思います。
- 活動場所の確保（活動するグラウンドが無い）。

### 【活動資金が足りない】

- 活動資金が足りないので支援をお願いする。
- リーダーのなり手が無い。活動資金、会費徴収には限界があり、みんなでバスハイクができない。年1回くらいは、会員全体でバスハイクをしたい。
- 市より、地域の福祉活動に資金援助を投入していただきたい。やってほしい地域課題だけ提示するのではなく、活動に対する資金提供も適切にないと進まない。非正規世代が多くなっている現代のご時世には、無償ボランティア活動を基本に考えるのは合っていないのではと思います。ボランティア活動でも諸外国と同様、有償の活動も取り入れて、空いた時間、余った時間を奉仕活動やお助け活動に入っていけることが大切ではないでしょうか。ちょっとしたお助けシステム組織をSNSなどでできるマッチングアプリの提供協力などが必要。
- 助成金や支援金の充実。
- 会員も高齢で年金暮らしなので、活動費の自己負担が厳しい。
- 班の縮小化を図る。様々な地域活動の軽減を図る。
- 自治会会員を増やす。
- 自治体からの補助金の増設、世帯数でやってほしい。

## 【メンバーの高齢化】

- 地域の高齢化が進み、具体的な対応策が見つからず、具体策が今後の課題である。現状では大きな問題はでない。
- 1. 新規加入促進について、積極的な面と工夫などが必要。未加入団体もあり。
  2. 少子高齢化はやむを得ないが、次世代を担う比較的若い層の人員増加をはかることが大切。
- 就業年齢の高齢化。(活動時間が合わない)
- 高齢化率現在 40%、5 年後 50%ないと思います。健康増進し長く活動に係わる。活動内容の絞り込みを行い、高齢に見合った行動を実践する。自助努力の限界はどこにあるか見極める。やれるもの、やれないものを分化する。不足するものを公助にたよる。
- 会員全てが旧公団(団地)住人であるため、人口構成が固定されている為、新規住人との交流、情報交換が全くない。新規住人の年齢が平均 40 才である為、老人クラブ加入適齢には今後 20 年を要する為、どうしても年齢断層ができてしまう。今は無くなったが、旧区制を撤廃してほしい。
  1. 特にメンバーの高齢化があり車の運転(相乗り)にて施設、学校様へ訪問するが、高齢ドライバー交通事故の危険があります。(免許証返納者も出てきてボランティア継続のネックとなる)
  2. その解決方法は難しくボランティア活動が出来なくなるかと。
  3. よって市からボランティア受入先(施設)から車の手配が出来るか?
- 調整区域が多く、住宅が建てられない為、既存住居に住み続けている市民の高齢化が急速に進行している。子供もほとんどいないので、他の自治会と合併するか、分割して他の自治会へ吸収してもらおうなど根本的な解決策が必要です。
- 会を脱会する。
- メンバーの若返りが必要。
- 第二産業道路の建設に伴い立ち退き世帯が多かった為、総合的に住民の数が減少し、かつ残った世帯は高齢化世帯が圧倒的に多く、若い世代の人材が必要であるが、若い人達は外部へ出ていき人材に乏しい。
- 全ての行事がパソコン仕様で作成されており、パソコンの出来ない人が役員になっている。引継ぎ等が出来ない。
- 今、町内会で活動している人の平均年齢は 70 歳を超えています。最優先で解決しなければいけない問題は若い人達にメンバーになって頂くことです。若い人に入って頂ければ、リーダーの育成や活動のマナー化も改善を図ることも容易になると思う。
- 雇用年齢の延長等で、益々高齢化と成っていく社会情勢からみれば、どうしようもないのではないかと。必然的状況であり、これの対策として若者を取り込む対策と言っても、非正規雇用が増加する雇用政策の中では、対応が無いのではないかと。せめてもは、会議とか行事とか活動を極力土、日、祝日に集約するようにして、参加協力いただける人が高齢者のみに偏らない様にする以外に手はないのではないかと。
- 活動開始時の年齢が高かった為、メンバー全体が 9 年経過した現在さらに高齢化しました。車の運転免許返納者などがあり、活動の範囲が限定されました。現状維持でいいのか?迷っています。
- 趣味を生かしてボランティア活動を続けているが、若い人には全くの手弁当というのが理解し難いようだ。多少の弁当を準備しなくてはならない時期にきているように思える。

- 当会は、いきがい大学伊奈学園の卒業生で、上尾市、伊奈町居住者を中心に会員構成しているが、2019年度末でいきがい大学が閉校された為、今後は減少のみとなる。
- 障害福祉と高齢者福祉が縦割りではなく、スムーズに高齢者福祉へ移行できるようなシステムづくり。
- ①高齢化は避けられない現実です。従って現実を踏まえて活動を推進します。  
②活動結果を回覧板等で報告し理解して頂く。  
③現在はコロナの感染予防の為活動を自粛中で、活動が停滞するのを恐れて居ります。スマホ、タブレット等の使い方教室等を開き、活路を探して居ります。
- 自治会会員の高齢化が進み、自治会活動の担い手の確保が難しい、また定年制の延長により、時間に余裕のある人が少ない。
- 若い人が参加出来るよう、行事を工夫する。
- 若い人の家庭では、個別に楽しむ傾向が強くなっており、自治会等（地域）との関係が薄くなっている。この流れは増々強くなっており止めるのはむずかしいでしょう。
- 近年少しの住宅地化で戸数も増えましたが、仕事と子育てで精一杯のようです。人口が少ないので、在住者が毎年一つの役持ちで自治会機能を維持しているのが現状です。私も18年ぶりの長ですが仕事は現役ですし、会計から3年目です。×2回。ここ3年間3人続いています。今後も続く予定です。高齢にて眼のかすみ、聞き直し、物忘れで努めています。
- 今年度、コロナ禍の影響で全ての行事がキャンセルせざるを得ません。しかしメンバー（全員）の高齢化が進んでいますので、声かけ等おこない60歳以上の会員拡大に向けてやっていきたい。
- 班の縮小化を図る。様々な地域活動の軽減を図る。
- 地域の助け合い活動には、元気な高齢者だけでなく、幅広い地域住民の参加が必要、参加しやすい内容、曜日、時間等を検討し取り入れていく。
- 一番の課題は、高齢者（75歳以上）が主体の運営になっており、なかなか新しく入る人やリーダーになる人がいないので、啓発活動をしていく。
- 全ての項目の年齢が絡んでいる。仕事をしている人も多い上、高齢化が進み、できる人ができることを行っている状況。ボランティアを押しつけることは難しい。
- 県連でも地元でも高齢化がすすんでいます。現場で困っている人たちがいるはずなのに、全く姿が見えません。チラシ等を置いても効果が上がりません。若い新人（今、本当に困っている人の家族）に必要ですし、その人たちの役に立ちたいです。
- 運転免許の更新時期になると、引退する人が出てくる。バス代は活動の負担になる。「ぐるっとくん」を割引で利用できないか。バスの割引定期券があればと思います。「ぐるっとくん」が利用しやすいよう、コース、本数を増やして下さい。高齢化で自転車利用が出来なくなりつつある。駅や主要拠点から数人単位でタクシー利用の福祉乗車票があると良い。
- 若いメンバーの声かけ（団地外の人達にも同様に声かけを行っている）。
- 若い世代の参画。
- 活動内容の豊富さと若返り・役員の気力、そして資金。
- 1、いきいきクラブ（みどり会）の活動内容のPR。  
2、メンバーなどによる口コミの強化。
- 趣力ある活動を考えて、若年層をとり込んでいけばいいのではないか。

- 高齢化が進む中で有り、若い人達の参加が少なく、リーダーをやる人が居ない。
- 当地区は箕の木住宅と青葉台団地の2団地が主体ですが、結成から50年以上が経過、初期の方は大半が亡くなり、比較的遅くに来られた方も75歳以上が大半である。市街化調整区域であり、新規開発は無く、若い人が入る余地無し、問題解決の手段はありません。

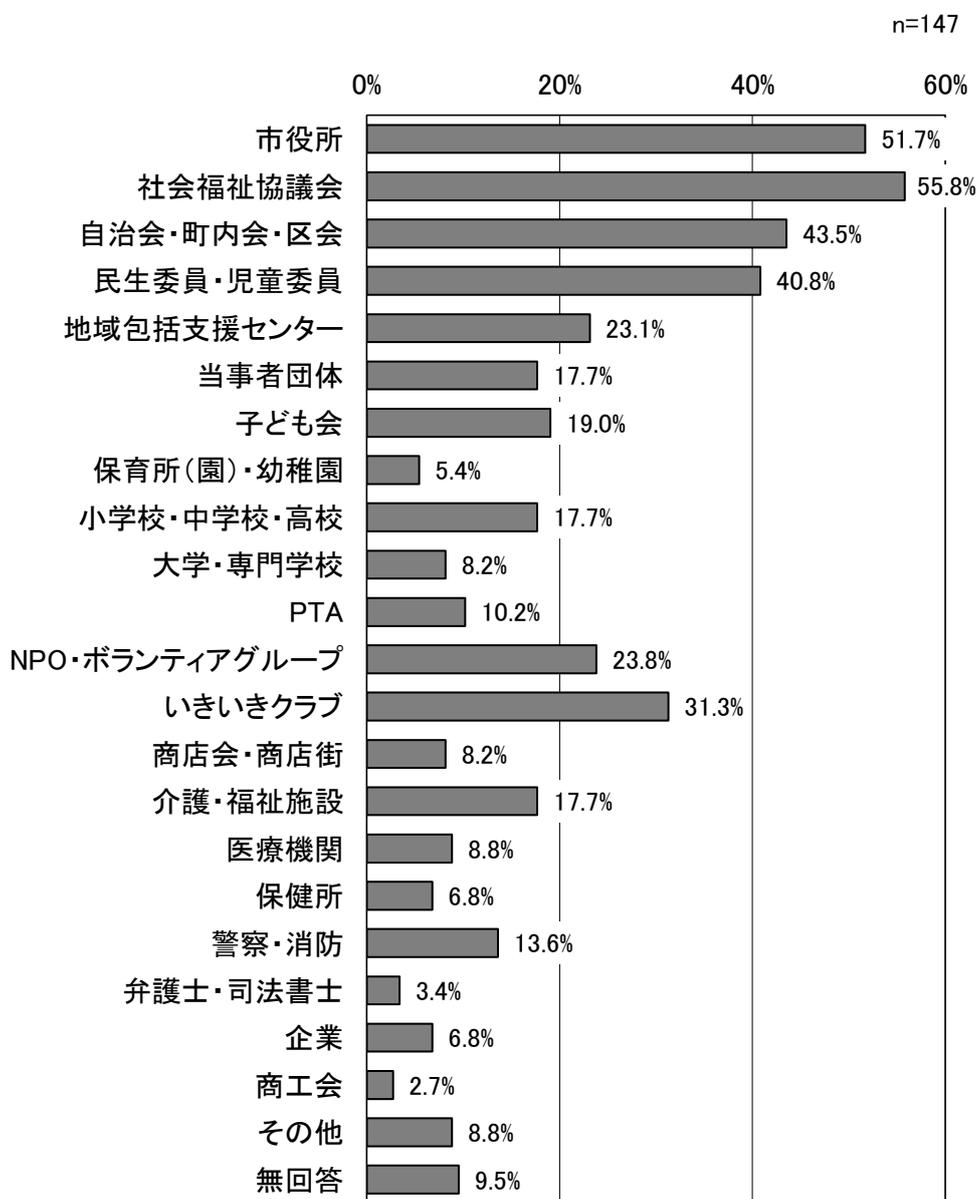
#### 【その他】

- 全体的に切手の使用が減っているのではかたないと思う。
- 現在の対象者も入院、施設への入所等で減少傾向にある。
- 転居してきた世帯には、町内会への入会案内をすすめ入会して頂くようにして入会して頂きますが、脱会する世帯も多い。今までは市の広報を配布していたこともあり、町内会に入会しているメリットのアピールもできたが、広報を町内会で配布することもなくなり、町内会の魅力や入会していることのメリットをアピールすることが難しくなってきた。また、企業の定年延長により町内会役員への勧誘機会が高齢になってからとなるので、人員集めにも支障をきたしている。町内会に入会していることのメリットをもう一度考え直したり、定年になった方などの時間に余裕のある人を探しだす情報手段が欲しい。

問2で「1」から「11」のいずれかを選んだ団体にかがいます。

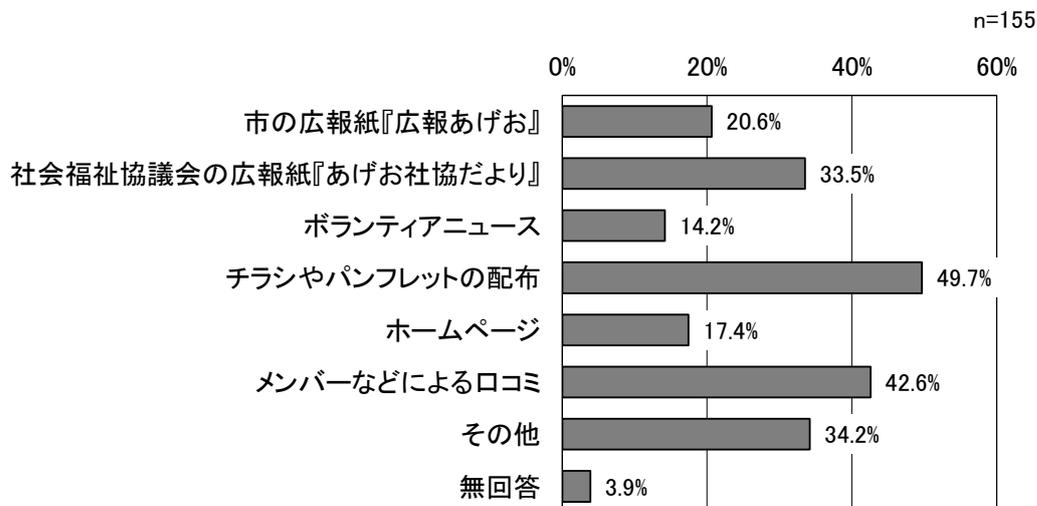
**問2-2 問2で挙げた課題解決のために、どのような機関・団体と連携したいですか。(あてはまるものすべてに○)**

課題解決のために、連携したい機関・団体については、「社会福祉協議会」が55.8%と最も高く、次いで「市役所」が51.7%、「自治会・町内会・区会」が43.5%となっています。



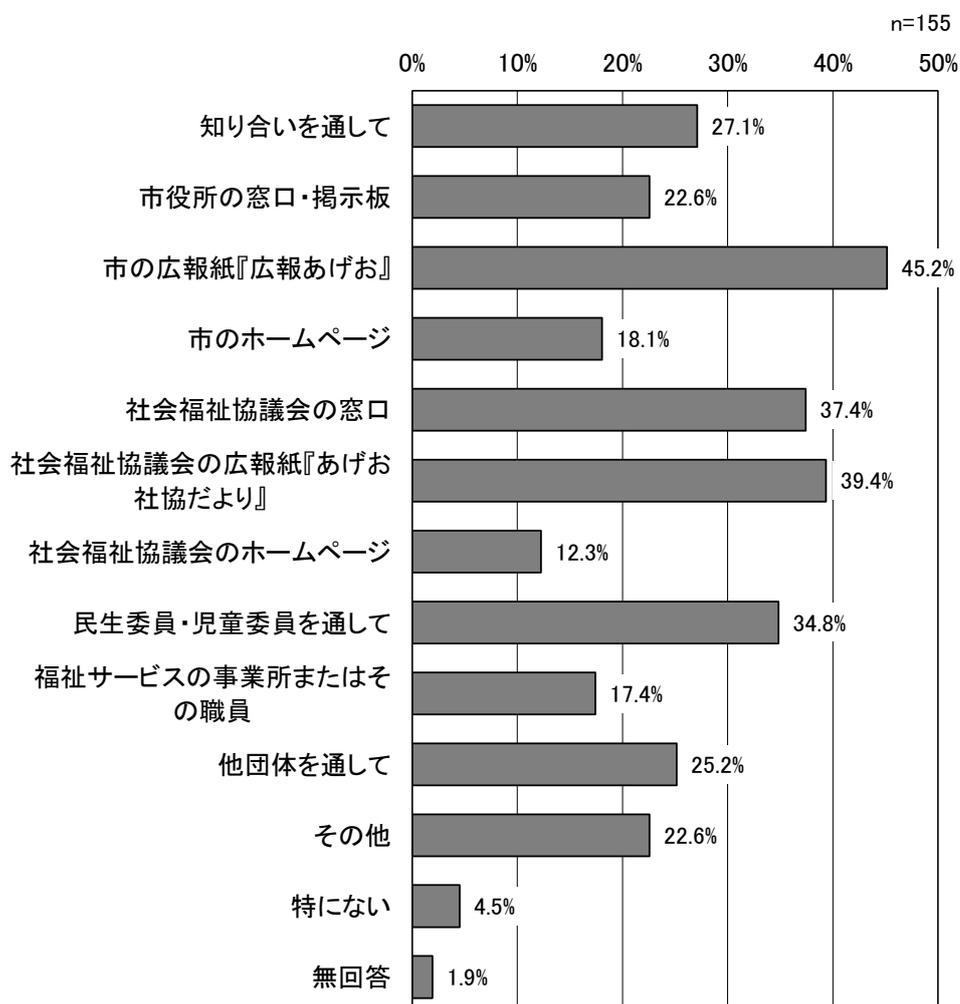
**問3 貴団体では、団体の活動情報をどのように発信していますか。(あてはまるものすべてに○)**

団体の活動情報の発信方法については、「チラシやパンフレットの配布」が49.7%と最も高く、次いで「メンバーなどによる口コミ」が42.6%、「社会福祉協議会の広報誌『あげお社協だより』」が33.5%となっています。また、「その他」が34.2%となっています。



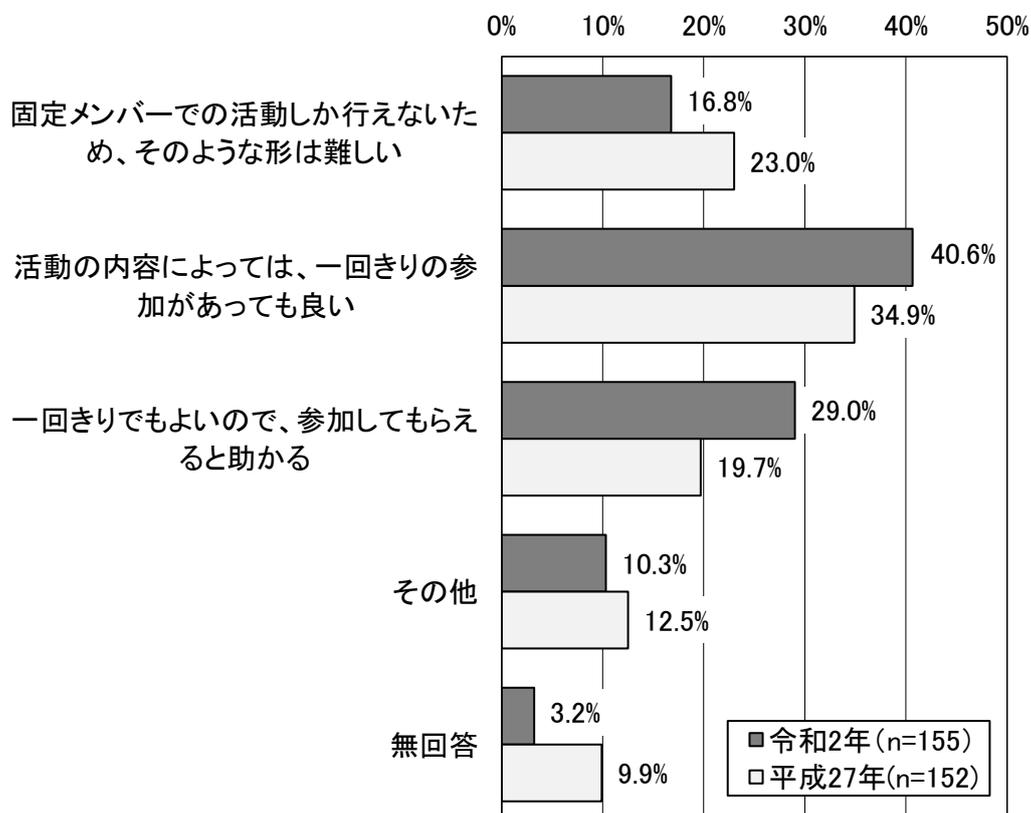
**問4 貴団体では、団体の活動に必要な情報を主にどこから入手していますか。(あてはまるものすべてに○)**

活動に必要な情報の入手源については、「市の広報紙『広報あげお』」が45.2%と最も高く、次いで「社会福祉協議会の広報誌『あげお社協だより』」が39.4%、「社会福祉協議会の窓口」が37.4%となっています。



問5 市民の方が貴団体の活動に一回だけでも気軽に参加してもらおうことについて、どう考えますか。  
(ひとつだけ〇)

活動に一回だけでも気軽に参加してもらおうことについては、「活動の内容によっては、一回きりの参加があっても良い」が40.6%と最も高く、次いで「一回きりでもよいので、参加してもらえると助かる」が29.0%、「固定メンバーでの活動しか行えないため、そのような形は難しい」が16.8%となっています。

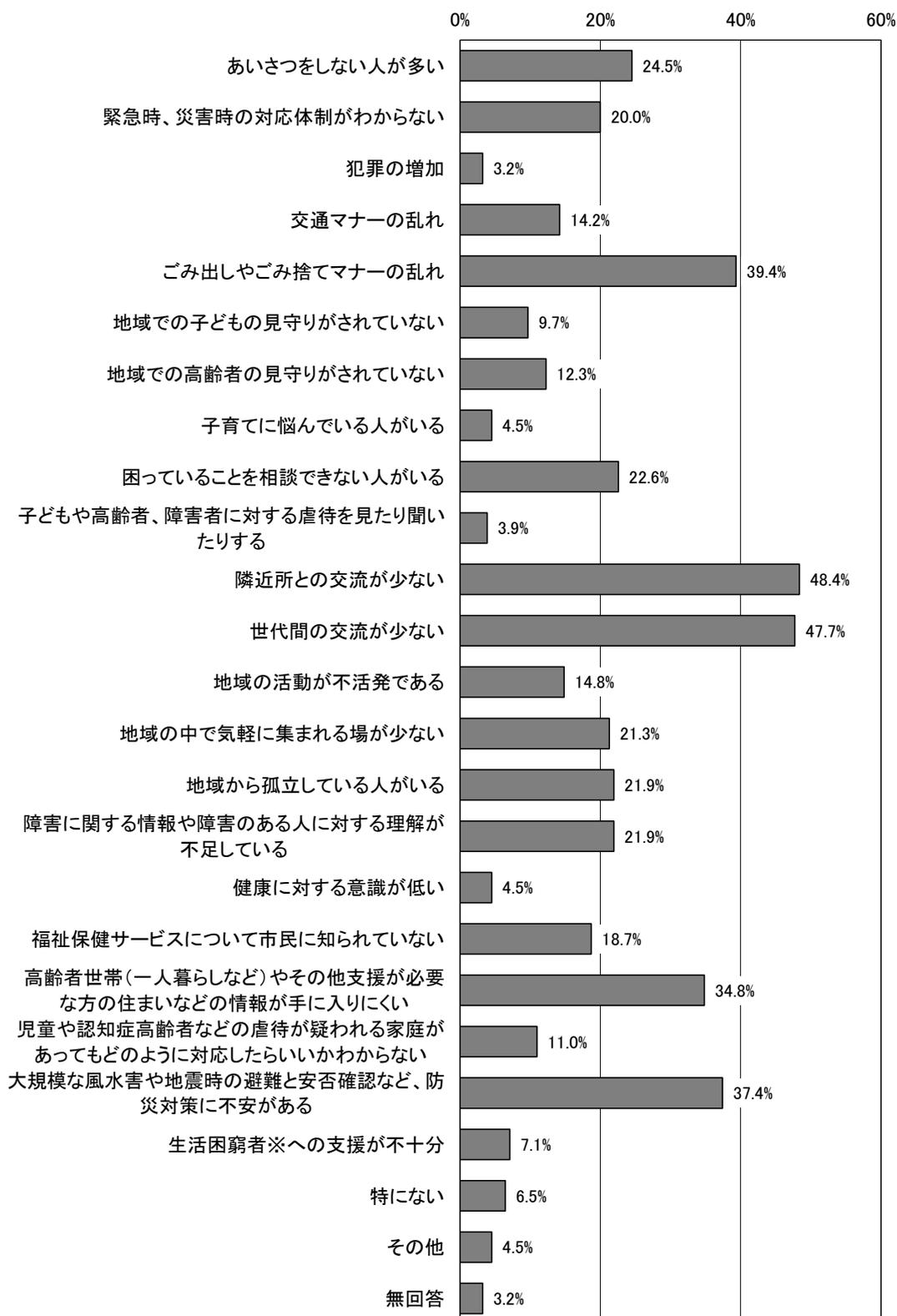


## 2. 地域について

問6 活動を通じて感じる、地域の問題点や課題はどのようなものですか。(あてはまるものすべてに○)

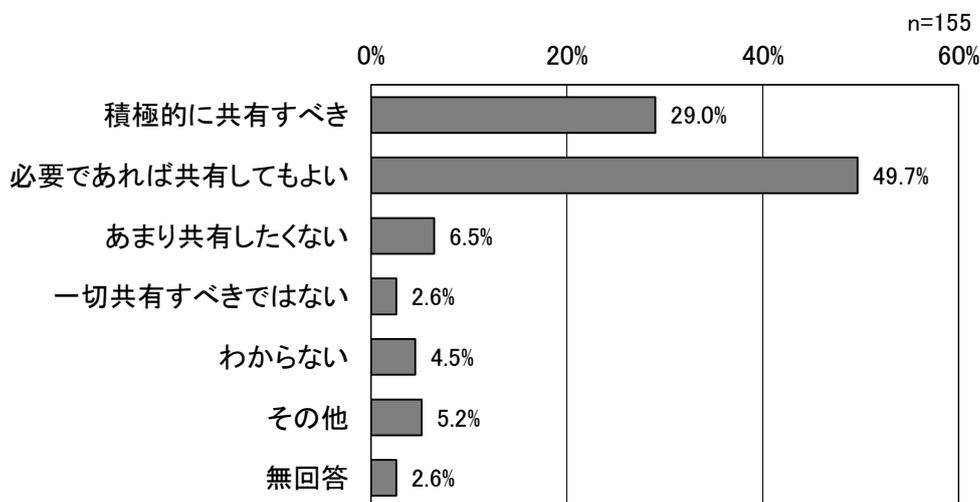
地域の問題点や課題については、「隣近所との交流が少ない」が48.4%と最も高く、次いで「世代間の交流が少ない」が47.7%、「ごみ出しやごみ捨てマナーの乱れ」が39.4%となっています。

n=155



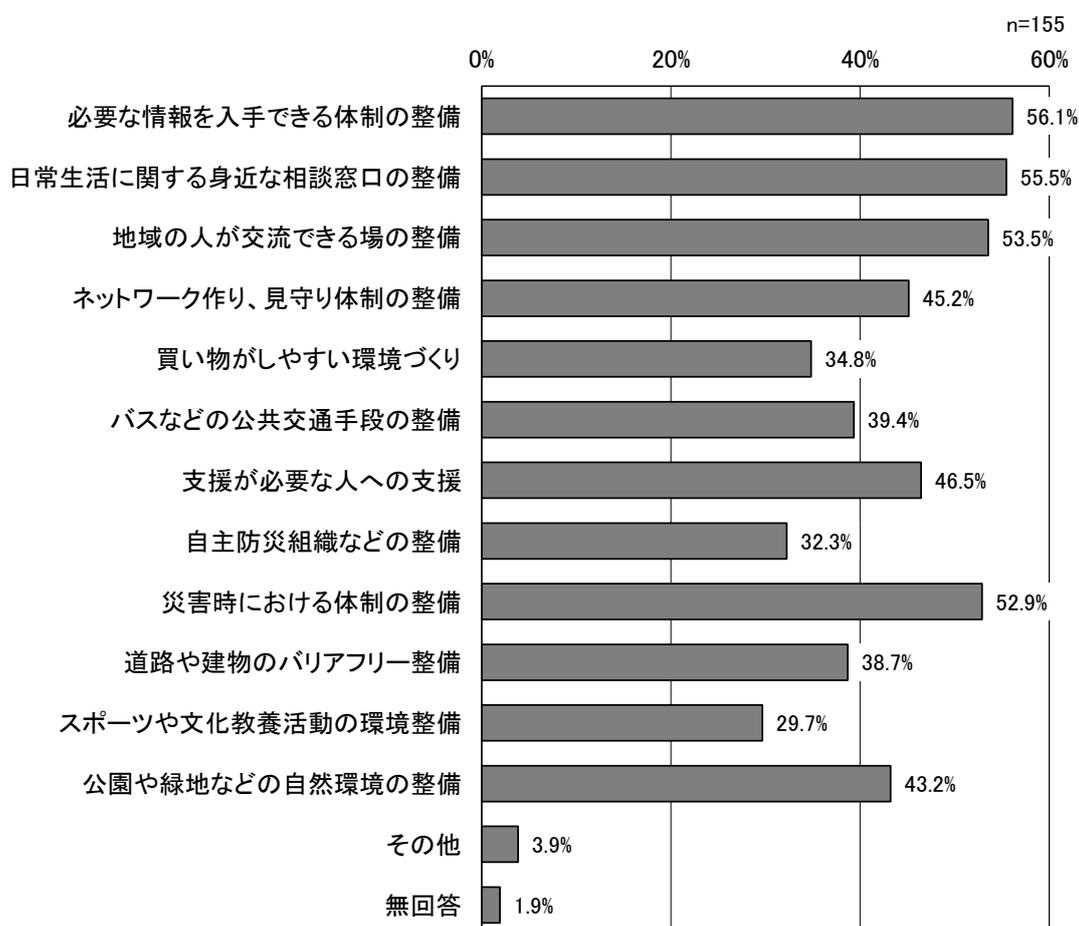
**問7 貴団体では、地域での支え合いのために、自治会・町内会・区会を単位とした支援者が必要な個人情報を共有することについてどうあるべきだと思いますか。(ひとつだけ)**

必要な個人情報の共有に対する考えについては、「必要であれば共有してもよい」が49.7%と最も高く、次いで「積極的に共有すべき」が29.0%、「あまり共有したくない」が6.5%となっています。



**問8 すべての市民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、どのようなことが必要だと考えますか。(あてはまるものすべてに○)**

すべての市民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために必要なものについては、「必要な情報を入手できる体制の整備」が56.1%と最も高く、次いで「日常生活に関する身近な相談窓口の整備」が55.5%、「地域の人が交流できる場の整備」が53.5%となっています。

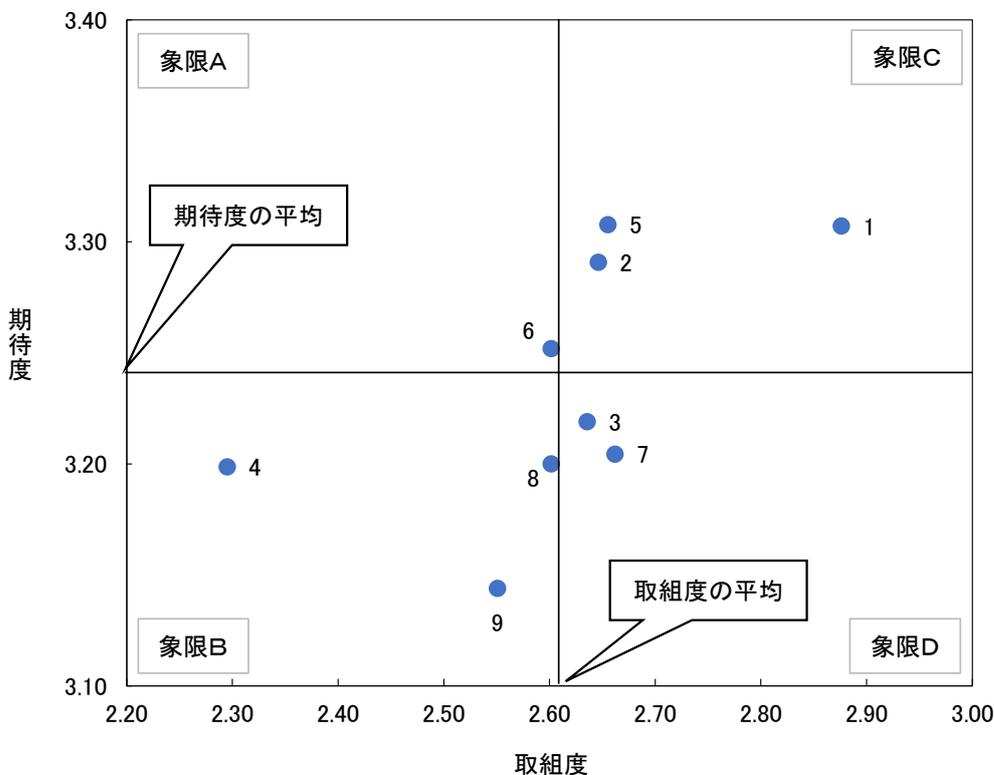


### 3. 上尾市と上尾市社会福祉協議会の取り組みについて

問9 地域における取り組みについて、現在の状況と今後の期待度はどれにあたりますか。(それぞれ〇はひとつずつ)

各項目を点数化してみると、期待度・取組度ともに高い『象限C』に「1. 福祉サービスの利用支援」「5. 地域における防災機能の強化」「2. 支援をつなぐ仕組みづくり」が入っています。

- |                            |                            |
|----------------------------|----------------------------|
| 1. 福祉サービスの利用支援             | 6. 地域における見守り・声かけによる安全の確保   |
| 2. 支援をつなぐ仕組みづくり            | 7. 隣近所や地域の力による福祉活動のきっかけづくり |
| 3. さまざまな団体などによる支え合いの仕組みづくり | 8. 地域福祉活動の担い手の育成           |
| 4. 誰もが外出しやすい環境づくり          | 9. 活動団体への支援                |
| 5. 地域における防災機能の強化           |                            |



- 象限 A 期待度が高く、取組度が低いため、優先的に取り組みを進めるべき項目
- 象限 B 期待度、取組度ともに低いため、他の取り組み状況を考慮しながら、改善していくべき項目
- 象限 C 期待度、取組度ともに高いため、引き続き推進していくべき項目
- 象限 D 期待度が低く、取組度は高いため、取組度を維持しながら推進していくべき項目

※点数化について※

「期待している／取り組んでいる」を4点、「やや期待／まあまあ取り組んでいる」を3点、「あまり期待していない／あまり取り組んでいない」を2点、「期待していない／取り組んでいない」を1点とし、それぞれの回答者数に乘じ、合計した数値を実質の回答者数（全体の回答者より無回答数と「わからない」の回答数を引いた数値）で除した。

## 4. 今後の活動に向けて

問10 身近に困っている人がいるとき、貴団体ではどのような手助けができますか、または、やりたいですか。また、他の団体に期待することはどんなことですか。現在の活動状況に限定せず、できること、やりたいこと、期待することをお答えください。（具体的に記入）

- 町内会では、何でも声をかけていただいたら、手助けする気持ちはありますが、現状は少ないです。声をかけやすい環境づくりをしたいです。
- 困りごとについて、対応できそうな組織に連絡をとる。包括的な窓口があれば。（包括支援センターは介護に寄っていて、それ以外は対応しにくそう。）
- ゴミ出しは、取り組んでみることを検討したい。
- 声かけ、民生委員へのつなぎ、高齢者の絆確保。
- 高齢者への支援として、軽作業（電球交換など）を行っているが、ゴミ出しなど日常作業への支援は回数も多く、誰が行うべきか、これからの大きな問題となってくる。
- ゴミ出し＝UR 関連会社が有料でゴミ出しサービス、週 1 回月額 500 円。子ども達の見守り活動（登校、下校）。
- 民生委員が声かけをしている他、その他種々困っている人には直接会って話を聞き、役所を通して各団体機関に対処をしている。
- 民生委員や自治会職員などと協力しながら、見守り活動の中で役割を果たして行きたい。具体的な内容については、単位クラブでの実態に合った活動を手助けする。
- 見守り活動（買い出し等）、ゴミ出し。
- 定期的に訪問し、話を聞く。共助の推進。
- 声かけ、車いすの人の外出時の手助け。身障者（視覚、聴覚等）への声かけ。
- 声かけぐらいはできるかも、いずれも互いに受け入れられてできること。
- 困っている内容により、必要な機関へ連絡をし、助言を求める。
- 平成 30 年社協（南支部）のテーマが「地域に見合った助け合いサービスの実現を」でして、1 年間基本的な勉強をして、令和元年 8 月末日を以って愛宕町内全域にアンケート調査した。その結果、安否確認の声かけ、見守り、ゴミ出しの順番でして、令和 3 年中には具体的解答が得られると思う。
- 心配事について、相談者があれば解決できるように、関係機関等につなげて解決に協力する。困っている内容にもよるが、まずは相談員や民生委員・児童委員を通じての把握をすることになる。相談事を整理して、本体組織と連携し、行政窓口へ繋ぎ、解決対策に繋げていく。緊急の介護運搬、買い物同伴、買い物依頼の受け入れ対応可能窓口等、実施受入の団体リスト等が相談窓口団体に提示されているのか不明である。相談事の実際行動の事例に即した対応関係機関団体のリストが必要だと思います。そうすれば遅滞ない対応が実施できるのではと思います。
- 困っている内容をヒアリングする。先ずは、町内会で解決できるか検討し、必要に応じて市の窓口等と相談する。
- 困っている人の情報（対象者、内容）を得る方法が無い、わからない。⇒対策が立てられない。
- 声かけ。
- 小さなおたすけ、買い物、ゴミ出し、植木の枝切り他。
- リサイクル品の収集、庭木の剪定、草取り、簡単な修理設置作業、ゴミの片づけ。

- 助け、支援を求めている人のニーズとそれにこたえられる人材の発掘と組織づくり。その2つをむすびつけていく部分を作れたらと思う。
- 草刈り、道路清掃。
- 私共の町内には後期高齢者が400人以上居ます。毎年40人位ずつ増えています。増々高齢化がすすむ中、ゴミ集積場の管理が（カラスの害やアミの管理）困難になって来ます。ゴミ集積場に置くゴミ箱（ケージ）をロータリーやライオンズに寄付していただきたい。
- 情報が入れば訪問している。
- 声かけと相談場所の案内。
- 情報が入れば訪問している。
- 心配事について、相談があれば解決できるように、関係機関等に繋げて解決に協力する。困っている内容によるもので、まずは、民生委員・児童委員を通じての把握をすることに成る。よほど親しくないと、個人個人の内容に踏み込むことはできないし、また踏み込んではいけないことである。
- 日常的に声かけ、ゴミ出し、買い出し、通院手伝い等。
- 独居高齢者の安否確認サービスの啓蒙。特に緊急連絡先の親族・知人の方々との連携。（但し、個人情報にネックで現在停滞中。）
- 現在、居宅介護支援事業している担当利用者については、出来るだけの事はしているが、地域（町内）では見守り等（買い物）を必要な高齢化が居るが、手が足りないので応援出来ない。
- 声かけ、話し相手程度。
- これまでのような親睦交流といったことが出来ない状態となった為、活動の継続が困難かと思えます。
- 近所に困っている人がいる場合、やはりご近所の人をかりるのが一番良いのではないかと。お互い知っている間柄であることが大切である。心も開いてくれる。個人情報保護の関係が一步踏み込めないのは私だけでしょうか。
- 団体としては、個別地域との関係は薄いので、ほぼやれることはない。個人的には高齢世帯の人をマイカーで移送するなどはしているが、そういうことですか？
- 話を聞いたうえで、専門機関を紹介する。
- 当事業所の活動に必要な受給者証をお持ちの方には支援は行えるが、あてはまらない方々への対応としては、しかるべき機関へのリファーをすることくらいしか責任は負えない。
- 声かけやごみの片付け等を通し地域を見守っている。
- 声かけや慶弔。
- 視覚障害者の方への情報提供。
- まず困っている方の話を聴いてあげること。毎週でも電話をかけてあげる。話の内容によって社協につなげる。
- 生活上の困りごとを整理し、必要な支援が受けられるよう公的な組織（団体）へ導いていく。
- ふくふくの活動範囲内での支援。
- 障害福祉に関しての相談受付、サービスの紹介。
- 声かけや情報共有など他団体ともつながっていきたい。
- 現状、地区内においては困っている人が特にありませんが、先日、自治会役員さんに人や車が通りづらいと言われ、木の枝切り伐採を行いました。

■例えば、例に示されているような声掛け、ごみ出しの手助けなどの支援については、本来、地域コミュニティのなかで行われるべきものであり、昔から「向こう三軒両隣」というように、隣近所のコミュニティの下に見守り活動等が行われてきた。こうしたコミュニティの復活がなにより必要であるが、難しいのが現状である。自治会としても薄くなりつつある地域コミュニティを、なんとか活性化する手立てを考える必要があると感じる。一方で高齢化の進行は待たなしであり、様々な支援については、自治会としても取り組んでいく必要があると考えている。しかしながら、問 2-1 にも記したが、自治会では、それを担う人員、人材が不足しており、なかなかこれら全てに対応できる状況にないことが課題である。

※地域で活動する各種団体、ボランティアにこの役割を担っていただくことも一つの方法であるが、こうした団体は自治会と密接にかかわっており、結局のところ現状ではこれらの連携・協力を取り持つのは自治会となる。

- 会員が個人の判断で地域活動している方は多い。会として特にタッチはしない。
- 助け合いサービスが自治会と団地社協にあります。新入居者、退居者がわからない。
- あったか見守りサービス事業→見守り協力員（かわらばん）。話し相手・簡単な片付け・庭木の水やり・買い物・電球交換・玄関ポストから取り込み。地域ごとの見守り活動の展開。
- デマンド交通（タクシー等）の充実を図ること（高齢者の交通手段の充実）。買い物支援の仕組み（高齢化対応）。道路・水路の通行を可とすること（フェンスで遮っているため通学路の要望）。
- 共助の精神を各会員持っていると思われるが、個別家庭の事情把握は難しい。
- 高齢者を対象とする事業には送迎を行っている。
- 日常の挨拶が出来る状態。皆で公園の清掃等を実施し情報の収集。（困っている人がわからない…それらの対策）買い物のお手伝い。
- 隣近所の声かけ。自治会の班長に考慮する。話し相手。サロンの開催回数を増やす。
- 見守り、声かけなど。
- ゴミ出し、買物の補助、軽作業の手伝い。
- 高齢者、障害者の方に対し、買物の手伝い。声かけ、見守り。
- 地域でのつながりを深め、一人ひとりの生活を支援する活動が関係機関のサポートを得ながら取り組むことができれば、「やすらぎサロン」のスタッフの方々が訪問・声かけを行っているが、今後拡大させる。
- いざという時のために、防災体制の整備と防災避難実地訓練。支援が必要な人の情報の共有化。
- 声かけゴミ出しの手助け等は現在行われているが、情報が十分とは言えず、近所の知り合いどうしでの場合が多い。
- 住民、民生委員等から個別の相談が都度ある。個別訪問をし、事情を聞き、出来る範囲でアドバイスを行い、時によっては外部機関への相談をしている。単身高齢者については声かけ、適時訪問も実施。
- 自治会やいきいきクラブのメンバーで話しを聴く状況を作る必要があると感じます。
- 本音を話してくれないので、声かけなどをまめにして、話やすい関係を作る。その中で手助けできるかは判断する。
- 声かけ、ゴミ出し、草取り、枝きりなど。
- 広く声かけて問題解決に協力します。
- 声かけ、挨拶運動を日常的におこなう。

- 班、組織での解決。出来ることは出来るだけやりたい。
- ゴミ出し等は友の会で手助けできますが、家で介護している家族に対する支援に期待したい。(精神的、経済的等)
- 宅地内や畑の除草作業、高齢者の話し相手。
- 高齢独居者への訪問。登校時の中学生の協力を得た、必要な家庭へのゴミ出しへの助力。
- 会員で困っている人がいれば、手助けしたいと思っているが、誰がどの様に困っているのかが不明、確認できず。困っている人を教えて欲しい。
- ゴミ出し、庭木の伐採、電球の交換など、小さな助け合いを行っている。火災などで自宅が使用できないとき、集会所を一時の避難場所として提供する。集会所を新築した後、アップピー体操やサロン活動を行いたい。
- 「いきいきクラブに入会したい」と市役所の高齢介護課に電話があり、私のところに回されてきたケース。その人の地区には、いきいきクラブがなく、近くの地区で引き受けてもらった。事務的にやらないことが大事。
- 町内で手助けを行うためには、ルール作りや情報の収集が必要である。個人情報、プライバシーの問題がある。
- 声かけ、買物、ゴミ出しの手助け。
- 何も出来ない、ただ行政との連絡。個人が求めない事が多い。
- リサイクル(ゴミ出し)など依頼があれば自宅まで引き取りに行く。
- 声かけ、ゴミだしの手助け。
- 必要な事をお手伝いできる人、団体等をつなげる。
- コーディネーターが初期相談を行い、市社協、包括支援センター、民生委員と連携して困りごとに対応している。安否確認、見守りは前記団体とボランティアの協力を得て実施。現在、地域の助け合い組織作りを進めているが、研修や講座開催の支援を市や社協に期待したい。
- 声かけ実施、散止をする方が多いので、お互いに声かけをする。困り事は何か把握し、できる事から実施、自治会で無理な事は行政に上げて行く。
- 声かけ、リサイクルの時など、リヤカー等で高齢者宅に受け取りに行っている。
- 原市地区11区全体で立ち上げた「ちいさなたすけあい運動」を積極的に推進したい(庭の枝きり、草取り、消毒、ゴミ出し等)。
- 「ちいさなたすけあい運動」75歳以上、体の不自由な人対象(お助け隊)。庭の枝切、庭の草取り、ゴミ出し等→昨年実績61件。ボランティアの人数25名。
- 既存の在宅サービスを利用。またそれ以外にも、隣近所同士で声かけ合ってゴミ捨てなどを行っている。
- 孤立感を無くす為に、話し相手になったり、NPOと連携事業である在宅事業で部屋のお掃除、買物、病院の付添等を行っている。期待する事としては、支援して下さる方が増える事。
- 声かけ、地域で集まる行事が少なくなっている中、単身者や日中一人暮らしの人の安否確認が大切と思っている。
- 事例により町内で解決できるか、関係機関を紹介する。
- あったか見守りで安否確認、手助け。

- 声掛け、ゴミ出しの手伝い、話し相手、本の読み聞かせ、紙芝居の実演。他の団体に期待する事、団体同士の情報を交換して協力して行かうか、又はそれぞれが必要な所へ訪問活動が出来たら良いと思う。そのためには市や社協の支援と情報提供が必要と思う。
- 私達は家族会です。当事者とのふれあいは多いですから、その人達の家族が見えません。家族の相談にのりたいです。当事者を無視せずに家族は在りたいと願っています。
- 声かけ、外で逢った時（おしゃべり）等、お話し相手になる等。助け合い友の会（在宅支援組織）の活用。
- 草刈り、大型ゴミの搬出などのお手伝い、空き家の敷地内の整備、草取りなど（団体として平時のお手伝いの気持ちはあるのですが、現社協の受入は個人（平日）のようなので…）。
- 障害者や高齢者など困っている人がいたら、声をかけていきたい。
- 夕ごはんを作りにくい、食べられないときに利用して欲しい。
- 高齢化も進み会員数も少ない為、現在の活動で手一杯です。
- 現在子ども食堂活動は新型コロナウイルス感染拡大防止策のため、お借りしている集会所の利用条件がきびしくなり、活動ができなくなっています。コロナが収束し、集会所の利用条件が以前以上に使いやすくなったら活動を再開し、食の支援、学習支援、子育て支援をしていきたいです。
- 高齢者の低栄養の防止など地区伝達で紹介できる。
- 話を聞く、毎日連絡を取る、お花とコミュニケーションを取る、他の団体と共有する。
- 資源ゴミを出す事が困難の人への手助け、見回り巡回。
- 個人情報保護法の下に、町内会の家族構成や高齢者や障害者の情報がリアルタイムで入手出来ない。他団体組織と連携して、地元の情報を判断としている現況。市のもっている情報を階層的に公開してもらいたい。（町内会長には公開を）
- 声かけ→民生委員へのつなぎ役。
- いきいきクラブ会員に限って行っています。声かけは安全と健康です。
- 単身高齢者が安心して暮らせるお手伝い（週2回のゴミだしやリサイクル品の回収等）。
- 市や社会福祉協議会につなげること。
- 民生委員、包活センターの紹介。
- 諸行事になかなか参加できない高齢者もいる為、なるべく声かけをしていきたい。
- お助けボランティア団体を組織し、困っている人に対して手助けしている。
- 困っている事を他人に話をする事が少ないので、情報が入りにくいので、近隣の人とのコミュニケーション。
- 簡単な作業。家の中にいる人が多いため交流がとれない。
- “小さなたすけあい”運動の拡充を図る。運動活動の趣旨が周知されて居ない。PR不足が否めない為、町内会回覧等を通じPR活動を充実する。
- 1. 近隣での挨拶の励行をし、お互いの健康状態を知る。  
2. 不信な行動をする人を見かけたら、何かお捜しですかと声をかけて警戒をする。
- 「困っている人」の困っている内容と形は人各々多様で異なっている。従ってそれに対応するにも、そもそも手助けすべきことか否かも含め、「手助け」のあり方も多様で臨機応変に対応するとしかいいようがない。
- 子育て中の親に対しての情報提供。

- マンションでは、個々の世帯は閉鎖空間になってしまう。高齢者、体に障害のある方が気楽に声をかけられる（手助け等で）体制、ネットワークを検討したい。
- 民生委員にて対応してもらう様にします。家族と一緒に住んでいれば、可能な限り手助けができます。
- 庭木の手入れ、草刈り手助け等が目立っている様ですので、困り事を良く聞いてあげる事が大切だと思うので、声掛けをしてあげる。
- できるだけ、どんな手助けでもしてあげたいです。声かけは常にやっていますが、ゴミ出しや買い物、病院の付き添いなどは、NPOふれあいねっと（お助けマン）に入ってもらって担当者が行っています。
- 日常のあいさつを通して顔見知り、笑顔が生まれる。コロナによる非接触により社会性の欠如、地域衰退等傾向にあるが、「あいさつ運動」はコロナ禍での対策と考える。
- これは平時の設問で、現在のコロナ感染拡大時には回答できません。

**問11 今後、活動団体が増えていく、また継続していくためには、どのようなことが必要と考えますか。（具体的に記入）**

- 活動団体は継続が第一、焦らず活動すること。
- 社協が何をしているか、会員団体でもよくわかっていないケースがある。分かりやすい情報公開をしたい。
- 支援を希望する人が遠慮なく手を挙げるような雰囲気づくり。
- 連合会の仕事、行事を減らし、地域（小単位の自治会）の運動へと重点を移行。
- 活動のためには、ある程度の活動資金が必要と考える。
- 自治会の今後の改善取り組みは、自治会加入推進活動と並行しながら老人クラブの会員を増やしていく。人脈を通しながら会員を増やす。
- 親身になって貢献する事。活動する団体に対してもそれなりの支援が必要ではないか。
- リーダーの育成が重要。現団体の中で課題を明確にして実践すること。先進部隊の研修。
- 高齢者と若者が融和すること。地域の一体化。
- 若い人材の発掘、育成。地域住民の参加。
- 継続にはリーダーが必要です。それをどう育てるか。まとめ役。広報発行。発想する観点。
- 会員の増強。
- 勿論、新役員の加入が前提条件です。
- SNS の個人か、趣味的グループ化、価値観の同じ仲間化などで、任意団体での活動は活発化、積極化しても、地域組織の町内会などにもなかなか興味を示さない。ましてやPTAにも任意などで入らないという人が出てきている状況では、何故入らないのかを研究分析してその対策をする段階にきていると思います。
- 各種団体が存在しているが、設立の趣旨と現状の活動、他団体との関係を整理していかないと、活動のための活動になっている事がある。
- コロナウイルスの終息。
- リーダーの育成。
- 若い人の参加が大事。
- 人材の確保、資機材の確保。

- 顔出し（参加）…少しでも良い。
- 今、最も必要な事は若い人の参加です。
- 責任者の発掘。
- 自治会であるので、自治会活動の基本的ルールなり、組織的活動の基本的な骨組み案を任意団体と言えども、地域組織として、活動単位として、必要ならば活動模範の組織案を提示してほしい。SNS の個人化、趣味的グループ化、価値観の同じ仲間化などで、任意団体での活発化、積極化しても、地域組織の町内会などにはなかなか興味を示さない。ましてや PTA にも任意なので入らないと言う人が出てきている状況では、なぜ入らないのかを研究分析してその対策をする段階にきていると思います。
- 活動団体に手助け出来る人の育成が課題だが、協力して頂くよう福祉活動等の情報をしつこく浸透させていくしかないと思う。
- 後継者の育成。
- 新メンバーの入会。
- メンバーが健康でいること。
- 各自治体（町内会等）での、応援団体を立ち上げる（小回りが出来る）。
- ニーズの多様化に應えるため。
- 新しいスタイルが必要と思うが分からない。当会の場合、車いすの管理が自己管理となっており大変。（社協さんに預かってもらえると有難い）
- 上尾市との連携。
- 空き家活用を通じ、コミュニケーションの拠点づくりが必要。
- 支援を必要としている人、支援の内容、支援できる人を結び付けるシステムをつくること。
- 公的な機関がバックアップする（補助金、活動場所など）。
- 資金。
- 後継者が必要に思う。
- 地域福祉活動においては、社協などによる積極的な支援が行われているが、現状では、地域コミュニティや地域福祉活動の中心となっているのは自治会である。自治会は、その前身である事務区制度の下で、地域の核としての役割を担ってきており、実に多種多様な業務を抱えている。現状、自治会は様々な地域活動にかかわっており、こうした長年にわたり行われてきた枠組みについて受け入れられない、違和感を持つなどの意見を持った団体等も少なくないのではないか。今、自治会は、様々な（多種多様な）業務を抱え、新たな事業（分野）に踏み込む余裕がなくなってきたことも事実であるが、自治会としては、こうした現状の中、試行錯誤しながら今後も引き続き充実した自治会活動を行っていくために取り組んでいる。昨今、ソーシャルメディアの普及により、生活に密着した情報交換が行われるなど、これまでの地域コミュニティによらない生活が広がりつつある。こうした社会背景を踏まえ、自治会を中心としていたこれまでの枠組み（仕組み）を今後も維持していくのか、新たな仕組みを考えていく時期に来ているのか、改めて検討する必要があるのではないか。
- 届出や報告書等の簡素化。
- ボランティアの参加者の確保。
- 視覚障害者の方への情報提供。

- 現在は、活動日が限定されておりますが、活動拠点の確保と会員が増えていけば、活動日を広げていけるのかなと思います。
- 活動場所、資金、情報発信などが先細りにならないように、行政での見守りや相談・援助が必要と考えます。
- 趣味のクラブ活動と中心にしていく。
- 拠点作りと支援（行政からの資金援助含む）体制。
- 様々な団体同士の繋がり、ネットワーク作りやアピールの場づくり。
- 情報共有、情報交換、交流。
- 特技がある人の発掘。啓蒙活動。
- 若い後継者の育成。たまには自治会会合時に出向いてもよいお話をさせていただくとか。回覧と常会による自治会員への浸透。
- 団地班（8戸を1班として40班）活動の内、毎月第1日曜日の芝生清掃日を班交流の為、より活性化する。
- 高齢化と80歳近くでも働かざるを得ない人が増えています。自治会加入者を増やさなければなりません。団地社協は団地前の空畑をかりて花や野菜をうえて宣伝することにしました。
- 高齢者・要支援者・生活弱者・未成年者に受け入れられる事業。顔の見える関係を作る。地域の中のつながりが支え合うための力となる。
- 経済的援助が基本。上尾市社会福祉基金活用事業助成金の助成期間が3年となっているが、福祉活動は3年で終わる由でなく、継続していくもの。助成期間の撤廃を切望。
- 自治会が行う事業の時に声かけをする。
- 人材の確保。安定した財源。
- 人材の確保。
- 新たなメンバーを増やしていくこと。
- 自治会で勉強会を開く。
- 社会福祉協議会等を中心に、「やすらぎサロン」のスタッフを増やし、近隣住民の協力を得ながら、声かけ、見守り、安否確認を行っていく。ゴミだし等は福祉サービスをする関係機関へ連絡か？
- 後継者の育成及び、町内会活動参加意識の醸成。企業の定年延長もあり町内会への参加機会が遅くなる傾向にある。定年となったと思われる年齢（65歳～70歳）の町内在住者情報が得られるようになれば、後継者の育成にも活かしていけると思います。
- 住民の意識向上をうながす活動の継続、活動の中心となる人の育成。
- 都度住民の要望、相談、依頼を聞き取る事が大事。
- コロナ禍でみんなが集まって話し合うことがむずかしい。
- 若い層の生活上の時間的余裕が必要。若い人の活動への参加促進。
- 日頃若い人と交流する。運動会、祭りなど若い人に参加してもらう。
- 中心になるリーダーづくりが必要。
- 人材のローテーション（新人の加入）。
- きちんとした（しっかりした）人材の発掘。
- 理解を求めて協力を呼び掛けていくことしか、今はわからない。
- 地域住民の意識改革を図る。広報、PRの充実。

- 会員への協力依頼（回覧文書）。
- 町内会で行っている活動を、より詳しく説明、宣伝する。活動のリーダーになって頂くように、心当たりの人、個人個人に声をかけて願います。
- 連合会の負担が大き過ぎるので、連合会の行事を減らす。パソコンを活用して、会報カラーで町会回覧。市のホームページの充実を期待。
- 町内の活動の中で、地区単位、班単位の組織を生かして、見守りを呼びかけていくことも必要と思う。
- 若い人たちの参入と協力。
- 地域が活動出来る拠点の整備（仮ではなく）。
- なるべく負担の少ない事からスタートし、個人負担が大きくなる様にする。
- 活動団体のPRや必要な情報。
- 個人の負担（責任）を軽くするよう Co が話を聞いてあげる。
- 地域の新しい団体は、相互に積極的に連携していく。
- 人材育成、活動資金、情報提供。
- 地域の中で活動する団体と交流を図り、それを区民に回覧等で伝えていく。
- 常に若い人にも声かけして、ボランティアに加入してもらおう。
- 「地域のたすけあい運動」設立して3年目。75歳以上の人対象にしているが、ボランティアの人達が75歳に近くなっている。募集はしているが、若い人達の加入方法等検討が必要。
- 人材がないので（高齢者しかいないので）みんながお互い様の意識をもつことが大切。
- 若い活動員を増やす事が事業継続にはとても必要だと思います。
- 地域に於いては特に世代間交流を活発に行うこと。
- 人材育成。
- 人材育成、ボランティア募集。
- 1. ボランティア団体の登録推進とネットワーク化。上尾市内を拠点とするボランティア団体のボランティアセンターへの登録が少なすぎる。これを組織化出来れば活動はもっと活発化し、必要としている人たちや施設への助けになると思う。
- 2. ボランティア団体のリーダーを講師にして、各分野におけるボランティア養成講座を開設する。
- 3. 夏休みだけでなく、年間を通してボランティア体験活動を実施して市民の関心を高める。
- 声かけが基本。老人施設関係への歌ボランティア活動なので、活動場所の復帰が望ましい。
- とにかく人数が必要です。当事者が大勢いるのに家族がいないのは不自然です。
- 会員を増やしていく必要有り。
- 気軽に体験でき興味を持って参加できる場（ワークショップなど）、NPO 活動紹介パネル展など。
- 会員の負担を軽減する。会員増加。
- 「子ども食堂」に限って言えば、行政の手が届きにくく、その現状で辛い思いをしている子ども達がいることを知った事からはじめました。行政の手が届いたら、なくてもよい活動なのかもしれません。現状では、開かなくては私達がつらいという思いからやっています。増えていく、継続していくため、という問いはちょっと考えにくいです。（現状が続くなら、行政からの支援（広報も含めて）は欲しいです。）
- 宣伝と情報収集。

- 子ども食堂（子どもの居場所）の活動場所として、公共施設（市の公民館、区の公民館）が使えるようにする。子どもの居場所活動のために公共施設を借りる時は、無料で借りられるようにする。
- メンバーが高齢化しているため、新メンバーの継続的な加入が必要。
- 市保健センターと連携していく。
- お互いに話しをし、心を1つにし、目的に向かう。ずれないようにする。継続するには、自分が楽しいことをする。
- 指導教育の場（市等からの指導）。
- 各自治体でのLINEやホームページの立ち上げを可能にする為のインフラやモデルを検討してもらいたい。
- 信頼関係。
- 地域にシッカリ管理される集会所。
- 活動できる人材を継続的に募集するために、上尾市の支援（広報活動）が必要。
- 誰もが参加出来るような社会環境作り。小さな組織でも活動出来る事業に限定していくこと。
- 若い世代の参画。
- 役員が若返りすることでの活性化。
- 活動団体の増加は望まない…役員を選定が困難。
- 相互理解とリスペクト。
- 1、新しいメンバーの入会。
- 2、活動リーダーの育成。
- 3、入会しても良いが役職につくのが「イヤ」と云う人達との解消方法。
- 「限界集落」化する当団地のそれ由の困難さは年々深刻化し、それに歯止めをかける、又は改善するための妙案は、自治会には思いつきようもない。
- 中若年層、勤労世帯が気楽に仲間に入っていける環境作りが必要。
- ボランティア活動に対して理解、協力をしていただける人を募集（インターネット、チラシ、公的媒体）していく様にする。
- 話し合いの場を設けて行く。（話し相手、相談相手）
- 尾山台団地は、高齢化率が高く、一人暮らしも多いので、それを支える体制をどう作っていくかが課題。若い高齢者の活動への参加が必要。
- 一人一人が人生100年時代を見たフレイル対策を取る事。その為に「ノルディックウォーキング」を導入すると良いです。歩幅、握力、疲れにくい体、背筋が伸びる等効能もあるからです。

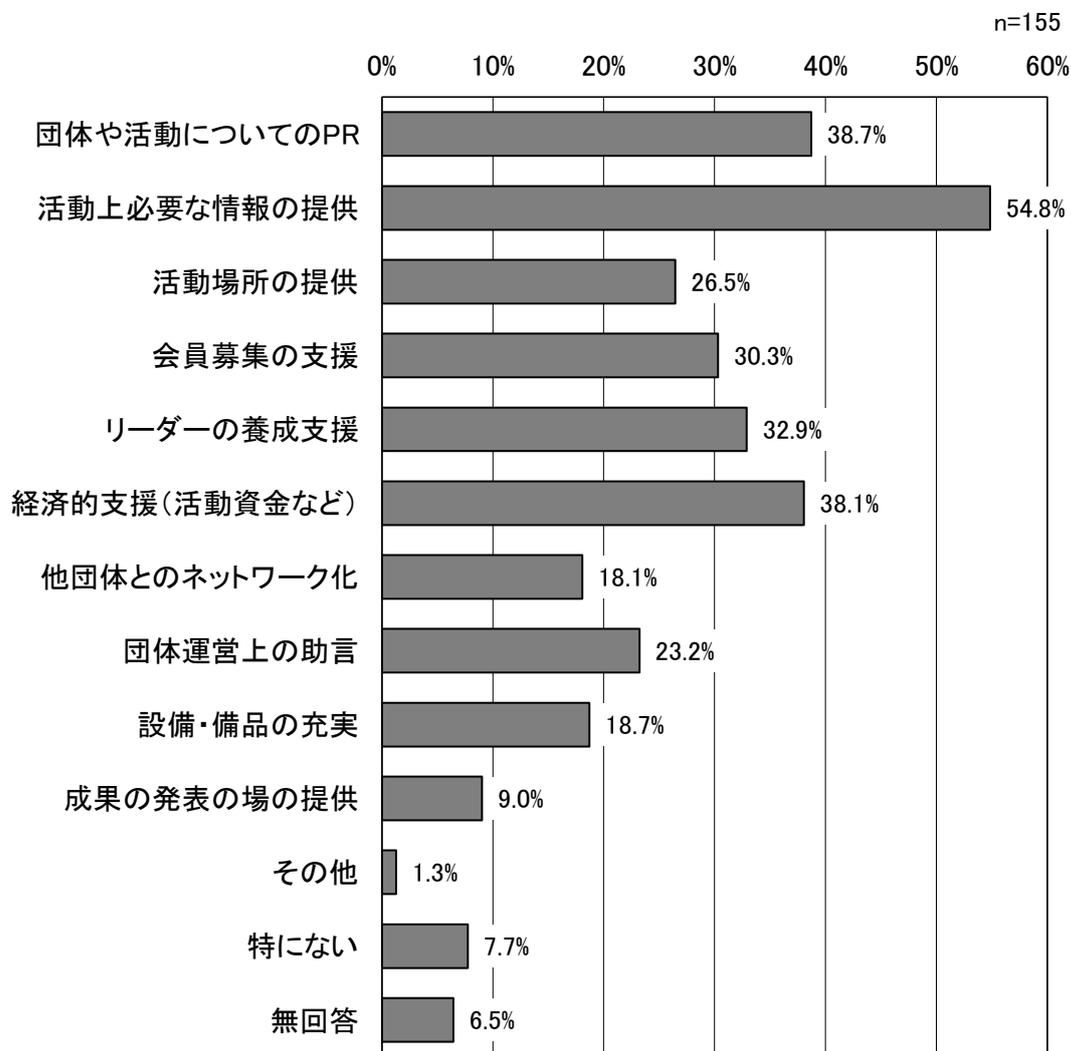
**問12 地域貢献活動に取り組んでいるボランティア団体やNPO法人で、地域や市民にPRしていくべきだと思う団体はありますか。貴団体が把握している範囲でお答えください。(具体的に記入)**

- NPO 法人ふれあいネットが設立され、在宅支援、食事会、ふれあい食堂の運営を行っている。地域福祉活動の発展を目的に自治会及び社協役員を中心に活動している。
- 問1 1に同じ(仲良しグループに融和出来る雰囲気が必要)。
- 当該団体は一切把握していない為、コメント不可。
- この件に付いて何も把握していない。
- オレンジカフェと同様の活動内容を展開してくれている介護施設があります。青空カフェとして開催しています。認知症の理解とその家族支援として活動しています。地域の自治会に、フードバンク活動に登録して開始した貧困対策としての食品配布活動があります。配布希望者は登録いただいている様ですが、開始したばかりの様ですので詳しくは、把握していません。その他、無償での塾活動や子供食堂を展開している団体があります。
- 現状良くわかりません。必要な時にすぐにわかる体制を整えてほしい。
- 地元の祭(神社の活動)…参加者が減少している。
- 寺子屋として、無報酬で地域の学習塾として活動している方々がおられます。学習塾に経済的等の問題で、通えない地域の児童に対し、学習の補助を実施してくださっています。小学校時代の遅れが、中学校の落ちこぼれに繋がり、学習機会を失うことにも成ります。この防止策としても大変良い事であると思います。また、こども食堂の活動があります。母子家庭や、何らかの事情で、子供一人での食事になりがちなお子様たちもため、週に一度、食堂を開いて楽しい食事の機会を提供している活動団体さんがいらっしゃいます。
- 多岐にわたり活動しているので良いかと思う。
- ご近所支え合い活動。高齢者家族が支援して欲しい事とボランティア団体がどこまでタッチしたらよいか、お互いに本音の話し合いが出来ていない。この壁をどう乗り越えるか?
- 地域サロン活動を主催するボランティアグループは、自治会区域を越えて高齢者へ積極的に個別のアプローチを行っており、自治会としても、回覧、広報誌などでそのPRに努め、その活動を支援している。他にも、団体によっては自治会に頼らず独自に様々な活動を行っている。こうした活動に対しては、自治会としても積極的にPRしていきたい。
- 輪太鼓虹の会(障害児者とその親で運営している和太鼓サークル)、上尾市内で福祉的な出演(演奏活動)をしています。
- 学校応援団、学童登下校見守り、青パト、いきいきクラブ。
- 上尾市原市北地域包括支援センター、コープみらい原市団地店、ツクイ上尾原市、芝浦工業、サテライトラボ上尾。
- 青少年育成連合会・自警消防団・環境美化推進員連合会・母子愛育班・交通安全協会・子ども会育成連合会・交通安全母の会・食生活改善推進委員協議会・身体障害者福祉会
- 地区内に「一般社団法人セーフティネット」があります。新型コロナ禍の中、活動が休止状態にあり、収入激減の状況。このような状況であっても納税負担が大きいのしかかり、存続が難しい状況。福祉関係団体に交付金のさらなる援助が必要。
- NPO法人すけっと
- 井戸木記念館で行っている会の紹介を広報で宣伝し、参加を呼びかける。
- 小学校登下校時の防犯パトロール。

- 「やすらぎサロン」のスタッフには、民生委員、元民生委員、見守りボランティア、母子愛育班の方々がいて、サロンに積極的に参加し、協力してくれます。
- 地域の自治会の協力が不可欠と思う。
- 社会福祉協議会、防災大会。
- 学校応援団
- 子ども食堂（トマト食堂）
- シルバー人材センター
- 市が養成している「認知症サポートセンター」、市社協が養成している「傾聴ボランティア」を地域の助け合い活動に繋げてほしい。
- どんなNPOがあるのか、わからない。（上尾市全体で…）
- 原市地区の「ちいさなたすけあい運動」
- 7区の「ちいきのたすけあい運動」ボランティア活動の推進を積極的にしたい。
- 尾山台小や瓦葺中のPTAのお父さん達で活動している「おやじの会」
- 朗読の会さざなみ…朗読と紙芝居の実演。あげお語り部の会…各地の民話の語り。
- 障害の内容、現状により、ボランティアでは不十分と思います。手助け、同情でなく、障害の中身を知らなければ、当事者を傷つける場面もありますから、気軽にボランティア等PRのやり方が問題と思います。さそわないで下さい。
- いきいきクラブ等
- 民間フードバンク団体
- ～美育ボランティア With you～（笑顔になって頂く）。春、秋、代表者の自宅を開放して12年老人ホームの方、障害者、地域の方が2日間イベントに来ます。2日間100名以上。  
内容：いけ花の展示、いけ花体験、お茶のおもてなし
- 各地域にある消防団を消防組織に限定せずに災害活動にも活躍する団体に組織変更をすべきと考える。
- フードパントリー「パプリカ」
- NPOふれあいねっとの活動をもっと団地内外に周知することが必要。

**問13 貴団体が活動をしていく上で、市役所・社会福祉協議会に望むことはどのようなことですか。  
(あてはまるものすべてに○)**

市役所・社会福祉協議会に望むことについては、「活動上必要な情報の提供」が54.8%と最も高く、次いで「団体や活動についてのPR」が38.7%、「経済的支援（活動資金など）」が38.1%となっています。



## 5. 新型コロナウイルス問題について

問14 新型コロナウイルス問題の発生に関連して、貴団体の活動中に起こった問題や課題はありますか。それはどんなことですか。ご自由にお書きください。

- 本年度活動中止でしたが、これから少しずつ活動したい。必ず反対意見がでるのが問題。
- ふれあいネットワークの訪問活動を前面休止。電話のみの対応としたが、会って話がしたいという要望が多数寄せられている。何とか工夫したいと思っても、市社協の方針で全く何もできない。
- 記念会館利用指針を策定（2020.10）し、館内での飲食を自粛することとした。人数制限も明記。（飲食を希望するケースがあったため）
- 高齢者の集まる機会（だんらんの家、いきいきクラブ）が減って、会員の動向がつかめない方がいる。
- 1. 年間行事がすべて中止になり対応におわれる。（会員からの問い合わせ）
  2. 年間行事、新年会、忘年会、夏の茶話会。
  3. 自治会の行事も中止、自宅から外に出られない事で足腰が痛いと言、外に出てもどこへ行っても団地内を散歩するだけでした。
  4. 3密にならないように会員に徹底している。
- 町内リサイクル活動や会議等、三密をさけ、飲食禁止等の対策をとりつつも、短時間で終了するようにしている。集会が出来ない事（サロン、だんらん、アッピー元気体操等）。
- 1. 問題点…どこでも同様だが、計画行事がほとんど中止となり、交流の場がなくなってしまった事。その事による運動不足などあり。
  2. 課題…8月頃から単位クラブでは、活動が再開されはじめている。その場合でも、ウイルス感染症予防には十分配慮している。
- 1. 地域の事業中止（特に室内での行事）
  2. コロナと冬場に備えて、インフルエンザとの同時流行を考えて、マスクを公民館に備蓄した。
- 発生当初はいろいろわからない事が多く、対応に苦慮した。
- 集会所の使用禁止が継続中で、市の交流行事が開催されていません。カラオケ、卓球、アッピー体操など、早く開催される事を願っています。
- 特になしですが、高齢者等は、家の中にばかりいると、足腰が弱り、歩けなくなる。人との会話がなくなり、認知症になりやすいのではないかと。
- 今年度の事業は90%中止、なにもできていません。会議でさえできていないのです。
- 集会が開けない。ソーシャルディスタンス確保（保持）できる集会場が無い。
- 全ての活動を自粛している為、コミュニケーション不足になっている。
- 私たちの日常は、多くの人に支えられています。芸能大会に向け練習に励んでいましたが、コロナウイルスで中止になり、発表の場がなくなった。
- 全ての件で今年度中、中止となっております。
- すべての行事活動が中止せざる、できなくなってしまった。見守り活動で、会って確認していた生活状況が電話での把握になり、各見守り相談員が心配にしている声が聞こえてきていた。
- 特にありません。計画した事業ができなかったこと。
- 現状の基準では自治会活動はほぼ不可能。今後の開催も出来ない可能性有り。夏祭り、地域運動会、ゲートボール大会等行事の中止。ソーシャルディスタンスが取れない。会場が手当てできない。

- ほとんど中止となっており問題なし。
- 1年間の事業が中止や延期になって、会議などが全員でできなくなっている。
- 地域福祉で最も大切なことは、人と人が話し合い、情報、対応、具体的とりくみ等を共存するためには、話し合いが必要不可欠なのにできないこと。
- 定例的に実施している会議等ができなく、班長を通じて各世帯に対する情報不足が大きい。
- 人の集まる活動がすべて中止となった。ふれあいサロン1回/月、夏祭り7月、運動会9月、ふれあい広場11月、他。忘年会、新年会等。
- 団体の活動中止中。
- 室内事業がすべて中止となり、公園利用が増える。しかし大人が専用しすぎ（ソフトボール、テニス）。土日に公園で活動するため、親子連れが遠慮してしまう。
- 高齢者のため活用中止中。
- 各行事がほとんど実施できなくなったこと。消毒剤が不足して、手に入らない状況（予備品）が発生し、対策に苦慮した。
- コロナウイルス関連により活動全般で中止が多かったため、次の活動の時に結び付けることが心配している。
- 会議の回数が少なくなった。
- 定例会の回数減。
- 活動を休止している為、問題は起きていませんが、予約の取り消しの連絡が先方から頂けず、全てこちらから連絡した。（10か所）
- 園児、保護者への感染防止対策を行っている（手指消毒、室内・遊具のアルコール消毒、マスク着用）。室内全体の清掃を徹底。換気等。職員の健康管理（マスク、消毒、検温ect）。園だよりで保護者家族への協力要請（送迎）。
- 新型コロナウイルス感染拡大予防のため、令和2年2月より活動休止中です。（来年3月まで）
- 1. 完全に活動休止（停止）状態となった。  
2. 当会も高齢化しており、これからの活動継続について検討中です。
- 団体関係者の陽性患者の情報が来るのが遅い。コロナ感染者の情報を公表するようにせまってくる一般市民への対応に苦慮した。
- コロナウイルス感染拡大後、全ての相撲甚句公演がキャンセルとなった。
- 月1回の活動をしてきたが、2020年2月を最後に、活動が中断している。9月に中間的なツナギの集いを感染防止を前提にして実施していたが、半数の参加にとどまった。団体行動への参加を見合わせる警戒感がまだ強いようだ。
- 自粛により、利用者が減少。予定していた行事がキャンセルになった。
- 学校（小・中・高）が休校となり、利用者はほとんど利用を継続したため、密の状態が続いた。職員は、マスクや消毒等、検温や体調管理などはしていたが、利用者は知的障害があるので、衛生管理をするのが大変だった。まさに綱渡りのような状況での運営だったので、職員のストレスは相当なものだったと思う。
- 問題ありません。手の消毒、マスクは常に注意をしています。早く終息する様常に努力しています（早くマスクをはずせる様）。
- 外出（外部）しにくい風潮。
- 施設ボランティアなので、受け入れが難しい。活動が出来なかった。

- 活動拠点が使用不可および使用制限となり、いままで通りとはいかなかった。集まって行う活動が中止となった。
- 活動拠点が閉鎖となり、全く活動できなくなった（外出自粛中）。自粛解除後も活動時間の制限があり、十分な活動はできなかった。事業計画の親睦会、新年交流会は中止とした。年度変わりの時期に重なったこともあり、打ち合わせの場所も三密を避けてとなると、会議室は使えず屋外で行った。
- 2月から活動は全て中止となりました。9月から少しずつ活動再開しましたが、以前と同様な形式での活動は行えていません。感染対策をとりながらの活動場所があまり無いので、探すのに苦労しています。
- 役員会以外はほとんどの活動を中止している為、特になし。
- 「集まる」ことが困難となったため、定期総会や会議、諸行事も中止となってしまった。学習会の開催も減少。支援金作りのための活動の場も制限されている。
- 感染防止の為、利用者の方々に協力してもらい、在宅支援というかたちをとらせてもらった。在宅支援中は利用者の方は、「通所したいが、行けない」というジレンマはあったと思う。運動不足や時間の過ごし方等、様々な課題があったと感じる。
- 物資の不足（マスク、消毒液、紙類）。利用者、職員の安全確保。学校の対応が変わる中での調整、連絡。実際に施設内で感染者が出た場合の対応が不安。
- 茶道ボランティアのため、活動を中止しています。
- 活動ができないため、交流がなく、楽しみが減っている。
- まずは人が集めにくいという事です（すべての面において）。  
具体例：自治会会合は、以前ですと50~60人集会に集っていましたが、現状は組長三役のみ出席で、10人程度で実施。周辺の清掃等に人数がたらない。年行事においても人数を制限し実施。又、盆踊り、ポピー祭り中止もあり。
- 地区行事（総会、委員会、夏祭、体育行事）等が全て縮小又は中止。
- 月~金曜の10時~14時迄開いていた団地社協の拠点は、2月より閉めていましたが、市社協の理解を得て、見守り助け合いサービスや年末に70歳以上単身者、身障者に配布するカレンダーの準備等をしています。
- 支部視察研修・地域福祉懇談会・サロン活動・あったか見守りサービス・助け合いサービス・ふれあい交流会等、接触を伴う事業の中止。サポートセンター閉所、週2日電話での見守り活動。ふれあい便りのお届けとつながるメッセージの発信。協力員の訪問による活動休止の為、「おおよからのお便り」を作成し郵送。つながりを切らない、モチベーションを保つため、協力員に対しても手紙や連絡の取り組みをしている。支部に所属している役員との情報共有が不足しているため、無駄な作業が多い。ネット環境をサポートセンターに整備すべき。メールで情報送信と返信が短期間で可能。
- 2年度の行事が全て中止。福祉活動（高齢者見守）活動も10月まで休止とした。
- 先の見通しについて確たる情報が発信できなかった。
- 全ての活動を自粛中で、集会所の使用頻度が減少し、集会所使用金額が減り困っています（収入が減少）。例えば、サロン活動等半年以上開催されず、メンバーの動向が把握出来にくくなった（いきいきクラブ等も同様）。
- 自治会活動を自粛のため、来年度、活動実施にあたり、人材確保など難しくなるのではないかと。

- 町内の諸行事の中止に伴う交流の場がなくなる。
- 長期間に渡り、公民館等が使用出来ない状況なので、だんらんの家など、いきいきクラブのメンバーの中の人達は少人数でも使用出来ないかなど多数あった。
- 地域での交流機会が減った。
- 三密をさける為、運営委員会を2班に分けて行った。
- 会議、行事が出来ない。
- 自治会における月1回の班長会議(20班)は、新型コロナウイルスの感染拡大の防止の為、三密等をしないで(考えて)毎月開催しています。しかし、自粛中の自治会費の集金については、一部延期しましたが、募金等については問題なく行われました。
- 感染防止のため、上尾市の高齢者福祉事業についても活動の自粛が余儀なくされ、秋以降の事業再開をめざすとされていたが、9月になっても再開されなかった。逐次状況の説明もなかったため、町内会の方から状況の説明や再開の目途を市に問うことになった。早く活動を再開したいという町内の声もあるので、状況説明がもっと必要だと思う。
- 総会等人が集まる事が困難。自治会発足時、団地住人への声かけがスムーズに出来なかった。ゴミの選別仕分け作業が大変でした。捨てられたマスクや他のゴミによる感染の心配。
- 市、地区の行事中止に伴い、町会に於いてもほとんどの活動を中止にしている。各種同好会にも自粛を要請中。連携を保つ為、路上で会った時は声かけを積極的に行っている。
- コロナ禍で集まって話し合う状況に苦慮している。
- 高齢者を中心とする活動(集合型)ができないので、高齢者が元気をなくしている傾向が強くてている。
- コロナ問題が長引いているため、全般に危機意識がうすれてきている。
- 地区1本化の神社の夏祭り(神事のみ)でハヤシの伝統芸能継承、お神輿の渡御の跡切が心配される。
- 会員がなかなか集まらない現実の中で、どう情報交換、コミュニティを全体で図っていくか悩んでいます。
- 全ての行事が中止となっている事。見守り(下校時の)は実行していますが、高齢者についての催物は全く出来ていなく、ボランティアの訪問のみ。町内会に加入意義(意識)の減少が問題です。
- 新しい生活様式の移行に対して理解できない人もいて、これからの課題かな…と思います。
- 訪問しても家の中まで入りにくく、玄関前で短時間の会話程度しかできないこともあった。
- 活動するためには、人が集まることが必要だが、密になる可能性があるため、実施することができなかった。
- サロン事業の中止、それに伴う希望者への活動を断念。事業活動の中止、コミュニケーションが不足。孤立防止を図れなかった。あぜよし公園の除草の問題。今までは年3回40~50名で行っていたが、コロナ禍で執行部が対応(3~5名)、このままコロナが収束(終息)しなければ…。
- 集会所内で行う会議や活動を中止した。屋外で行う活動でも、密になったりする活動や、飲食を伴う活動を中止した。
- 全て活動が中止になりました。それを中止にしたのは市(市役所)の連合会の会議でした。コロナ感染拡大防止のため。コロナがなくなれば全て解決することですか?一時的な問題や課題でしょうか?2~3年いや5~6年かかりそうで、大問題で諸課題多く不安。パソコン活用、ホーム

ページと会報のデジタル化急務。

- 各団体において会館を使用して活動しているが、3密を避けて実施している。問題が起きた事は聞いていない。
- すべてに行事が中止になりました。人と人とのふれあいがなくなりました。
- マスク、手洗い（消毒）、3密回避、公民館の会議は窓を開ける、参加人数の圧縮などにより対応中。
- 今後の健康問題。
- いかに3密を避けるか。
- 人と会えなくなった。
- 当団体の活動は、見守り訪問やサロンなど、交流活動や相談事業など、密に接触するものであるため、中止を余儀なくされている。電話訪問や安否確認、お便りをポストイングするなど工夫しているが、会って話をしたり様子を確認することができない。「淋しい、早く会いたい」と言う声が多い。
- 月々の理事会、班長会も会議もできない状態です。敬老会も今年はできなかった。記念品を配って終わりになった。今後コロナ対策ガイドラインに沿って行ったとして、万一、感染者が出た場合、誰が責任を取るのか。会議、行事等を計画すれば、市に通報された事も度々有り。
- 感染拡大防止のため、4月からの事業計画がすべて中止になったこと。総会も中止になり、口頭で伝えていた議事の説明を文章にして伝えていくことが大変でした。
- 活動がほとんど中止になってしまった。今後は「3密防止を守り」各自自治会の判断にて活動を推進出来るようにして欲しい。毎月11月に実施している、原市地区地域福祉懇談会はコロナウイルス対策の為、各11地区の自治会館で別々に懇談会実施した。
- 会議、各団体の7区会館利用中止。5月より10月まで、7区会館の利用がほとんど中止になった。一部会議等は実施している。10月より一部の団体での活動がスタートしてきた。アルコール消毒、手洗い、検温器、7区会館設置、3密にならないようにしている。コロナ期間中でも7区のラジオ体操（月～金）毎朝むじなや公園、セキスイ公園で実施している。また、「ちいさなたすけあい運動」も4月からも休みなしで実施、本日まで48件実施。
- たくさん行っていたイベント、活動などの自粛。コロナと共に生きる、今後の生活についての課題。カラオケの活動も十分に気をつけながら行っているが、それを見ている人の不安など課題になってくるかと思う。
- 自粛要請が長く続いている為、楽しみにしてもらっている、ふれあい喫茶やお食事会と言った支部事業を行う事が出来ない。
- コロナ感染対策を取りながら、少人数での会議は少しずつ行って来てはいるが、全体が見えない状態。
- 一旦は中止しているが、今後再開時期、手段、3密回避のハード面の具体例。
- 各サロン活動中止による高齢者の認知進行、運動不足、体調面の情報が入らない。見守り対象者が介護施設入居等で対象外になり、在宅見守対象者が減少してしまった。
- 1. 今年の3月から9月まで予定していた40公演が中止となった。その間、4月の総会は資料の郵送と委任状の回収により対応。毎月の定例会も2回のみ実施。  
2. 9月に行った北本市文化センター「子ども劇場」の公演では、主催者側が入場制限、換気、消毒、座席の間隔、職員立ち合い、その他万全のコロナ対策を取って頂いた。10月から再開し

た上尾市児童館（アッピーランド・こどもの城）の定期公演も同様の対応をとって頂くこととした。

3. 新型コロナ問題発生以前から、無料動画配信サイト YouTube に紙芝居作品をアップしていたが、この問題が発生してから更に閲覧数が増加、世界 36 か国の人たちに観て頂いている。今後も暫くイベントでの公演が難しいと思われるため、ネット配信や DVD 制作等を検討して行きたいと考えている。

- 活動中止（令和2年1月1日、3日…新年で休み。7日活動、9日活動、10日活動、以降休みとなった）。
- 発生中は StayHome でしたのでわかりません。ですが、当事者にとっては本来毎日の居場所であるべき事業所が閉鎖されたのですから、高齢でありながら現在健康な家族会の会員は、他の家族の見えない当事者たちのことを大変に気にかけて過ごしていました。居場所を奪ったのはコロナウイルスですが…。
- ・オレンジカフェ、アコーディオンで歌おう…3月より中止が続き、現在に至っています。お話をする機会がほしいとのことです。
  - ・ふれあい食堂…3月、4月、5月と休業していましたが、6月より開業しました。衛生面に気をつけて行っています。喜ばれています。
- 会議等、気軽に集まることができなくなった。会員間のコロナに対する温度差による気持ちの分離。感染拡大防止による被災地の受入制限で、今までのようにお手伝いに行けない。→地元が被災した場合どう判断するか課題。
- 会員（親）が高齢で、障害ある子どもが通う施設が新型コロナウイルス感染拡大防止のため、自宅待機（自粛）になり、数日間休んだ後、事業所に行くことを、嫌がった。
- 活動が制限されて、一層低調となった。
- 3月から9月まで開催できませんでした。10月から開催しましたが、感染防止のため受付に飛沫防止の透明の窓口付のついたてを置いたり、テーブルに一方を向いて座れるよう、そして間隔をおいてテーブルを置いたり等を心がけていますが、これで充分なのか不安があります。
- 公共施設を利用して月一回会議を開催していましたが、会館閉鎖の為半年 1 回活動休止状態となってしまったこと。
- 新型コロナウイルス拡大防止策のため、集会所の利用条件がきびしくなり、現在でん虫は活動ができず休止中です。
- ・視覚障がい者の外出介助、交流を行なうためには、身体的接触がさけられない。現在のコロナ下では、活動自粛、休止とならざるをえない。
  - ・会員全員での打合せを行う場所が確保できない。（コミセンが改修中および人数制限のため）
- ・定例会場所がコロナ対策のため使用できず、いまだに定例会が行なえず、情報共有など、話し合いができない。
  - ・高齢のため活動はしたいが、怖くて参加できない。
- コロナに対する意識が違う場合があり、なかなか難しい。
- お花教室、老人ホーム施設、イベント中止しています。
- 消毒液、マスク、体温計（非接触型）の購入業者の紹介。
- 集会場の再開を検討している。市役所の窓口が、市民協働推進課、高齢介護課での再開に対する統一した方針が必要と思います。

- 私たちは独自に活動を行っていて、コロナについては会員も評価はしています。  
“コロナに負けるな”シリーズ…①九区いきいきクラブ便り②九区いきいきクラブ情報③自治会  
掲示板。必要であればコピーします。
- 各種イベントを中止したため、会員間のコミュニティがとれず。また、防災訓練もできず災害が  
起きた場合不安。
- 役員等の会議が開けないので、事業が進められない。また、回覧が出来ないと会員への情報伝達  
が出来ない。
- イベントの中止。
- 会議と行事などが中止になってしまった事。
- 感染の拡大防止をするため、人が多く集まる事を避けなければならないので、必要性がある場合  
を除き中止している。
- 公民館利用者に対して一時利用停止。
- 外出自粛要請により、様々な活動が停滞してしまった。一度停滞した活動を再開するには、メン  
バーの気持ちをコロナウイルス感染拡大前にするには、大きなエネルギーが必要である。活動を再  
開は、時間と気力が鍵となる。
- 新型コロナウイルスの発生、感染拡大により、すべての活動が中止となり、会員全員が体力作り、  
笑い、おしゃべりの時間、活動場所が無くなり、足、腰が弱り健康不安が出て来ております。
- 自治会総会、棟長会（班長会）が開けず、自治会本部からの連絡、告知等が極めて限定された方  
法（回覧、会報）しかない為に、多くの困難があった。
- 自治会及び自治会内の組織（子供会、いきいきクラブ、だんらんの家他）の活動がほとんど中止。  
人とのつながり（特に高齢者）が希薄になっていくことを懸念。
- 各種団体が新型コロナウイルス感染拡大予防のため行事が中止になり、人数を制限し、換気をと  
り、密とならないように会議を行って来ました。
- 集まり事が出来なく（減り）、情報交換が減少している。
- マスクをしましょう。三密は避けましょう。換気をしましょう。ソーシャルディスタンスを守り  
ましょう。等他決まりごとが多いため、ふれあい食堂と尾山台みんなのひろばの開放しかできて  
いませんが、市の方が行事を自粛されてしまうと地域は見習うしかありません。
- 声かけにより、子供のストレスが多い事。新生児の親は会話が少ない（第一子の場合）。
- カラオケを行っていた団体に対して、マスク及びソーシャルディスタンスを行う旨、指摘した。  
その後中止している様です。
- 活動を全て中止しており、ありません。

問15 新型コロナウイルス問題の発生に関連して、貴団体の活動中に、困った人を見たり聞いたりしましたか。それはどんな人ですか。ご自由にお書きください。

- コロナ禍にあって、事業中止についての執行部のプレッシャー（開催か中止か迷うところ）。
- 会話が少ないので（集会所使用禁止）認知症になった人がいます。女性。
- 社協活動では、ふれあいサービスを受けていた人が、市の指示で受けられなかったので、とても  
困った、又は困っている。
- みんなで集まって話すこともできない。お年寄りはお出かけの機会も少なくなりました。
- 困った人を見たり聞いていません。

- 見守りの相談員が直接の確認ができず、対象者の心配をしている状況でした。
- 新型コロナウイルスに対する感受性が各々の生活環境によって異なるので、会合とか交流が難しかった。
- コロナウイルス中での開催基準が厳しい為、自治会として対応出来ない。
- 各団体の会員さんの集まりがなくて、かわいそうな人も見る。
- 現在はないが、4月～7月の間で消毒用のアルコール洗剤（ハンド用）が、持ち出された。8～10本。
- あまりにも過剰な警戒の為、活動自体が委縮してしまい、活動の再開が困難になるのではないかと思う人が多く見受けられる。市の防災放送やマスコミによる煽りが原因です。
- 有りません。各団体の活動行事がなく、残念とのお言葉はありました。
- 高齢のための活動自粛。
- デイサービスなど、出掛けることに心配する人が増えている。このため、自宅から出ることもなく、精神的肉体的にも課題を残すとし、家族から心配の声を耳にする。
- グループホーム利用者が外出を足止めされることが目立った。当事者が不満を感じているわけではないが。
- アッピー体操、みのりクラブ、オレンジカフェなどが中止になり外出できなくなり、生活に不安を感じている方が多い。
- 保護者の方が感染を心配して一切外出することをやめた利用者さんが、卒業後の進路が未定なまま、在宅になった。
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による外出自粛や、高齢者を対象とした各種事業が中止され、コミュニケーションの場を絶たれた高齢者の運動機能や認知機能の低下・認知症の進行が懸念される。思った以上に深刻な問題と考える。
- 外出したいのに外に出られない等。
- 活動が出来ませんでした。
- 活動中止により、対象者の方も電話がかかってこない事に不安を感じ、社協宛に問い合わせをする方もいた。会員の中でも感染の不安を感じ、活動したい気持ちと出掛けていけない気持ちで悩む方もいた。
- 障害者さん（当事者）は、定着した日常の生活から在宅など生活に変化があり、戸惑い不安定になり、家族や支援者が困惑していた。休校に伴い障害児さんもパニックになっていた。放課後デイやヘルパーさん等も急な仕事が増加して、人手不足や長時間労働等で疲弊していた。
- 聴覚障害者のコミュニケーションである手話は、手の動きだけではなく、口の動き（形）も大切になりますが、マスクの着用により支障が出ている。また、情報が入りにくい状況も続いています。
- 咳やのどの痛みがあった際、風邪か？コロナか？と過剰に心配して、活動の制限を考え行動ができなくなってしまった方がいた。
- 学校の臨時休業中、医療従事者、スーパー等従業員、精神疾患を抱える保護者の家庭でも学校に預けるのをためらう、又は「本当に必要か」問われ、辛い思いをした、あきらめた。マスクをつけていないことで問題が生じたというニュースを見て不安になった。上記のような声を聞いています。
- アッピー元気体操参加者。

- 情報不足か団地内では聞いておりません。
- 三井ホールの使用中止、制限について利用団体からの緩和要請が多かった。
- サロンがなくなり、出かける所がなくなった。
- 別にありません。（自治会の大きなイベントや高齢者を対象にした行事等は中止にした。）
- 何が安全か、何が絶対か分からず、困惑している方が多く見られた。
- 高齢者への見守り活動や話し相手になる状況ができないので、把握できない。
- 自宅から一歩も出なくなる…あきらめが出てしまった。「自宅から一歩も出たくない」状態が続き、足腰が弱くなり歩けなくなった。
- 持病を持った高齢者は、ほとんど顔をみなくなりました。
- マスクを着用しない（特に認知症と思われる人）に対する声かけ。
- ラジオ体操をやりたいと言う会員がいたが…。
- 今まで見守り部会で、会えていた会員に会えなくなった高齢者（特に単身者）。
- 高齢一人暮らしの方が見守り訪問の”ちょこっとお手伝い”を利用して。中止となり、かさばる買物ができず困っている。サロンやアッピー体操がなくなり、出掛けておしゃべりをする楽しみや体を動かす機会が無くなってしまった。高齢者は情報が少なく、外に出ることも怖く、孤立感を深めている。
- 当自治会の中から感染者が出たとは確認していない。
- 高齢者福祉活動も中止になり、参加を楽しみにしていた会員等にストレスが増えてきたこと。
- 見守りサービスの中止→個別訪問月2回位のサービスも中止にしたが、そのまま活動続けても良かったと思う。
- 「土曜サロン」「おしゃべりカフェ」「お茶のみ広場」7区の会館で毎月実施していた活動ができなくなり、交流ができずさびしい、残念との声が聞こえてきます。10月に7区ウォーキング大会実施、11月防災訓練、グランドゴルフ大会は実施予定です。10月は老人会もペタンク競技を実施した。
- 在宅サービスの縮小、休止に伴い、ニーズに corres 応することができなかった。
- 自粛生活で引きこもりがちになり、認知症の進行やうつ状態等、健康を害していると思われる人が見受けられる。
- 特に単身者の方、必要外の人との接触がなく（会話）孤独感が強くなったと聞きます。認知症が進んだとも。
- 高齢者サロン中止の再開を望む声が多い。
- 3月以降まだ3公演しか行っていないが、困った人を見たり聞いたりしたことは無い。
- 外出しませんでしたので、その機会がありませんでした。
- グループの参加が出来なくなり、おしゃべりの機会が少なくなった人が沢山います。
- 障がい等によりマスクの着用が困難な人への中傷。
- 障害者のほとんどは、マスクを嫌がる。
- 「聞いてくれて、ほんとによかった」という声はいただきました。それが、コロナウイルス関連で困っていて言ってくれたのかは、不明です。また、開催できなかったため、調味料や賞味期限の迫った干物等を心あたりの人にお声がけしておわけしたところ、とても喜ばれたようです。多くはシングルマザー家族と思われます。
- 子供達と関係している為、学校が休校となり施設の先生方の大変さを少しかがったこと。

- でんでん虫を利用していた家族で、保護者が会社を年内でクビにされそうという人がいる。
- ・視覚障がい者が利用するヘルパーに関して、コロナ前に可能であった日常の生活が難しい場合がある。（買物、医療における距離、時間の制約など）
  - ・視覚障がい者のニーズに対応できるだけのヘルパーが不足している。
- 現在活動は休止しています。（活動場所改築のため）
- 3密の中で健康に関する声はある。個別に対応できる問題ではありません。
- 単身高齢者で認知症になられる方が増えた。
- 各イベント等中止のため人々の交友がとれない。
- 問14で申した通り、高齢者各人が自分の趣味を生かし、進んで活動が出来ず疲弊しております。特に屋内での活動する会員（卓球・大正琴・お踊り・カラオケ）等。
- 自治会が認知しただけでも5～6世帯において、コロナ禍による収入減に見まわられているところが見られた。
- 高齢者で必要な買物以外ほとんど外出しない人が増えた。体力及び精神面のダメージが心配。
- コロナ禍においては、自粛生活をしていましたので、特別ありませんでした。
- 高齢者関係は外出感染を恐れ、中々話が見えない（機会が少ない）。日常会話が減少しているのでは？※訪問もむずかしく、困っている人が分りづらい。
- 仕事がなくなり家賃や自治会費が払えなくなったと相談に来られた方がいました。
- 特になし。表面的には気付かない状況が多い

**問16 新型コロナウイルス問題の発生に関連して、行政に協力してほしいことや提案したいことがありますか。ご自由にお書きください。**

- ワクチンができたならば早く、無料で市民に接種してほしい。
- ふれあいネットワーク、アッピー体操、だんらんの家など、訪問・集合型を一律中止とせず、実施できる方策を出してほしい。
- もう遅いが、非接触体温計を自治会に1つ配布してもよかった。（もう皆買っている）だんらんの家、アッピー体操すべて中止ではなく、少人数でやる方向など検討してほしい。
- 住んでいる周辺の状況が知りたい。これにより、諸活動をどのようにすべきか対応が違ってくる。
- 新聞では上尾市の感染者数が記載されていますが、もう少し具体的（年齢別、現在治療中、完治退院等）に報道してもらいたい。
- 1. 行政からコロナについて書類で判断基準が示されてくるので十分だ。  
2. メディアで情報を入手できている。
- 各々の団体に応じた、きめ細かい、ガイドラインの作成。非接触体温計の支給。
- 他の町内会では交流等集会所、公民館等で開催されています。不公平だと言ってくる人がいます。上尾市の通達を守っているのに？
- どのような社会情勢になっても、生活上、健康上などでふれあいサービス（全般的）を受けていた人が、市などの指導で受けられなくなるというのは、その人にとって死活問題につながるのではないか。生きていく上で最低限必要なサービスは、どのような情勢下にあっても、支援できる体制を作るべきではないか。上からの命令には従わないで、見守り活動ができるよう市の体制、地域の体制を作っていただきたい。
- PCRの検査の充実・発熱外来の充実。

- 様々な事業が中止となっているので、今後の継続性に不安を感じています。耐コロナに対策を講じて、分散化や規模縮小、短縮などの方策を程して、行事はある程度実施してほしい。
- 体温の測定が集会等では必須になってきています。非接触の体温計を配布していただけるとありがたい。また、市役所の入り口には、画像で心拍数、酸素濃度指数を画像データから計測し、コロナ感染の可能性について判別できるシステムを導入検討していただけるとよいのではと思います。このシステムの判断信頼度は疑問の点もありますが、画像から読み取るだけで、危険度リスクを判断できるのは良いと思います。
- ウィズコロナのガイドラインをタイムリーに出してほしい。
- 正確な情報発信。
- マスク、消毒薬、非接触体温計の配布等。
- わかりやすい情報を早く知らせてほしい。
- 早く終息になればと思います。
- 地区活動でコロナ用として予算は今年度取ってない。必要品を購入する際、金の出す所が無い。地区活動にも、援助金がほしい。
- 防災放送でのコロナ放送にて感染注意ばかり呼びかけるのではなく、「正しい情報を伝え」市民に注意と安心を与える内容にしていきたい。（上尾市に新型コロナによる死者は0）
- 市広報、回覧PR、ホームページ等で通知しているので良いかと思う。
- 上尾市のどの地域で発生したのか？公表してほしい。対応がしやすい為。
- かかりつけ医等で簡単にPCR検査ができるように
- 1. コロナ下での活動は難しいと思います。  
2. 当会もそしてボランティア先も高齢者なので…。(自動車運転等も問題。)
- 関係各所への速やかな情報提供。情報の共有。
- マスク着用、手指消毒の徹底などを条件に「だんらんの家」など早く再開して欲しい。
- 消毒液の配布、体温計の配布、何でも中止するのではなく、どうしたら開催できるか考えてほしい。現場の声を聞いてほしい。
- 感染対策のグッズリストを作成して各団体が必要そうなものを選べるような助成の仕方をして欲しい。ひとつひとつ調べるのが大変。
- 全員無料で検査をしてほしい。早く終息する様にして。
- コロナ禍において、様々な事業や会議の中止が相次ぎ、問15のような実態が課題となっている中、自治会では、不足しがちなコミュニティを何らかの形で補完できないか、種々事業を模索・検討している。クラスター発生のような事態になっては本末転倒であるが、何とか高齢者のための事業を検討している自治会に対し、市としても中止、延期の要請だけでなく、何らかの形で実施する方法はないかという視点に立ち、自治会の意見を聞きながらスピード感を持って協議や助言、支援をしていただきたい。
- 規制に関する一元化。
- 窓のない室内の換気対策。
- 現在は、集会室や会議室が定員の半数での使用となっており、予約できる部屋が限定されています。今まで開放されていない部屋などあれば、是非増やして頂ければと思います。
- 障害児・者とその家族に対して、もっと親身に関わって欲しい。サービス制限などの緩和もお願いしたいです。

- 感染が発生したと思われた時にどう行動したらよいか（例えば、相談機関はまずどこなのか、どれだけの医療機関、どこの病院にかかればよいか）等わかりやすい形で知らせてほしい。
- 障害児一人一人に対し、家庭・学校・放課後等支援施設で相互に協力できる体制づくりをお願いしたいと考えています。学校の臨時休業中、家庭で過ごすことが困難な場合、学校預かりや支援施設の利用で居場所づくり、生活サポートができればと思っています。その際、3密緩和のための工夫（場所の提供や日数・時間調整等）、職員の安全確保、人材確保、負担軽減、これらの観点からも、情報共有や必要に応じて一定程度の統一性を示していただき、各方面から支援、協力していければと思っています。日常生活において、マスクをつけられない等、困難を抱えている子の理解を広めていただければと思っています。
- with コロナでの活動指針の明確化。
- 行政も大変だと思いますが、個人個人で油断せず、ウイルス対策を常日頃実施することしかないと思います。特に提案はありません！
- 自治会加入のアドバイス指導。
- 活動にあたって「安心」「安全」を担保するために、PCR検査の補助金をお願いしたい。
- 現在は解決しているが、当初は非接触型温度計や消毒液は手に入らなかった。自治会館等に設置する分程度は、行政側で取りまとめて配布することぐらいの事は行って欲しかった。（避難所となっている学校等の備蓄品として配布していたが、これに含めての対応で手間はかからず可能と考える。…これから始める政府の指針。行政の横割り（？）を進めることが重要。）
- ほとんどの活動を取り止めはいかがなものかと考えます。工夫すれば出来るものがあると思います。是非ご検討を。
- 市内の感染情報、区域の表示。
- 情報提供、どのような事がおこり、どのように対応をしたかなど。
- 「新しい生活様式」の生活を送ることになり、感染症対策（手洗い、マスク着用等）は徹底して行うことになり、今後、活動の目安のガイドライン等の説明が関係機関から実施されますが、高齢者の多くいる行事等の開催は、自治会として自粛する方向で？
- 新型コロナウイルス問題を考慮し、今年の敬老会事業については敬老会開催の自粛を求める案内を担当部署より発信されたので、事業を主催する町内会としては開催の是非について悩むこともなく、事業を行ううえではやりやすかった。しかし、担当部署によっては、事業開催の是非を町内会に一任するので、町内会としては開催の是非について悩むところだった。同じ事業（例えば防災訓練）を実施する地区があったり、実施しない地区があったりするのもおかしいと思うので、担当部署から統一的に見解を示して欲しかった。
- 感染対策を十分に行えば、ある程度の活動は規制せずとも良いと思いますが、必要な活動は緩和の方向で良いと思います。
- 市のホームページに「新型コロナウイルスに感染した？と思ったら（相談窓口）」が掲載されている。記憶は定かではないが、紙ベースでの案内はされていないと思う。全ての家庭でPC操作が可能では無い為、保存版として内容を要約したパンフレットがあれば安心出来ると思う。感染が心配な状況になった時、相談手順の助けになると思う。
- 可能な環境は、どのような形があるのか情報提供が欲しい。
- マスク及び消毒液などの市民への配布。
- 情報が入ってこない→家から出ない状況が続く、一人で悩む。声かけ運動と分散した集まる場所

でのコミュニケーションの場所づくり。

- 災害時用のマスク、消毒液、段ボール（仕切り用、床用）の支給をしていただけると助かります。
- 活動するにあたり、できる範囲内ですみやかに慎重に情報の提供と対応の仕方を知らせてほしい。
- 活動するにあたって注意すべきことなどの情報。
- 活動するための方法等を具体的に示してほしい。
- 防災無線で「コロナに注意」「マスク着用」放送してくれて良かった。
- 終息が見えなくなり、コロナですが、来年度もこの状況が続くのか判断できません。市としても分からないと思いますが、これからもご指導をお願いします。
- 上尾市内の地域別感染者数を公表してもらいたい。それにより住民はより敏感に対策を行える。
- サロン、老人いきいきクラブなど、老人が多々参加する場合（飲食、ソーシャルディスタンス）などの、ガイドラインがあれば助かります。
- 情報はホームページなどで得ている。
- コロナ禍に於いて、活動的に行動する人、又防衛的に行動を控える人、色々と思うので、都度様々な情報を発信して欲しい。
- メディア等でも情報が伝わっているので特でない。
- GoTo キャンペーンはスタートしている。上尾市も「3密防止を守り」各自治会の判断にまかせて、活動出来るようにして欲しい。
- コロナウイルスで行政はほとんどの事業が中止になっているが、GoTo キャンペーンもスタートしています。早く開催できるように推進して欲しい。
- PCRの検査を安価で受けられる様にしてほしいです。
- 終息の見えない今、行事等に何でも取り止めの現状ですが、防止対策を充分にした上での実行が必要と思います。
- 活動再開の具体例。
- 情報開示、今後の展望、指標など。
- 心無い誹謗、中傷もあるので難しいとは思いますが、クラスターが発生した場所などは出来るだけ発表して頂けたら有難い。最近、上尾市の感染者がジワジワ増えているので不安である。市をあげて、感染者や医療従事者及びその家族への無責任な噂や誹謗中傷を止めるような取り組みをして頂きたい。私たちのボランティア活動もリスクを背負っての活動なので、公演時は緊張するが、児童館などでの親子連れの笑顔を見ると、出来るだけやっつけたいと思っている。
- 我が身にふりかかっておりませんので、TVのニュースや新聞の記事で今のところ充分です。
- 行事の中止を指導するだけでなく、どうしたら高齢者の活動の再開ができるか検討、指導して欲しい。また再開に際し、必要な器具（仕切り板や検温器等）を支給して欲しかった。
- 新型コロナウイルスによる差別、誹謗中傷や差別防止のとりくみを市全体でPRしてほしい。（シトラスリボンプロジェクトINさいたま、やっています。）
- ボランティア団体で、ほんとに支援したい、支援をうけたいと思っている人に直に広報することはなかなか難しいです。これはコロナ関連時だけではなく、常々も含まれますが、行政のちょっとした広報「こんなところもありますよ」とか、チラシを手渡しして下さるだけでもかなりききめがあるのかなと思っています。
- 現在使用中の施設が再び使用不可になった場合、使用できる施設の情報提供をお願いしたいです。
- コロナ対策はもちろん必要だが、それによって子どもたちの生活の場が制限されるのはこまる。

今の時期こそ学校において少人数学級を実施してほしい。

- 公園などの公衆トイレにはハンドソープ（石けん）、手洗ポスターを設置してほしい。（たとえば上平公園のトイレにはハンドソープはおかれていない）
- 免疫力を高めること！日本文化、芸術、音楽をやる機会をふやしてほしい。地域の人達もかわる機会をふやしてほしい。
- 問 14、入手困難時の情報の提供が必要。
- 1. 危機管理に対する一般的な災害でなく、テロや伝染病等々の危機を総合的に管理指導する部門の設置が望まれる。
  2. キッチンカーやトイレ専用車等、移動可能な車両の導入も検討してはどうか。
  3. 民間企業との災害時の協力の覚書を結ぶ事も必要。避難場所（コロナによりスペースが減少）の確保他。
- 上尾市の発生状況など知らせて欲しい（数字、グラフのこと）。役所が捉えているだけでは、役立たない。
- 集会所（公民館）の管理方法やクラスター発生時の対処法などの指針を提示してほしい。
- 正しく感染を防ぐための知識やそれに必要な物資など。発生した当時はマスクが買えず、また消毒液も買えなかった。
- 新型コロナウイルスが感染拡大して居る現状で、自分が感染して居るのではないか？他人に感染させて居るのではないか？不安でならない。誰もが“PCR検査”が受けられる環境、体制を整えて欲しい。安全・安心が享受出来る環境を望む。
- 屋外での活動はコロナ感染予防対策を充分に行い、気をつけて徐々に活動開始をしておりますが、屋内での活動は未だに開放されず、自粛状態で有ります。会員が疲弊しておりますので、早く屋内での統一した規程を作って開放して頂きたい。
- 行事を全て中止させるのではなく、どういった方法で行ったらリスクが少ないかを指導していくべき。特にコロナウイルスへの対応、理解が深まってきた9月以降は、行事再開を検討（ガイドラインを作って）しても良かったのではないか。
- 自分たちの生活の中で、手洗い、うがいの励行を行ない、感染にかからない様な生活をする事が大切であると思います。PCR検査が誰でも受けられ、安価に受けられる様に提案したいと思います。
- 多くの情報提供。
- 尾山台団地では、新型コロナウイルスに感染した方はお聞きませんが、できるだけPCR検査を安く受けやすくしてほしいです。
- すべて活動を中止とせず、どの様にしたら活動出来るか？
- 新型コロナウイルスの影響により、外出機会の減少、在宅時間が増えたが、「会話の減少」により社会的日常生活が欠落する傾向を感じます。筋力の低下と人とのつながりが希薄になるフレイル化を危惧しています。コロナ禍におけるフレイル対策により、要介護等高齢者対策を要望します。ノルディックウォーキングの推奨は良いと思います。
- 行政自身で出来る事は限られており、大半が自治会に振り向けられる。現在、最も重要な事はコロナ感染第3波で、この冬をどう乗り切るかです。感染防止は人との接触を避ける事で、高齢者は外出を控えるのが一番で、全ての活動を来年春まで自粛すべきと考えます。

## 自由記述

誰もが住みやすいまちづくりを進めていくためのご意見やご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

- 町づくりでは、最大の問題はごみ処理。それから、自治会加入問題。アパートはなかなか入ってくれない。新しいアパートはゴミ置き場があるからいいが、古い所は特に問題である。困りごとのある人が会員ならいいが、非会員だと扱いが難しい。区会ではなく、自治会制度に変わったので特に問題である。
- 難しい。このアンケートで何が役立ったのか、計画を策定することで何が進むのかも良くわからない。
- どのような活動でも、そのための経費が必要となっている。このための支援をもっとして欲しい。
- 年々高齢化が進み、若い人が会に入っていない。役員の子手がない状況で、将来的に不安をかけて種々活動している。
- 地域コミュニケーションの大切さについての講演を小分割（20世帯位）に全世帯が参加することを半強制的に行う。大変時間がかかるかもしれないが、教育をしないとイケない。地域のことは地域で解決してゆくことは大切であるが、行政（社協も）サイド独自で専門職を設け、当面、高齢者世帯の実態、及び家族の本音を各世帯より直接情報収集したらと考える。町内会等では限界があり、地域の弱者の情報は今後も把握し難く、行政（社協も含む）、地域が欲する情報、対応は困難。民生委員の現状では無理。社協の見守り活動等に重要であり、地域福祉活動の争点ではないかと考えます。
- 1. 役員の短期交代が多く、継続的活動の積重ねが困難と思う。その解決には非常に難しいが、なんとかしたいものである。
  2. 見守り活動隊の活動、防犯活動隊など継続的活動が重要。
  3. 地域でのあいさつ運動は展開することになっているが、まだまだ不足と思う。役員を中心にもっと積極的に展開していくことが大切と考えます。
- 1. 地域をまとめる事の難しさを痛感した。
  2. 3月までの任期だが、地区内を風通しの良い自治会を目指したい。
  3. 特に農家と非農家の一体化。
  4. 若いリーダーの養成（助言）。
  5. 最後に自治会長の多忙さを思い知らされた。
- 当団地では、1年位で車の騒音が問題になっています。車のマフラー改造車両、夜の騒音で子供が泣く、イライラすると報告があります。管理会社の対応が良くないので、良い方法を探しています。市で防音対策の考えは！
- 若い人達もたくさんいます。高齢化社会に向け、若い人達が手をさしのべられる体制を作ってほしい。高齢者等が入れる食堂、車椅子で入れる食堂、店の改造など、一定の市の支援を検討することも大きな課題ではないか。
- 高齢者がキャリーバッグを引きながら買い物に出かける状況を見るにつけ、道路にはすべて歩道エリアを設けるようにしてもらいたい。歩道がなく、交通量の多い道路では危ない状況です。また、多くのみなし道路に対しても、本格的アスファルト舗装を実施してもらいたい。特に地域の生活道路として買い物に多くの人々が往来する部分に対しては、境界後退していなく私有地部分があったとしても、住民の安全確保のためにアスファルト舗装工事を実施していただきたい。

一時期流行った、抜け道地図のルートに対する抜け道防止措置の地域作戦での対策をお願いしたい。今でも細い道から幅広道路を横断して、細い道に入るルートで通行している箇所が数か所みられる。これらは、生活圏道路内に、他地域の抜け道ルートとして危ない通行されているだけであると思われる。

上尾市はスクールゾーンに対する教育指導、啓蒙が何一つされていないと思う。ただ、交通規制標識を付ければそれで良いというものではないと思います。付けた規制すべき内容が遵守されるように、指導と啓蒙 PR することも大切であると思います。聞くところによると、スクールゾーンの代わりに、簡単に広い規制ができる 30 km 規制ゾーンで、スクールゾーンをしない方向であるとの方針の声も聞こえてきます。各生活圏の実情に合った対策を実施していただき、市民の安全な暮らしを確保していただきたい。

高齢世帯のみや単身世帯の増加がますます進む状況では、互助、共助と言っても、基礎の部分となる自助の確立（子、親族、後見人、緊急時連絡先等との連携確保）をしていただくことが大切となります。緊急キットとの関係もあります。連絡先体制の事前記録も設定してもらえよう啓蒙していただきたい。エンディングノートとまでもとは言わないが、せめても子、親族、後見人、緊急連絡先等との関係確保の日頃からの啓蒙が今後必須になると思われます。早期の行政からの啓蒙活動をよろしくお願いします。

- 何か問題が発生したときに、どこに相談していいのか誰かが分かるような仕組みづくり。
- 公民館等々樹木が植えられている。樹木は年々大きくなります。小さい時は、役員で手入れができますが、大木になると、手におえません。枝、落ち葉も大量になります。市で考えていただけませんか。
- 上尾の東側区域に都市計画道市道の南北方向の軸が無く、不便である。国道 17 号線と県道大宮曹蒲線の間ほしい。（街づくりは道路下水から）
- 町内会で対応するには、限度がある。個人情報で中々入りにくい点がある。NPO のようにしっかりした組織化した体制が必要では。活動内容に理解不足が多い。又、他人は他人、自分は自分と身勝手な人が多いように感じる。  
アパート関係に入居している人は、管理会社・大家さんがしっかり管理し、市がキッチンと管理すべきだ（住民票がないと入居できないとか）。アパートの管理 No. だけでは、誰がいるかわからない。  
アパート関係の集合帯のごみ収集場所について、旧のアパート関係のごみ置き場を管理会社・大家さんにゴミ置場所を設置させる指導は出来ないものか。（町内会、お願いしているが設置してもらえない）
- アンケートの調査も良いですが、市の職員の皆さんが現場に出て、実際に体験することが必要だと思います。
- 森林や田畑が少なくなって宅地が増えているが、緑や自然の豊かな環境の維持が必要。
- 今後一番の課題は、高齢化対策だと思います。何より各家族の認識が大切だと思います。自分の老後はどうしたいか、その時に考えるのではなく前もって考えながら少しでも実行できる様な準備をしておく必要があります。（人によっては難しい場合もあると思いますが…）マンパワーや経済がひっ迫している今、老人にお金や時間を費やすより、次世代を担う若者や子供たちに目を向けて頂きたいと思います。高齢者は長年の知恵と経験を生かし、自分の場合はどうしたいか決定し、知らせる体制強化を望みます。元気な老人を活用し、生きがいにもつなげる活動の場が増

える事を望みます。(遊びもあり)

- 難しい問題ですが、道路等のバリアフリー化(車イス対応)は、大部進んでいるようですが、まだまだ不十分なので細かく現場を見直す必要があると思う。人とも交流場所(町内会等各地域)が少ない。場所もそうだが、時間、テーマ等を立案し、各地域で実施する方法を考えないといけないと思う。災害時の安否確認等でも隣近所、町内会が大事になる。個人情報の問題で、一人暮らし等の情報を町内会が持てないのは困る。
- 子育てしやすいまちづくり。特に若い世代が上尾市に住んでいてよかった、楽しい、希望が持てる、という実感が得られる街づくりを期待したい。→乳幼児があそぶ場、広場、自然が豊かな公園などの整備をしていただきたい。行政には、市民の声(高齢者、若い世代、子育て世代)をよく聞いて施策を遂行していただきたいと思います。具体的には、子供たちが日中遊べる公園の整備をスピード感もっての実現を期待している。(市民の要望を取り入れていただきたいです。)宅地化で、林、畑、緑がどんどん少なくなっていて淋しいと思う昨今です。
- 現在、当会の定例会場であったコミセンが改修中で使用できず、新型コロナ問題もあり、活動休止をよぎなくされていますが、要望として、上平地区旧市図書館本館予定地あたりに、上尾市東拠点として、市民、ボランティアグループ、高齢者、障害者(第2プチトマトがあるが、一般市民は入りにくい)等々、お茶を飲みながら交流できるサロン、喫茶店(安価を売りの軽食、自販機でもよい)。現在の上尾図書館本館入口脇のコーナーは、高齢者の暇つぶしの茶のみ場所を造っていただきたい。多目的に使える施設が良い。防災の避難場所としても使えるものがよい。
- 1.(前述しましたが)高齢化と自動車(免許)運転の問題がある。
  2. 又、車いすの管理が大変です。当番制にして回り持ちで自己管理している。
  3. 車いすを社協さんで預かってもらえると有難いと思います。(スペースの確保)
  4. 但しこれから活動の継続が問題となっている…。以上。
- 人の世話にはできるだけなりたくないとする老人世帯が多い。これは生き方としては立派であると思う。しかし、高齢化に伴い人の世話にならざるを得ない人も多い。ご近所とコミュニケーションを深め、他人の世話も受けることは良いことだと思える社会にしたい。買い物代行、病院送迎、イベント(老人会)参加援助、その他困ったこと相談(庭の草とりなど)。独居老人、超高齢化家族に対するボランティア活動がスムーズに行える体制づくりが望まれる。
- 誰もが外向きの生活を志向することが、それを阻害するものを見やすくすることになり、何が問題か明らかになり易いと思う。コロナなどは、強引に内向きにさせるので、他人の問題など目につかなくなってしまう。
- もっと地域に高齢者のデイケアサービスの場合、施設があったらと思う。
- 市民から見ると市役所も社協も一緒である。市役所や社協といった枠組みを超えたワンストップ窓口を設置するとともに、市民の身近な支所に定期的にワンストップ相談員を巡回させて、市役所まで行けない方々が相談できるような体制も必要ではないか。また、市民の身近な窓口である支所、公民館、地区社協は、その多くが別々の場所に立地している。それぞれの使命、役割、設置根拠は異なり、また施設の面積的な面からも同一施設に設置することが難しいことは理解している。しかしながら市民からすれば、同一施設にあることが利便性の面からも必要なことで、ワンストップ窓口にもつながるものとする。今後の施設再編等のなかで検討していくべきと考える。※ソフト面での対応として現状の支所においても、例えば、市役所で福祉の経験があるOBを相談員として配置し、ワンストップ相談窓口としての機能を持たせることも一案である。

- もっともっと透明感のある上尾にして下さい。今のままでは上尾市には何も期待出来ないし信頼出来ないで…。
- 戸崎地区におきましては、まちづくり憲章があります。鴨川や斜面林などの恵まれた自然と、動植物が生息するみどりと豊かな地域があり、農業と住民生活が共存できるうるおいのあるまちづくりをめざしております。神社などの歴史と文化を大切に、陽当りや景観に配慮したゆとりある住環境を後世に引継ぎます。人々に迷惑をかけないようにルールを守り災害や犯罪のない安全なまちづくりをめざします。又、お互いコミュニケーションに心がけ、子供、お年寄り、障害をもつ人などにも暮らしやすいまちづくりをめざします。  
※上記の為の助成金制度はないのでしょうか！！
- 私見としての住みやすい街とは、①地価が安い②治安が安定し、犯罪発生率が低い③繁華街がない④東京の駅に出やすい⑤スーパーマーケット（遅くまで営業している店舗もある）が適度にある⑥大音響の施設がない⑦歩道が整備されている⑧災害が少ない⑨街灯が多く明るい⑩子育て支援制度が整っている⑪待機児童がない⑫公園・児童館が多い⑬子育て世代の流入が多い⑭夜間対応の病院が整っている。ポイントとしては、「高齢者」「要支援者」「子ども」等、弱者に住みやすい条件が揃っていれば、多少の不便は許されると思う。
- これから世の中、少子高齢化に進んでいくものと考えられることから、これらの世代に一層の厚い福祉予算、事業を真剣に取り組んでいくことが必要。
- 行政の対応水準は高く感謝しておりますが、次の点について苦慮しています。高齢者の個別問題につき、自治会がどこまで関与できるのか、民生委員との連携も難しい。公園の清掃、樹木管理が高齢化と共に負担となっている。
- コロナ禍で、自治会では今までにない経験をし、感染防止に向けた取り組みや、新しい生活様式等、色々な課題に直面し、従来の地域活動さえ維持できなくなっている。コロナ禍でも、自治会活動を停滞させるのではなく、安心安全で住み良い地域づくりを進めなくてはいけないと思う。また、下組自治会でも例外なく、高齢者の割合が増加しており、地域活動の担い手は不足し、隣近所の交流も少なくなってきた。そして、自治会では、今までの活動に加え、地域の安全管理や自主防災、独居老人等に対する住民同士の見守りと助け合い等、共助コミュニティを担う地域活動の在り方等、地域的課題の対応が必要となっているのでは？まとまりませんが以上です。
- ①治安がよいこと②隣近所のコミュニケーションがとれていること③災害に備えた地域の防災機能が働いていること④地域における見守りや声かけによる安全が確保されていること⑤駅やショッピングセンターに近いなど立地条件がよいこと、以上私の思いつく住みやすいまちの条件かと思えます。「立地条件」については変えられないもので仕方ないと思えますが、その他のものについては、地域住民同士の協力や行政などの連携により変えられるものだと思います。その中心となるのが町内会だと思いますが、町内会の魅力をアピールすることが難しい。なんらかの形で町内会に係わったことがあれば、魅力やメリット・デメリットをわかってもらえると思えますが、係ったこともないと定年後も町内会というものを知らないこともありうると思えます。もっと誰もが自由に町内会を知ってもらうにはどうしたらよいのか、そして誰もが楽しいと思えるような町内会をつくるにはどうしたらよいのか、住みやすいまちづくりを進めるにあたり考えるところであります。
- 住民の情報で必要な物で市が掌握している物、例えば生活保護を受けている方の病気の情報などが分かれば、支援方法や援助方法の確立に役立ちます。

- ①昨年の台風 19 号では、平方地区をはじめ、市内各所で床上、床下浸水、道路冠水が起きた。防災無線等で警戒レベル放送が流れるが、レベル数字だけではなく、住民が取るべき行動も同時に案内して欲しい。
- ②道路反射鏡、照明灯設置については、年 1 回市への要請により、受諾してもらっているが、予算の都合もあるので必ずしも設置とはならない。各地区からの要望は交通事故防止の為の現状を鑑みての申請である為、予算増を望む。
- 1 日中、家の中ですごしている高齢者が多くいると思うので、散歩したり話ができる環境を作っていきたい。アドバイスがあれば聞いて参考にしたい。
- ぐるっとくんのバスの便数をふやし、老人などがより多く使用できるようにする。
- 新型コロナウイルス問題がこれからも続くと思いますが、その中でも一人一人が笑顔で明るい日常生活が送れる様、特に高齢者、子供達、弱者に寄り添う取り組みが必要ではないでしょうか。高齢者と子供達のふれあいの場づくりは困難と思いますが、感染対策をおこなってから実現していけばいいかなあと考えています。
- このアンケートがどの単位で配布されたのか明確にさせていただいたら、違った回答が出来たのではと思います。例えば、町内会、町内会の社会福祉協議会、民生委員、それぞれにアンケートが出ているのか？いないのか？で回答の具体性が違ってきます。Ⅲのアンケートについて①取り組み内容と具体的なイメージと 1～5 のポイント付けがおかしく感じました。②地域の実現の内容が複数あるのに、回答が 1 か所のためどう回答すべきか曖昧さが大きく思います。
- 今後とも、行政と地域が協働していける態勢を維持してほしい。
- 住宅地の再生化。循環型社会（地域）の構築。
- 市に寄せられた町内会活動に対する苦情を町内会に連絡するだけでなく、市民を説得するなり、解決できる手助けをしてほしい。1 人が苦情を言うと、町内会の行事を中止しなければならない。
- 住みやすいかどうかは場所によるので、住みにくいところ、例えば事故の起こる交差点など、工事をしてもらいたい。私の住んでいる地域（東今泉地区）の場合、スーパーも多いし、道路も広いし、学校も近いし、静かだし、災害が無いし、事件（盗難とか）聞かないし、充分住みやすい。
- 高齢化社会の中、町内においても事業や行事の活動で問題がでてくると思われる。今後も市、社協と連携し、協力しながら行っていきたいと思います。
- 最近小学生でもあいさつしない子が多い。大人でもそうですが、日頃からあいさつする家庭環境が大事ではないかな。又、地域との密接も。
- アンケートは手書きではなく、キーボード入力にしてもらいたい。
- 高齢化社会の対応について。
  - ①町内会活動における、役員の高齢化など、人材不足対策が必要。
  - ②町内会会員の高齢者が多く、やむを得ないことだが退会者が目立つ。子供世代への物心両面の充実・拡大が将来のメンバー維持に必要である。
  - ③学童見守り活動メンバーの高齢化にもかかわらず、見守りメンバーに丸投げ状態。保護者、学校、見守り活動メンバーの協力出動が必要。（東平塚見守り会と年 1 回交流会を開催しているが、年寄りの人ばかりで感心します！！）
  - ④民生委員の活動について、無給活動が基本だが、高齢化社会への対応策として、委員への物心両面の配慮が必要。口先、理論だけでは上手く現実が改善されることは難しいのではないかな…。
- 地域共生社会、多様化する価値観を尊重することが実現できることが理想だが、まだまだ、日本

の社会がそこまで成熟していないように思います。地域社会の中でつながって、伝えていく活動を社会福祉協議会でもっと知ってもらいたい。最近、運転免許証を返納する方が多くなったとか。「ぐるっとくん」も1時間に1本運行程度では困る。送迎サービスなどの充実も必要。

- 駅近の保育施設。歩道、自転車通行帯の増設。
- 地域の中で世代間が交流できる機会をもちたい。「あいさつ」が基本、大人が率先して行っていく。
- 自分が困ったら「助けて下さい」というSOSを勇気をもって発信してほしい。必ず手を貸してくれる人、飛んできてくれる人がいるはず。
- 個人情報保護法により、緊急時の連携が取れない時が多々ある。特にURからは居住者の転入、転出、連絡先を知らせてもらう事が出来ない。尾山台福祉ネットワークの協力団体のはずが、緊急時には生かされていない様に感じてしまう。私達居住者には1番の協力団体であってほしい所です。地域での情報共有の範囲を明確にして、スムーズな連携が必要で有ると思っている。URへの最小限の情報開示をしてくれる様、お話をしてもらえないものかと思っております。
- 地域での交流を密に、顔の見える関係が大切だと思います。困っている人が声を発しやすい環境づくり。声をかけやすい状態であること（隣の近所は特に）。
- 質問内容が当てはまらない所があり、回答に困りました。行政にもエキスパート的な存在がほしいと思います。個人情報が入りにくく、会員サービスが行き届かない。
- アンケート内容に回答が難しい。具体例が具体化していない。段階を経て、又、社会環境、人口推移、年齢構成などで変化に対応していくのは大変だと思います。色々な情報を共有してより良い活動にしてほしいと思います。
- 1. 上尾市のまちづくりについて。
  - (1) 若い世代が魅力を感じる上尾のまちづくりを行うため、20代~30代の人たちを公募で募り、具体的なテーマでプロジェクトチームを立ち上げたらどうか?企業や聖学院大学などとの共同事業も行われているのかどうか?
  - (2) 人口の規模が同じ位の他の都市と比べて、文化的な施設やイベントが少ないように感じる。上尾市文化センターが駅から遠いのもネックのひとつか?桶川市の「響きの森」と比べても立地や設備などで見劣りする。
- 2. 本アンケートに対する意見。
  - (1) このアンケートは記述する箇所も多く、真剣に書こうとすると作成にかなりの手間と時間を要する。もっと簡潔にして頂けたら有難い。
  - (2) Ⅲの「上尾市と上尾市社協の取り組みについて」の項目の内、「期待度」というのは余り意味が無いように思える。目的が何なのか分からない。項目全てについて、現状出来ていなければ今後「期待する」ということになるのではないかと思う。
  - (3) 5年前にも同様のアンケートに回答したが、何らかの形で市民にフィードバックして頂けたのか?「余り取り組んでいない」と評価された項目についての改善状況なども含めて。
- コロナ禍が続く今日この頃、高齢者の老人施設向けの歌のボランティア活動はどうなるのでしょうか。自分の高齢化ボケ防止のために、奉仕出来る奉仕をしたいがためにボランティア活動をしているのです。老人施設の参加者と一緒に10人程のボランティアで昭和の歌謡曲や童謡を45~60分間楽しんでいるのです。コロナ禍防止のため、当局の指導で老人施設でのボランティア活動が休止されているので、われ

われ高齢者のボランティア仲間は、奉仕と楽しみが休止されています。歌う事の楽しみを持つ仲間はガッカリ続きで、ほかの趣味活動を模索していますが、集まる会場も開放が休止され、コミセンも工事のため、幹事が数人で喫茶店にて打合せ程度がやっとです。マスクをして15分位、皆で歌う程度の楽しみを、老人施設などで認めて戴けたら幸甚です。70歳以上の老人のボランティア仲間です。楽しみを失った趣味の少ない老後老人を今後どう救ったら良いのか考えてしまいます。よろしく対策をお願い致します。

ボランティアも皆さん段々と高齢化になって来ました。老人施設でボランティアをやっていると、今後出来るだけ施設のお世話にならない様に頑張らなくてはと思います。若い中は相手をどうやったら楽しくさせられるかを考えていましたが、最近は、何時まで続けられるか考えざるを得ません。自分が施設の参加者となった場合、これで良いのかと、出来るだけの努力をしながらボラをしています。参加者を楽しませるには、自分を楽しませなければ、ボランティア活動は続かないと考えています。

今やっているボラは、歌のサークルのハーモニカ伴奏を3グループに協力していますが、各々違った楽しみ方をしています。また別の趣味活動も交えて、やっております。悩みは施設まで辿り着く交通手段です。7~8kgの道具は、自転車か同施設に行く友人の自家用車かタクシーになります。歩きやバスの乗り継ぎは、身障者1級と介護支援1の身では無理です。やめれば良いと言う人も居ますが、そうもいきません。

ボランティアは報酬や交通費は無く、自己努力でボラの場所まで行かなくてはなりません。高齢化になると、ボラの場所に行く手段に悩みます。車を運転している人は天候に左右される事なく行けませんが、75歳を過ぎるとどうなるか。雨の日には自転車利用者は行けなくなります。バス利用の人や徒歩の人は傘さしでどうにか可能です。同方向に行く車を頼める人でも、運転者も高齢者。ボラ保険に入っている筈ですが、万一の事を考えると、お互い考えてしまいます。悩みの種でしょう。若いボランティアの参加を期待します。

今やっているボラは、段々マンネリ化してきたので、歌のサークル毎にハーモニカ伴奏の方法を変えて、協力しています。各々違った楽しみ方をしています。また別の趣味活動も交えて、気分転換をしております。

介護保険支援1、身障1級の身で、機能訓練や元気UP体操や他のボラ活動で、午前・午後と続いた場合は、どちらかを休んで、半日のみの活動にしています。

2025年問題も考えておかねばならないと思います。戦後生まれの団塊の世代が老年期になり、老人施設の参加者の戦前教育を受けた人達が少なくなります。歌のボランティアについては、歌の好みが全く変わってきます。今の我々は昭和30~40年代の歌が多いのですが、団塊の世代は昭和末期から平成時代の歌になって来ます。ボランティアの方もその時代の者に替わらないと、現在のメンバーでは続きません。歌詞集の編集替えも必要です。スマホでプロジェクターかな？自転車紙芝居がパソコン、プロジェクターに変化してきた様に。以上。

- 10年前よりは、ずっと多くの人々に知られるようになったとは思いますが。その過程で当事者の家族として、たくさんの心ない言葉に腹を立て、傷ついたりしてきました。私は精神障害をもつ者の母親としてのみ、アンケートに答えてきました。県の施策推進協議会に参加した事実もありますし、やはり、計画倒れが多いと感じています。

上尾市におかれましても、アンケートを実施し、答えを集計することで施策としてはOKかもしれませんが、人生の基本の部分に差別、偏見を受けていると常々感じている身としては、この

アンケートで心やすまるということはありません。弱者と呼ばれる立場にある者達は、どのようにしたら自分が生きていられるかを、自分自身で見つけ出しています。

- 「まちづくり」と限定されてしまうと、ちょっと筋ちがいかもしれませんが、子ども食堂に関しては、この10月から市側の助成があり、お米、調味料、干物、野菜等の支援をうけています。とても助かっています。保管場所等の問題や寄付の野菜と重なったりすることもあり、とまどうこともありますが、概ね助かっています。そして、届く野菜もとても上質なもので、私達は常々、安くて季節の物とかを心がけているのですが、ひと味アップの料理の仕上がり喜んでいきます。また調味料に関して、スーパーの特売品を買いあつめていたのですが、マルヒ口の私達にとっては「お高い品」が届いています。ありがたいです。これが、来年3月までとなると、4月から、私達だけの力で賄うことになる、ちょっと落差がでるかもと話しています。給食関連の業者さんへの支援の形もっているこの助成とうかがいましたが、市民がみんなでもりあげていく（支援を受けとらせたい子ども達の救済を含めて）ことができればいいなと思います。
- 市は、地域のために活動している団体の声をきちんと聞いてほしい。アンケートは初めて書くが、直接聞いてほしい。活動団体の実態を知ってほしい。子どもの居場所活動が増えることは、教育とともに子どもたちを大切に育て、将来の社会をつくる作業です。その活動を保障するための施策を惜しまないでほしい。自分たちの仕事として考えていただきたい。
- ・横断歩道などの白線点検、補修（うすくなると弱視の人には極めて見えづらい）。
  - ・点字ブロック未設置道路への設置拡大。
  - ・市民が視覚障がい者に気軽に声かけできるよう講習会の実施。
- 上尾駅～市役所通り、雑草を取りましょう（きれいにしてほしい）。芸術の上尾市になってほしい⇒心もいやされ（心の栄養になる）、犯罪者も減る。笑顔が、増える。楽しい町になる。病人も減る。
- （広報あげお）月刊誌に市役所及び外郭団体が印刷発行物を集約し、一冊にまとめてもらいたい。コストの削減や配布者の時間短縮や情報のスピードが早まる。
- このような計画により、様々な新しい施策が展開されることは誰の目にも良いことと見えるが、実施するのは末端の衰退して行く自治会です。担い手が増えない自治会の役員の負担が増し、いっそう役員のなり手がなくなり、自治会は衰退の一途です。これからは、市民一人一人が直接参加することで成り立つような計画にしてほしいと思います。
- 生活スタイルがどんどん変化して、休日もばらばらなため、皆が一同に集まる機会が少なくなっている。やる気が出るカンフル剤が欲しい。
- 当地区においては、町づくり協議会を行なっています。
- コロナウイルスが一日でも早く終息（収束）してほしい。
- 下平塚区民は、今迄、屋外活動の処点は平塚サッカー場で行っておりましたが、本年早々、全面人工芝に張り替えし、施設使用料が大幅に値上がりしました。その為、地区住民のグラウンド、ゴルフ、ゲートボール大会、他のスポーツ活動がほとんど出来ず困っております。活動する場所が無くなりました。上平公園迄に行くには交通手段を考えなければなりません。苦慮しております。下平塚地区には広い公園、近くに学校もなく活動場所がありません。どうか平塚サッカー場使用料金を低廉して頂きたいのです。例として（3時間1,000円として年間試算してみますと）、毎週（月・水・金）月間4週12回、1,000円×12回＝12,000円、年間10ヶ月として12,000円×10ヶ月＝120,000円の費用がかかってしまいます。我々、いきいきクラブと

しては、クラブに莫大な金額を支出することは出来ません。どうか、下平塚地区はいかに活動場所がない所かを実状見聞して頂き、行政に御検討をお願いする次第で有ります。

- 「誰もが住みやすいまちづくり」の意味がよくわからないので意見はない。但一つ「多文化協生社会」を積極的に推進しようという政策は自治会としても、一市民としても迷惑でしかない。
- 「自転車の町」という割には、自転車が走りにくい。自転車専用道は西口の一部を除き、使いにくい。駅前から自転車が一扫されたことは、市の素晴らしい活動。但し、駅前の買物等で自転車が使用できなくなった高齢者への対策（公共交通機関の充実、一定の無料タクシーチケット）が必要ではないか。
- ・高齢者増加に依り、誰でも気楽に話し合える場作り、環境作りを進めて行きたい。
  - ・他地区との交流が深められる場作りで更に明るく、生きがいを感じる環境作りをして行きたい。
- 民生委員さんが担当している訪問先を訪ねた所、もぬけの殻状態。団地の管理事務所（UR尾山台管理センター）に聞いても「空き家」としか答えられません、と言われました。個人情報保護法のため、回答ができないようですが、民生委員が何度も何度も安否確認に行っているのだから、せめて引っ越したのか、高齢者の施設にはいったのか、くらいは教えていただきたいです。そのように、市の方からUR浦和住まいセンターの方に申し入れをよろしくお願いします。
- 1. 一人一人が健康で豊かな人生を送るという主体的な自助努力、創意工夫が必要です。健康生活を維持継続する為の自己管理（例：規則正しい生活、自分の健康状態をチェックする等）の意識を高めることです。
  - 2. ライフステージ（乳幼児期、学童期、思春期、青年期、壮年期、高年期等）人生の節目によって変わるライフスタイルに着目した健康対策に取り組むことも大切です。
  - 3. 生産年齢人口の減少、法人市民税等の減少、介護医療ニーズの増大等に対して常に市民ファーストの市政を推進して戴くことが大切。